上黒土遺跡（第２次）発掘調査報告

― 度会郡玉城町山岡 ―

２０１９（平成31）年３月

三重県埋蔵文化財センター

例　言

1　本書は、平成29年度特定農業用管水路等特別対策事業（城田・下外城田地区）に伴い実施した上黒土遺跡の発掘調査報告書である。

2　調査地は、三重県度会郡玉城町山岡字上黒土に所在する。

3　発掘調査は、三重県教育委員会が三重県農林水産部から依頼を受けて実施した。発掘調査及び整理作業の経費は、文化庁国庫補助金を得て三重県教育委員会が一部負担し、他は三重県農林水産部から執行委任を受けた。

4　発掘調査期間は、平成30年１月22日～２月28日である。

5　発掘調査面積は、655㎡である。

6　発掘調査及び整理作業・報告書作成の体制は、以下のとおりである。

調査主体　三重県教育委員会

調査担当　三重県埋蔵文化財センター

調査研究１課　　主幹　　中川　明　　主事　大石知世　　技師　水谷侃司

活用支援課　　研修員　森　陽祐

7　本書の執筆は、Ｖ章を株式会社日鉄住金テクノロジーが行い、それ以外を水谷が行った。写真撮影・編集は水谷が行った。

8　発掘調査および整理作業に際しては、地元山岡・小社地区の方々をはじめ、下記の機関に御協力を賜った。記して感謝したい。三重県農林水産部、伊勢農林水産事務所（敬称略、順不同）

9　調査図面・写真・出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターが保管している。ご活用願いたい。

凡　例

1　本書では、国土地理院発行の1:50,000地形図「松阪」「答志」「伊勢」「鳥羽」、1:25,000地形図「伊勢」、三重県共有デジタル地図の1:2,500地形図（06PF642番）を用いた。

三重県共有デジタル地図は、三重県市町総合事務組合の承認を得て使用した（三総合地第１号）。

2　本書で用いた座標は世界測地系に基づくものである。方位は第Ⅵ座標系の座標北で示した。

3　標高は東京湾平均海水面（T.P.）を基準とした。

4　本書で用いる遺構略号は以下のとおりである。

ＳＢ：掘立柱建物　ＳＫ：土坑　ＳＤ：溝　　Pit：柱穴

5　土色の標記は、小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社、1967年初版）に拠った。遺物観察表における土器の色調表記もこれに従う。

6　器種を示す用語「つき」については「杯」に「わん」については「椀」に統一した。

7　遺物観察表の凡例は以下のとおりである。

・実測番号は当センター所蔵の遺物実測番号である。

・色調は標準土色帖の色名を記す。

・胎土の緻密さは、粗、やや粗、やや密、密の４段階である。

・焼成状態は、不良、やや不良、やや良、良好の４段階である。

8　写真図版中の遺物に付した番号は、各遺物の報告番号と対応する。遺物写真は縮尺不同である。

目　次

例言・凡例 …… i
目次 …… ii

Ⅰ　前言 …… 1
1　調査の経緯と経過 …… 1
2　調査の方法 …… 2

Ⅱ　位置と環境 …… 3
1　地理的環境 …… 3
2　歴史的環境 …… 3

Ⅲ　遺構 …… 6
1　調査概要と基本層序 …… 6
2　遺構 …… 12

Ⅳ　遺物 …… 23

Ⅴ　上黒土遺跡出土鉄滓の分析調査 …… 41
1　いきさつ …… 41
2　調査方法 …… 41
3　調査結果 …… 41
4　まとめ …… 42

Ⅵ　結語 …… 45
1　上黒土遺跡周辺の土地利用 …… 45
2　南勢地域の渥美焼流通 …… 45

挿図目次

第１図　遺跡位置図……４
第２図　調査区位置図……４
第３図　基本層序土層柱状図……６
第４図　１区調査区平面図……７
第５図　２区調査区平面図……８
第６図　３区調査区平面図……９
第７図　４区調査区平面図……10
第８図　５区調査区平面図……11
第９図　ＳＫ29平面図・エレベーション図　……12
第10図　遺構平面図・土層断面図①……13
第11図　遺構平面図・土層断面図②……14
第12図　遺構平面図・土層断面図③……15
第13図　遺構平面図・土層断面図④……17
第14図　遺構平面図・土層断面図⑤……18
第15図　遺構平面図・土層断面図⑥……19
第16図　遺構平面図・土層断面図⑦……20
第17図　出土遺物実測図①……23
第18図　出土遺物実測図②……24
第19図　出土遺物実測図③……25
第20図　出土遺物実測図④……26
第21図　出土遺物実測図⑤……27
第22図　出土遺物実測図⑥……29
第23図　出土遺物実測図⑦……30
第24図　出土遺物実測図⑧……31
第25図　出土遺物実測図⑨……32
第26図　椀形鍛冶滓の顕微鏡組織・EPMA調査結果……43
第27図　第Ⅰ期遺構分布図……46
第28図　第Ⅱ期遺構分布図……46
第29図　南勢地域における渥美焼出土遺跡分布図……48

表目次

第１表　遺構一覧表……22
第２表　出土遺物観察表①……34
第３表　出土遺物観察表②……35
第４表　出土遺物観察表③……36
第５表　出土遺物観察表④……37
第６表　出土遺物観察表⑤……38
第７表　出土遺物観察表⑥……39
第８表　出土遺物観察表⑦……40
第９表　供試材の履歴と調査項目……44
第10表　供試材の化学組成……44
第11表　出土遺物の調査結果のまとめ……44
第12表　南勢地域における渥美焼壺・甕類出土遺跡一覧表……48

写真図版目次

写真図版１（１区全景・遺構）……49
写真図版２（２区全景・遺構）……50
写真図版３（３区全景・遺構）……51
写真図版４（３区全景・遺構）……52
写真図版５（４区全景・遺構）……53
写真図版６（５区遺構）……54
写真図版７（５区全景・遺構）……55
写真図版８（出土遺物）……56
写真図版９（出土遺物）……57
写真図版10（出土遺物）……58
写真図版11（出土遺物）……59

Ⅰ　前　言

1　調査の経緯と経過

（1）調査に至る経緯

本書で報告する調査は、平成29年度特定農業用管水路等特別対策事業（城田・下外城田地区）に伴って実施した、埋蔵文化財の記録保存にかかるものである。当事業の主体は、三重県農林水産部、実施機関は、伊勢農林水産事務所農村基盤室である。

玉城町城田・下城田地区では、農業用水路パイプラインの付け替えに伴う工事が計画されており、周知の埋蔵文化財包蔵地である上黒土遺跡が事業地内に存在することが明らかになった。そのため、平成29年12月18日から20日にかけて範囲確認調査を実施した。調査は幅１ｍ、長さ２ｍの調査坑を27箇所設定した。そのうち13箇所の調査坑において、土坑・溝・柱穴等の遺構が地表化44～110㎝で確認された。

上記の範囲確認調査を受け、伊勢農林水産事務所と埋蔵文化財保護に関する協議を行ったが現状保存は困難であるとの結論に達した。そのため、伊勢農林水産事務所より労務提供を受け、本調査による記録保存調査を行うこととなった。

（2）第１次調査について

下外城田保育所の建設に伴い昭和60（1985）年に玉城町教育委員会によって発掘調査が実施された[1)]。調査はＡ地区（500㎡）・Ｂ地区（370㎡）の２つの調査区に分けて行われ、Ａ地区では、鎌倉時代前半の区画溝や掘立柱建物一棟が確認されている。確認された掘立柱建物は桁行６間、柱間2.0ｍで東に60度を示している。区画溝との距離が近いことから柵の可能性も指摘されている。

Ｂ地区では鎌倉時代前半の掘立柱建物三棟や土坑などが確認されている。確認された掘立柱建物はいずれも柱穴堀形の径が30～50㎝であるが、深さは40～50㎝としっかりとしている。掘立柱建物１は５間×２間の身舎の東西に庇が付く。柱間は、桁行と庇が2.0ｍ、梁行1.8ｍで棟方向は東に59度である。

掘立柱建物２は梁行２間の身舎に南面庇が付き柱間は2.1ｍで棟方向は東に52度である。掘立柱建物３は３間×３間以上の総柱建物で南北の柱間が1.8ｍ、東西の柱間が2.1ｍになる。棟方向は東に60度である。溝と建物の方向が一致しており、整然とした建物配置をもつ屋敷地の可能性が想定される。

出土遺物は、土師器の杯・皿・鍋、山茶椀、白磁などが出土している。

（3）調査の経過

調査期間は、平成30年１月22日～２月28日である。以下に調査日誌（抄）を記す。

調査日誌（抄）

［平成30（2018）年］

１月22日　調査開始
　　１区北西より掘削、柱穴・溝を検出
　　降雪のため14時頃作業終了
23日　Pit7から土師器甕など出土
　　０～40ｍ地点まで全景写真撮影
24日　平面図・土層断面図作成
　　１区（０～80ｍ）完了
25日　２区（１区との交差点より北東）掘削
　　SK04・SK05・SD06検出
　　SK04から鉄滓出土
26日　SK07・SD08検出
　　平面図作成・全景写真撮影
29日　２区（1区との交差点より南西）掘削
　　SK09・SK10・SD11・SK12検出、平面図作成
30日　１区（２区との交差点より南東）掘削
　　平面図作成・全景写真撮影
31日　３区（１区との交差点より南西）掘削
　　平面図作成・全景写真撮影
２月１日　掘削・平面図作成・写真撮影
２日　掘削・平面図作成・写真撮影
５日　３区（１区との交差点より北西）掘削
　　SK19・SK20・SD21・SK22検出
　　SK22より須恵器・渥美焼の甕が集中して出土・平面図作成・写真撮影
６日　掘削・平面図作成・写真撮影
７日　SB24掘削・掘立柱建物に伴う柱穴

（Pit22・24・38）で根石を確認
８日　掘削・SK29検出・平面図作成
９日　平面図作成・写真撮影
13日　掘削・平面図作成・写真撮影
14日　４区掘削
15日　掘削・平面図作成・写真撮影
16日　掘削・平面図作成・写真撮影
19日　掘削・平面図作成・写真撮影
20日　SK40～43検出掘削
平面図作成・写真撮影
21日　５区掘削・SK45・SD46から土器多数出土
22日　掘削・平面図作成
23日　SK48～50・SD51掘削
平面図作成・写真撮影
26日　掘削
27日　掘削・写真撮影
28日　５区図面作成
調査終了

２　調査の方法

（１）調査区の設定

調査区は直線区間ごとに区切り、遺跡の北西から１区～５区までの５地区を設定した。なお、１区・２区交差点部分に関しては一部未調査部分がある。

（２）掘削と記録保存

砕石層及び耕作土層は重機を利用し掘削を行い、遺構検出・遺構掘削は人力で行った。

遺構平面図・土層断面図は、当センター職員による手測りで作成した。なお、実測に用いた基準点は国土座標をもとに設定した。

写真の撮影には、一眼レフデジタルカメラを用いた。遺構写真は、ニコンD3300で撮影し、補助的にコンパクトデジタルカメラを用いた。

遺物写真は、ニコンD800Eを用いた。

（３）文化財保護法にかかる諸手続

本発掘調査に伴う埋蔵文化財の文化財保護法等に関係する法的措置は、以下のとおりである。

①文化財保護法第94条に基づく三重県文化財保護条例第48条第１項「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等の発掘通知書」（県教育委員会教育長あて三重県知事通知）
・平成29年10月25日付け、勢農第3297号

②文化財保護法第100条第２項に基づく「埋蔵文化財の発見・認定通知」（伊勢警察署長あて県教育委員会教育長通知）
・平成30年３月８日付け、教委第12－4424号

註

１）三重県玉城町史編纂委員会『三重県　玉城町史』上巻　玉城町　1995

Ⅱ　位置と環境

1　地理的環境

上黒土遺跡（1）は、三重県度会郡玉城町山岡に所在している。玉城町は伊勢平野の南部に位置し、北に明和町、東に伊勢市、南に度会町、西に多気町と境界を接している。

当該地域は、一級河川宮川とその支流汁谷川によって形成された河岸段丘と沖積平野からなる。宮川は全長約91kmと三重県内最長の長さで、上黒土遺跡の南東約1.5kmを南西から北東に向かって流れている。汁谷川は、上黒土遺跡の南を南西から北東へ流れ、約5.5km下流の伊勢市小俣町で宮川に合流し、伊勢湾に流出している。

上黒土遺跡は、汁谷川の左岸の河岸段丘上に位置しており、当該地域は汁谷川・宮川を利用した水上交通の利便性がよく、下流の伊勢神宮外宮への接続の良さから陸上交通発達以前においては、交通の要所となっていた。

2　歴史的環境

本節では、上黒土遺跡周辺の宮川下流域の遺跡について概観し、当該地域における歴史的環境の復元に努める。

旧石器時代　宮川流域は県内でも旧石器時代の遺跡の多い地域である。宮川左岸の段丘上に位置する上地山遺跡（2）では、ナイフ形石器を主体に船底形石器・掻器・楔形石器などの石器に石核・剥片が合わせて778点出土している[1)]。石材は、チャートを主体とし、サヌカイト・頁岩・下呂石が少量含まれる。明豆遺跡（3）、アレキリ遺跡（4）、岩出遺跡群（5）、佐八藤波遺跡（6）でもナイフ形石器が採集されており旧石器時代の人間活動の痕跡が見受けられる[2)]。

縄文時代　当該地域では縄文時代草創期から後期にかけての遺跡の分布がみられる。岩出遺跡群では、縄文時代草創期ごろの木葉形尖頭器やチャートの剥片が出土している[3)]。との山遺跡（7）・アレキリ遺跡では、縄文時代の石鏃が出土している[4)]。狼谷遺跡（8）では、縄文時代後期の土器・石器・剥片が採集されている[5)]。明豆遺跡では、縄文時代中・後期の土器・石器・剥片が出土しており、石材は、サヌカイト・チャート・黒曜石がみられる[6)]。宮川右岸の段丘上に位置する佐八藤波遺跡では、縄文時代後期から晩期にかけての土器や1万点を超える石鏃のほか石錘・敲石・磨石・石皿・磨製石斧・石錐・石棒・石刀・石剣・石冠・岩偶が採集されている[7)]。多量の遺物が採集されていることから、宮川下流域における縄文時代後・晩期の拠点集落の可能性がある。佐八藤波遺跡の下流約1.4kmには、中ノ越遺跡（9）があり、石鏃・削器・剥片・縄文土器片等が採集されている[8)]。

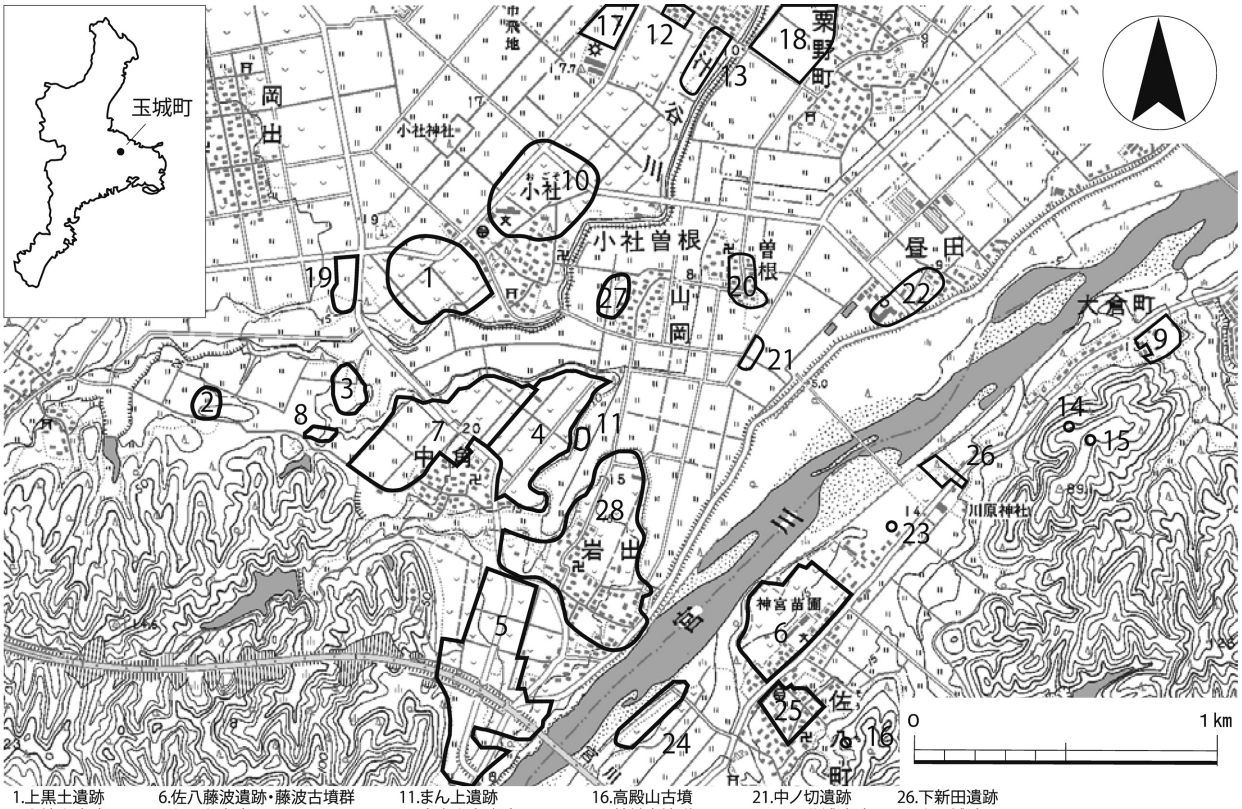
弥生時代　弥生時代は中期以降の遺跡の存在が確認されている。上地山遺跡では、弥生時代中期の竪穴建物4基が検出されている[9)]。弥生時代後期になると遺跡の数が増加し、小社遺跡（10）では、竪穴建物が22基見つかっており、出土した土器は畿内第Ⅴ様式後半並行のものであることから弥生時代終末期から古墳時代初めの集落跡と考えられる[10)]。また、まん上遺跡（11）、中楽山南遺跡（12）、まこも遺跡（13）からも弥生土器が出土している[11)]。

古墳時代　古墳時代になると宮川両岸段丘上に古墳が造られるようになる。宮川右岸の藤波古墳群（6）では、11基の円墳が見つかっている[12)]。他に小田古古墳1号墳（14）・小田古古墳2号墳（15）・高殿山古墳（16）があり、高殿山古墳からは直刀2本と6世紀後半の須恵器が出土している[13)]。

宮川左岸の岩出遺跡群では、6世紀から7世紀にかけての円墳14基、方墳7基、墳形不明2基の合計23基の古墳が見つかっている[14)]。

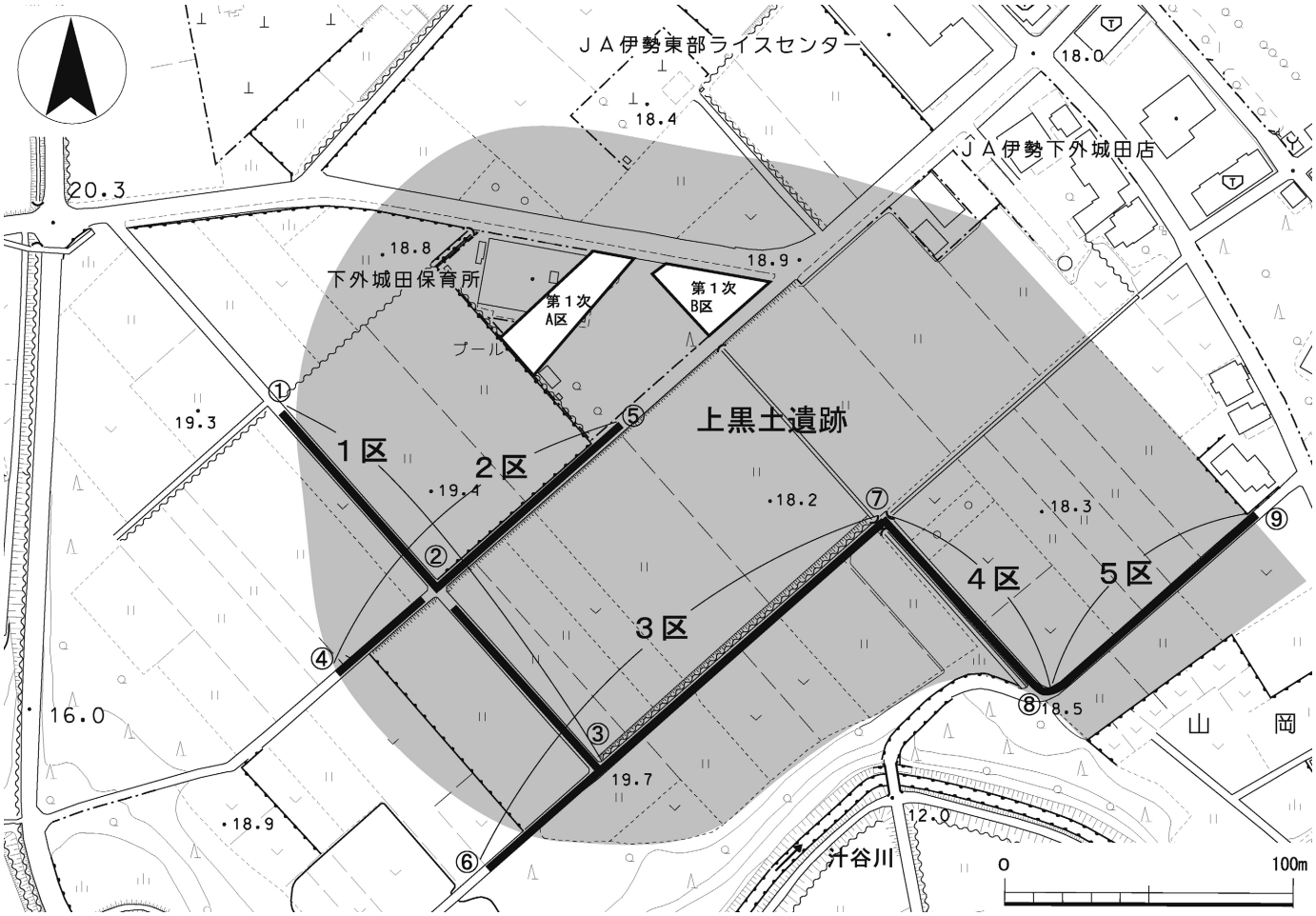
汁谷川左岸の林前古墳群（17）では、墳丘は消失しているが、大正時代に出土した遺物が神宮徴古館に収められており、6世紀後半から7世紀前半の須恵器が含まれている[15)]。また、小社遺跡では、石釧が採集されており、古墳時代前期の古墳が近くに存在する可能性がある[16)]。

古代　当該地域の古代の遺跡は少ないが、との山



1.上黒土遺跡
2.上地山遺跡
3.明豆遺跡
4.アレキリ遺跡
5.岩出遺跡群
6.佐八藤波遺跡・藤波古墳群
7.との山遺跡
8.狼谷遺跡
9.中ノ越遺跡
10.小社遺跡
11.まん上遺跡
12.中楽山南遺跡
13.まこも遺跡
14.小田古古墳１号墳
15.小田古古墳２号墳
16.高殿山古墳
17.林前古墳群
18.汁谷川東遺跡
19.杉山遺跡
20.里内遺跡
21.中ノ切遺跡
22.昼田北浦遺跡
23.中瀬古墳
24.土畑遺跡
25.元新畑遺跡
26.下新田遺跡
27.山岡城跡
28.岩出城跡

第１図　遺跡位置図（1：25,000）



第２図　調査区位置図（1：2,500）

遺跡・アレキリ遺跡では、飛鳥時代から奈良時代の竪穴建物や煮炊具一式を廃棄した大型土坑などが見つかっている[17]。

中世　岩出地域には、伊勢神宮祭主の宿館があったとされ、平安時代後期以降は京から岩出に移り住み室町末期まで岩出に居館を構えたとされている[18]。大中臣輔親が長保三（1001）年に祭主に任じられてから明応年間（1492～1501）頃まで「岩出殿」などと呼ばれる祭主の存在が確認できる。岩出遺跡群では、掘立柱建物・土坑・井戸・中世墓などが見つかり、山茶椀のほか多量の「南伊勢系土師器」の皿や鍋が出土している[19]。調査により判明した12世紀中葉から15世紀中葉にかけての集落について、岩出祭主館との関連が指摘されている[20]。

小社遺跡では、鎌倉時代の掘立柱建物１棟、土坑３基、溝数条が見つかり、土師器鍋や山茶椀が出土することから、鎌倉時代の集落があったものと思われる[21]。この他に宮川左岸では、汁谷川東遺跡（18）、杉山遺跡（19）、里内遺跡（20）、中ノ切遺跡（21）昼田北浦遺跡（22）などが知られている。

宮川右岸の中瀬中世墓（23）では、平安時代末から鎌倉時代初めの渥美焼の甕を用いた墓が見つかっている[22]。佐八藤波遺跡は、国指定重要文化財『伊勢新名所絵歌合』に記された「藤波の里」に比定されるとの指摘がある[23]。発掘調査では、山茶椀・土師器・青磁・白磁・金銅製椀・鉄釘・軽石・常滑焼甕などが出土したものの、祭主館跡と考えられる大規模な建物跡は見つからなかった[24]。他に中ノ越遺跡、土畑遺跡（24）、元新畑遺跡（25）下新田遺跡（26）で山茶椀・土師器が採集されている。

中世城館は、山岡城跡（27）、岩出城跡（28）がある。天正三（1575）年に織田信意（信長次男・後の信雄）が大河内城から田丸城に入城することになると、田丸城主であった田丸中務少輔直息は岩出に城を築き移った[25]。直息は小牧・長久手の戦いの後、田丸城主に復している。その後、牧村利貞・稲葉蔵人道通が岩出城主となるも関ケ原の戦い後、岩出城は廃城した。

註

１）玉城町教育委員会『上地山遺跡発掘調査報告書』1985

２）三重県教育委員会　三重県埋蔵文化財センター『近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査報告―第６分冊―蚊山遺跡左郡地区』1993
三重県玉城町史編纂委員会『三重県　玉城町史』上巻　玉城町　1995
伊勢市『伊勢市史』第６巻　考古編　2011

３）三重県教育委員会　三重県埋蔵文化財センター『近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査報告―第６分冊―蚊山遺跡左郡地区』1993

４）三重県玉城町史編纂委員会『三重県　玉城町史』上巻　玉城町　1995
三重県埋蔵文化財センター『との山・アレキリ遺跡（第１～３次）発掘調査報告』2018

５）三重県玉城町史編纂委員会『三重県　玉城町史』上巻　玉城町　1995

６）前掲註５）と同じ。

７）伊勢市『伊勢市史』第６巻　考古編　2011
田村陽一『宮川流域の遺跡を歩く』風媒社　2017

８）伊勢市『伊勢市史』第６巻　考古編　2011

９）前掲註１）と同じ。

10）前掲註５）と同じ。

11）前掲註５）と同じ。

12）前掲註８）と同じ。

13）前掲註５）と同じ。

14）前掲註３）と同じ。

15）前掲註５）と同じ。

16）前掲註５）と同じ。

17）三重県埋蔵文化財センター『との山・アレキリ遺跡（第１～３次）発掘調査報告』2018

18）前掲註５）と同じ。

19）前掲註３）と同じ。

20）伊藤裕偉「中世岩出の機能と位相」『Mie history』９号　三重歴史文化研究会　1998

21）前掲註５）と同じ。

22）前掲註５）と同じ。

23）前掲註８）と同じ。

24）伊勢市教育委員会『佐八藤波遺跡発掘調査報告』1990

25）三重県玉城町史下巻編纂委員会『三重県　玉城町史』下巻　2005

Ⅲ　遺　構

1　調査概要と基本層序

（1）概要

調査は、幅0.8m～１m、延長660mの範囲で行った。調査区は、農道の直線区間ごとに１区から５区まで設定した（第２図）。調査区が狭小であったこともあり、遺構の全体像が把握できるものはほとんど存在しなかったが、掘立柱建物や溝、土坑などの遺構を確認することができた。

土層断面図（第10～16図）は、原則として遺構平面図中の上部壁面を図化し、それ以外のものは実測箇所を図中に示した。

遺構の規模に関して遺構一覧表（第１表）に記し、遺構が調査区外へと続くものについては、土坑は長径、溝は幅のみを記載した。

（2）基本層序

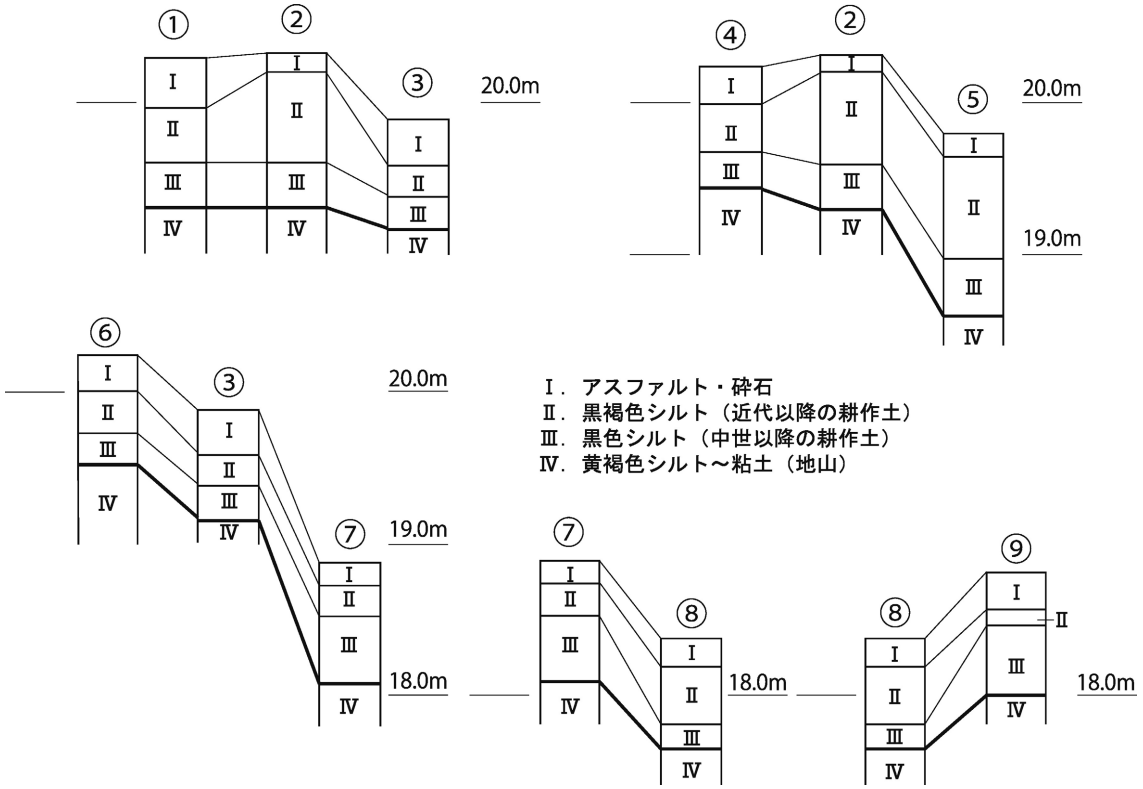
上黒土遺跡では、調査範囲の全域において共通する土層を確認することができた。基本層序となるのは以下の４層である。

Ⅰ層は、現道舗装のアスファルト及びそれに伴う砕石層である。砕石層の厚さは場所によって異なるものの、10～30cmである。

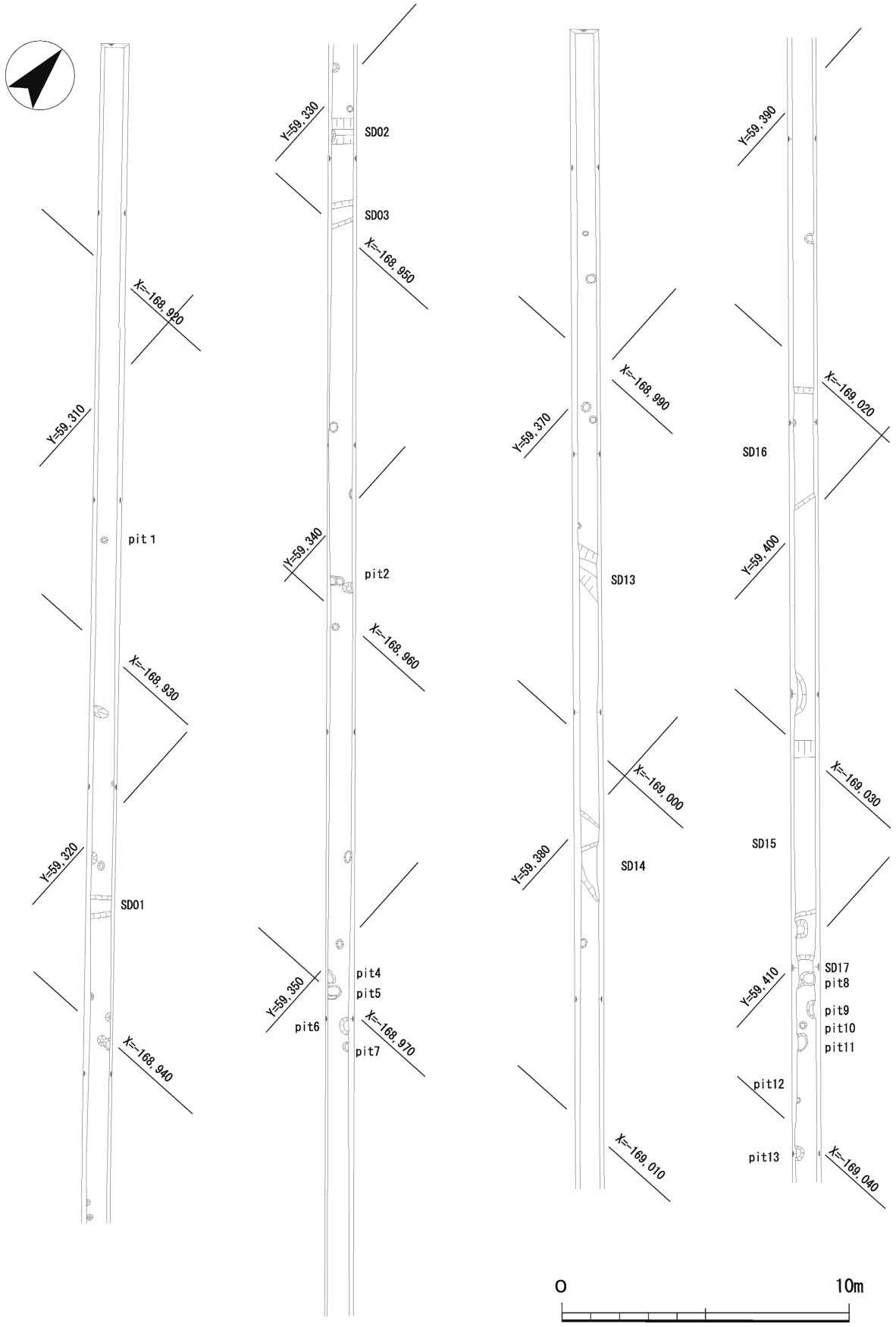
Ⅱ層は、黒褐色シルトで近代以降の耕作土層である。層中には、土師器の細片が含まれる他、近代以降の瓦、レンガ、ビニール片なども含まれている。厚さは約10～60cmである。

Ⅲ層は、黒色シルトで中世以降の耕作土層である。土師器片など中世以前の遺物包含層である。厚さは約10～40cmである。

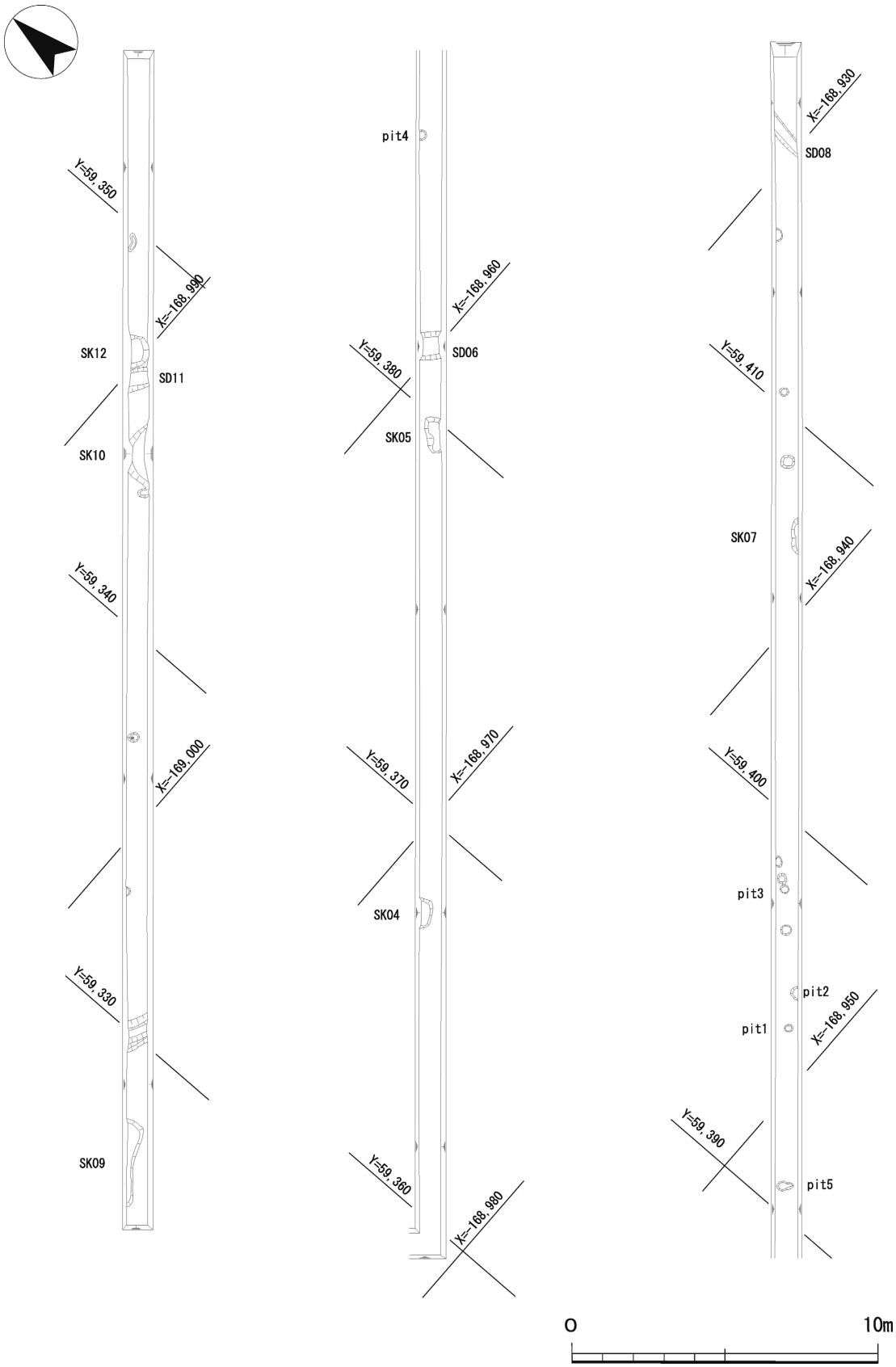
Ⅳ層は、黄褐色シルトから粘土または礫層で、基盤となる層である。中世以前の全ての遺構はⅣ層から切り込む形で形成されている。調査区の大部分はシルト質の土壌であったが、遺跡南部の４区（第３図⑦・⑧）においては、礫が主体となる箇所も見られた。Ⅳ層の標高は、遺跡の北西部で最も高く、標高約19.4mで南東部の汁谷川に向かって徐々に低くなりもっとも低い地点で、標高約17.6mである。



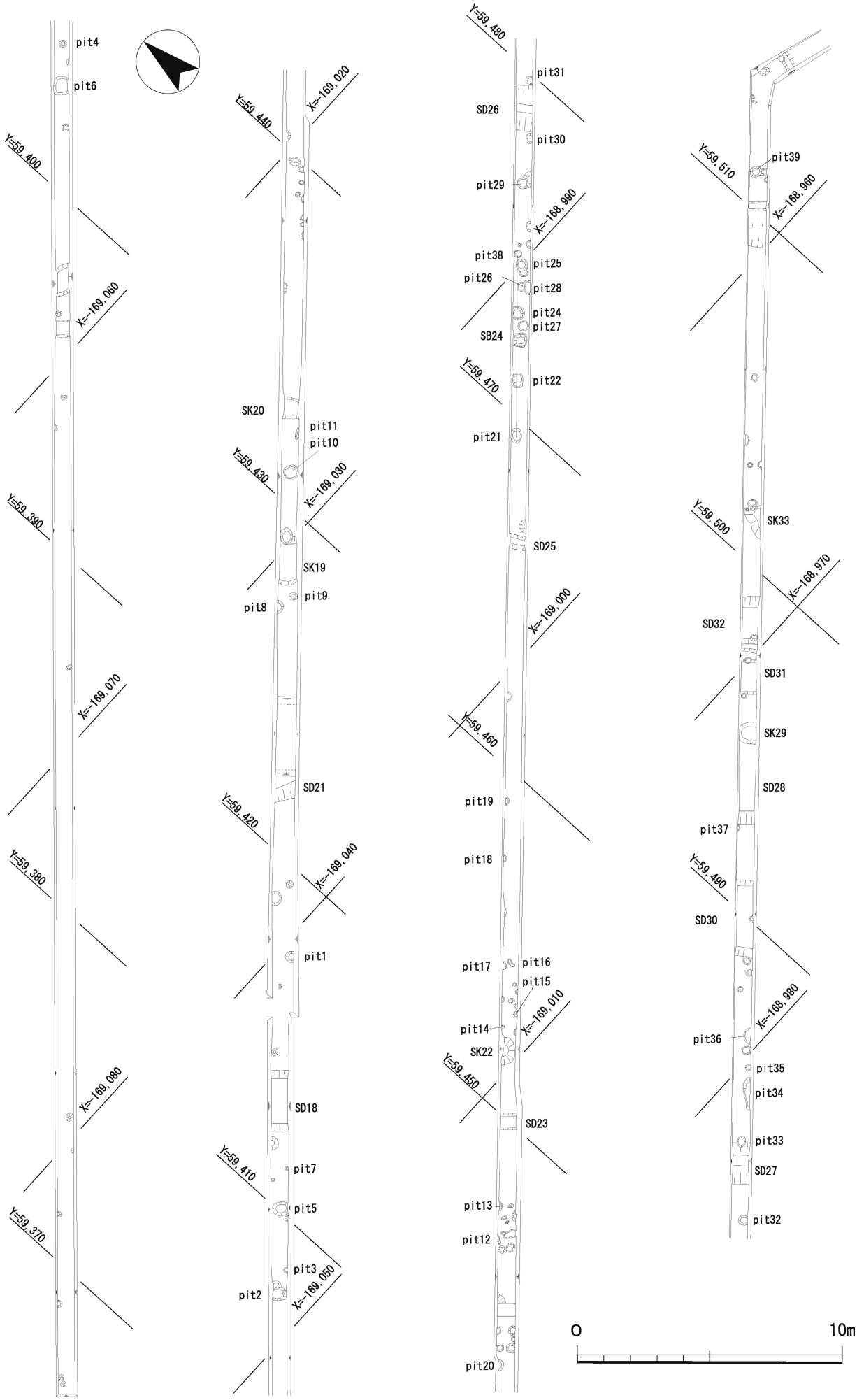
第３図　基本層序土層柱状図（1：50）



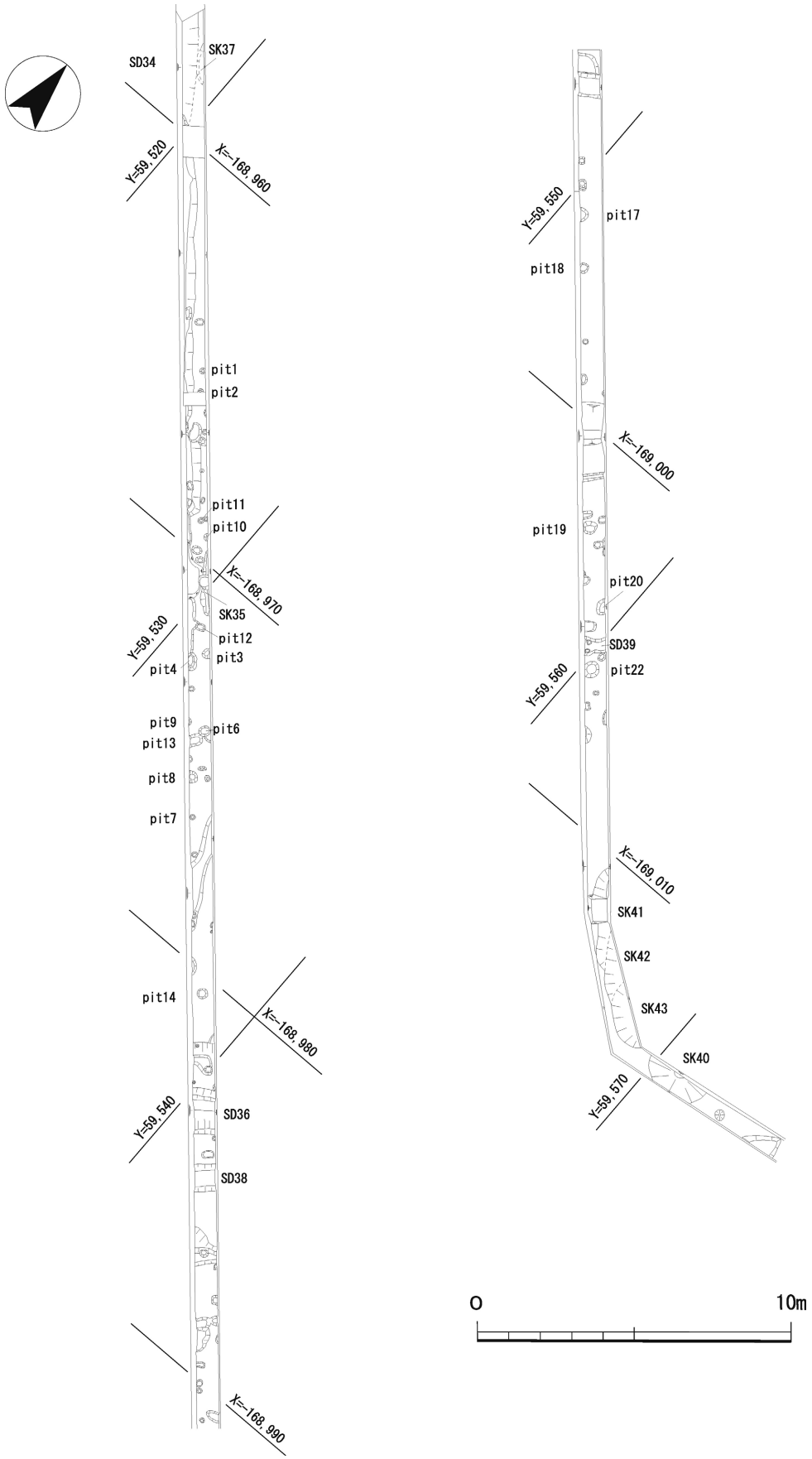
第４図　１区調査区平面図（1：200）



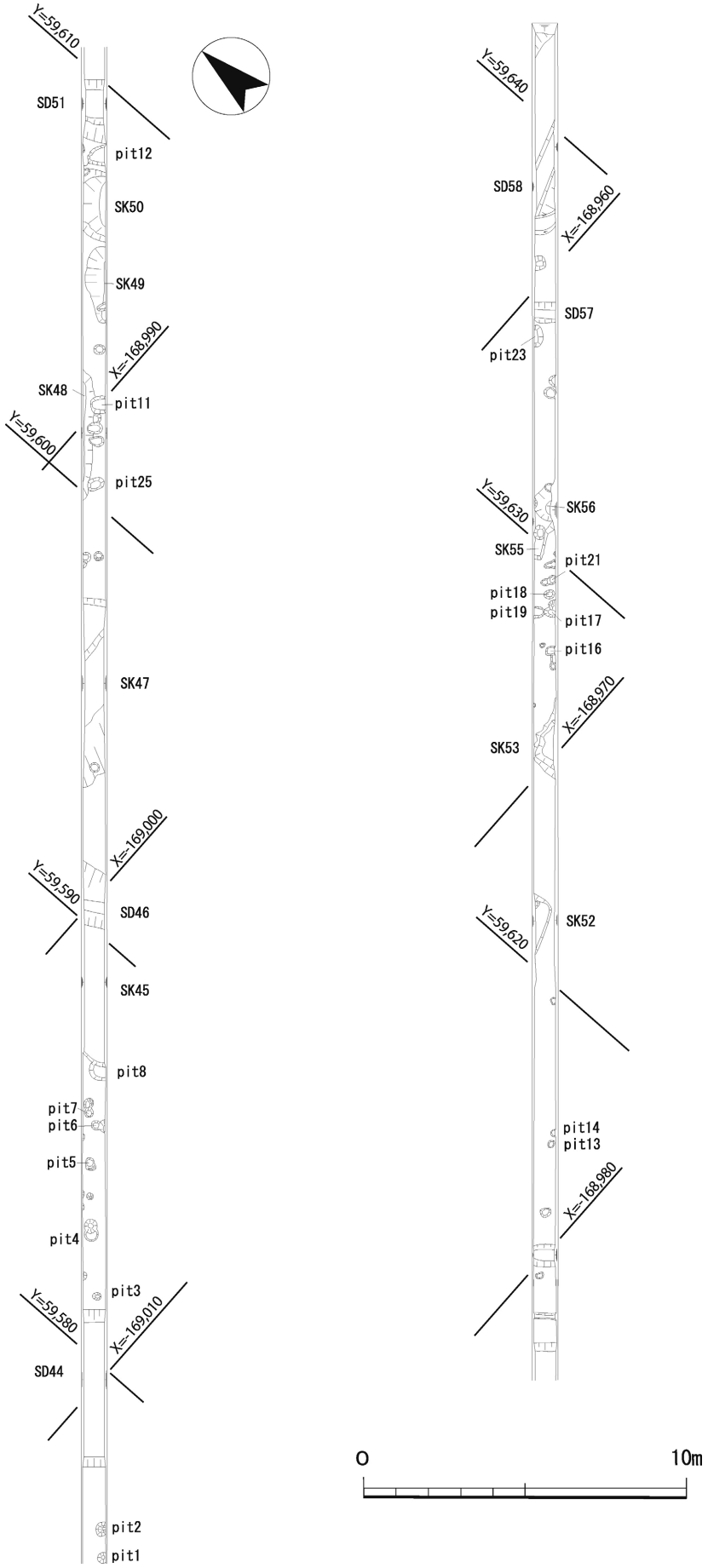
第５図　２区調査区平面図（1：200）



第６図　３区調査区平面図（1：200）



第７図　４区調査区平面図（1：200）



第８図　５区調査区平面図（1：200）

2　遺構

１区から５区まで各調査区で遺構が確認された。特に、遺跡南東部の３～５区においては濃密に遺構が分布していた。以下で各遺構について記述していく。

ＳＢ24　３区で検出された桁行３間、柱間2.4mの掘立柱建物で、棟方向は東に52度である。調査区内で確認された柱列は１列のみで、調査区の北西もしくは南東に続くものと考えられる。柱痕がはっきり確認されるものはなく、柱穴は径0.32～0.58mで根石を伴うものが３基確認された。Pit22・38では、根石の平坦面が水平方向であったが、Pit24では、平坦面が水平方向ではなかったため、遺構廃絶時に動いた可能性がある。周辺には、ＳＢ24以外の柱穴も多く、調査区外に続く他の掘立柱建物が存在する可能性も考えられる。柱穴からは、土師器皿が出土しており、平安時代後期の遺構と考えられる。

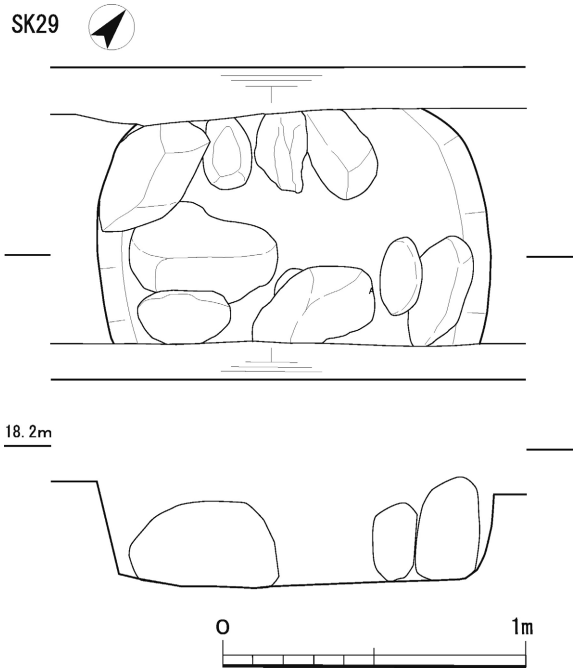
ＳＫ04　２区で検出された円形の土坑で、規模は長径1.03m、深さ0.30mである。遺物はロクロ土師器・鉄滓が出土しており、平安時代末の遺構と考えられる。

ＳＫ12　２区で検出された円形の土坑で、規模は長径1.08m、深さ0.60mである。南西に隣接するＳＤ11を切り込むように造られ、丸底の底部を有する。実測可能な遺物は出土しておらず、遺構の年代は不明であるが、ＳＤ11との重複関係からＳＤ11より新しい遺構である。

ＳＫ19　３区で検出された円形の土坑で、規模は長径1.84m、深さ0.25mである。埋土は単層で、平坦な底面を持つ。北東隅には、遺構埋没後に形成された柱穴が見られる。遺物は土師器皿・杯・ロクロ土師器・須恵器長頸瓶・山茶椀が出土しており、平安時代末の遺構と考えられる。

ＳＫ20　３区で検出された土坑で、規模は長径0.8m、深さ0.51mである。埋土は単層で、溝状の遺構である可能性もある。遺物は土師器皿・ロクロ土師器・山茶椀が出土しており、鎌倉時代の遺構と考えられる。

ＳＫ22　３区で検出された円形の土坑で、規模は長径1.04m、深さ0.48mである。遺構埋土中より須恵器甕・渥美焼の甕・広口壺がまとまって出土しており、廃棄土坑の可能性が考えられる。出土遺物から平安時代末の遺構と考えられる。



第９図　SK29平面図・エレベーション図（1：25）

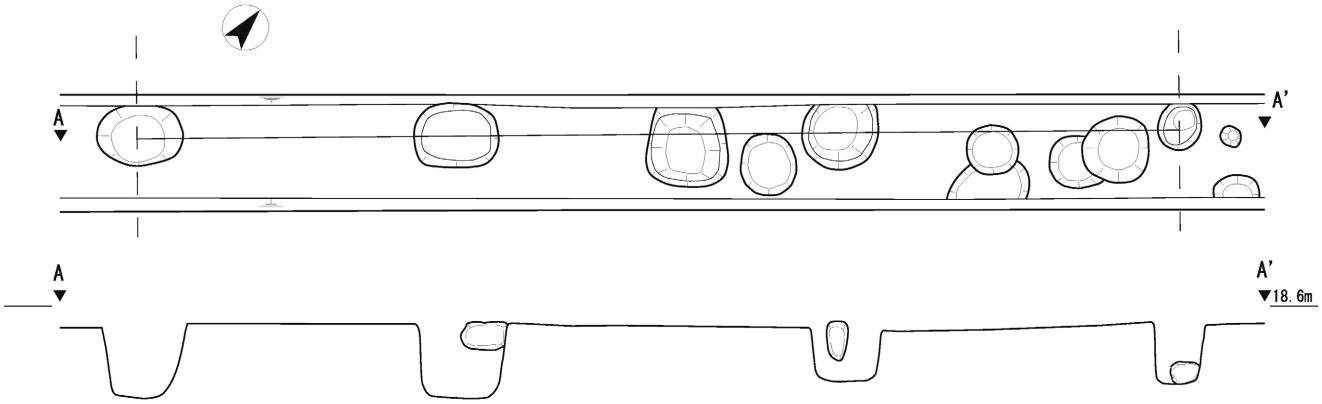
ＳＫ29　３区で検出された土坑で、規模は長径0.84m、深さ0.36mである。遺構埋土中から土器片などはほとんど出土せず、こぶし大～人頭大の礫が地山に突き刺さるように複数出土している。上黒土遺跡周辺の小社遺跡・岩出遺跡群では、墓と考えられる集石遺構が検出されており、ＳＫ29も墓である可能性もある。遺構の年代は不明である。

ＳＫ35　４区で検出された土坑で、規模は長径1.86m、深さ0.35mである。調査区内では遺構の端部のみ検出され、全体の形状は不明である。遺構埋没後に柱穴が形成されている。遺物は土師器皿・鍋が出土しており、室町時代の遺構と考えられる。

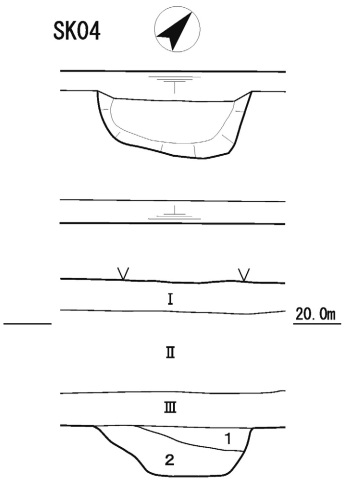
ＳＫ37　４区で検出された土坑で、規模は長径1.40m、深さ0.15mである。遺物の出土はなく、切り合い関係から、ＳＤ34より新しく、平安時代末以降の遺構と考えられる。

ＳＫ40　４区で検出された円形の土坑で、規模は長径2.16m、深さ1.05mである。遺物は土師器皿・鉢・甕・ロクロ土師器・山茶椀が出土しており、平安時代末の遺構と考えられる。

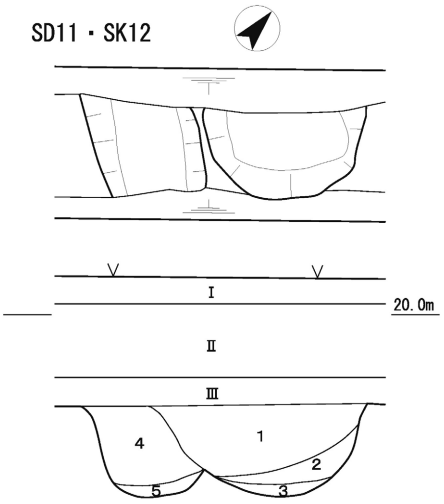
SB24　掘立柱建物（Pit21・Pit22・Pit24・Pit38）



※エレベーション図は掘立柱建物柱穴部分のみ抜粋

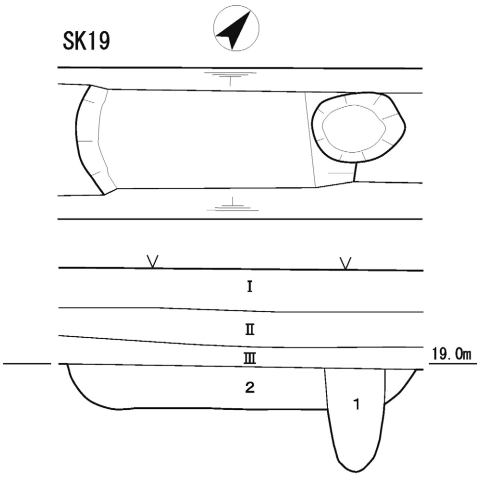


1．10YR3/2 黒褐色シルト +10YR6/4 にぶい黄橙色
2．10YR2/2 黒褐色シルト

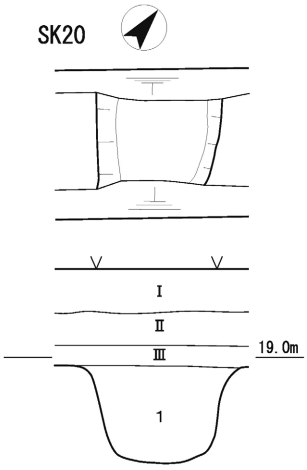


1．10YR2/2 黒褐色シルト
2．10YR2/3 黒褐色シルト
3．10YR4/2 灰黄褐色シルト
SK12

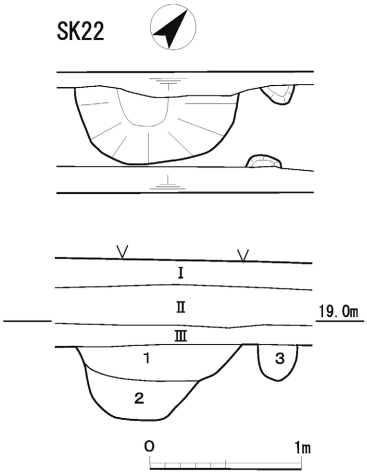
4．10YR2/3 黒褐色シルト
+10YR6/4 にぶい黄橙色粘土ブロック 5% 含む
5．10YR2/2 黒褐色シルト
+10YR6/4 にぶい黄橙色粘土ブロック 5% 含む
SD11



1．10YR3/2 黒褐色シルト +10YR5/2 灰黄褐色シルト 20% 含む ―― Pit
2．10YR3/3 暗褐色シルト～粘土 +10YR4/4 褐色シルト 10%含む ― SK19

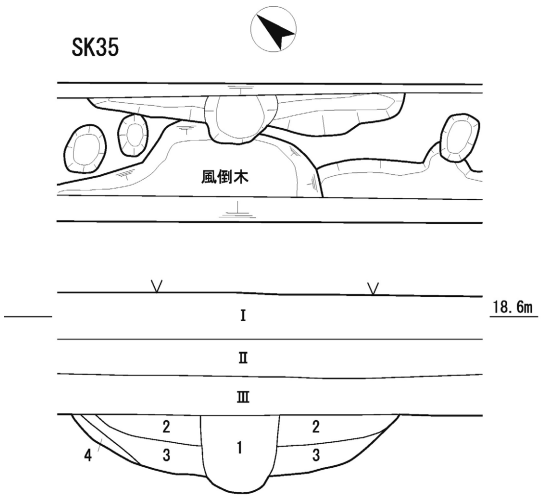


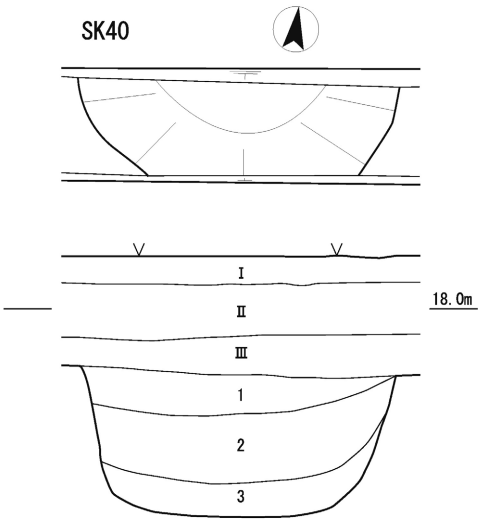
1．10YR2/2 黒褐色シルト
+10YR2/3 黒褐色シルト 10% 含む



1．10YR2/2 黒褐色シルト
2．10YR2/2 黒褐色シルト +10YR4/4 褐色シルト
3．10YR2/3 黒褐色シルト

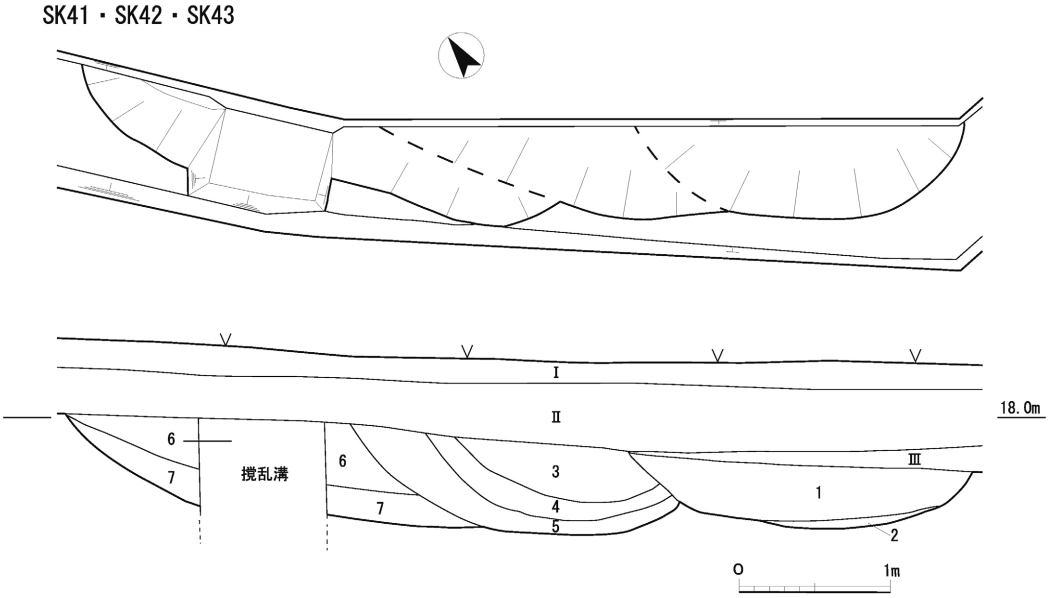
第10図　遺構平面図・土層断面図①（1：50）





1．10YR3/3 暗褐色シルト
+10YR4/4 褐色シルトブロック 20% 含む +1 ～ 5mm の砂粒 15% 含む — Pit
2．10YR3/2 黒褐色シルト +1 ～ 5mm の砂粒 10% 含む
3．10YR2/3 黒褐色シルト +1 ～ 3mm の砂粒 5% 含む SK35
4．10YR3/2 黒褐色極細砂 ～ シルト

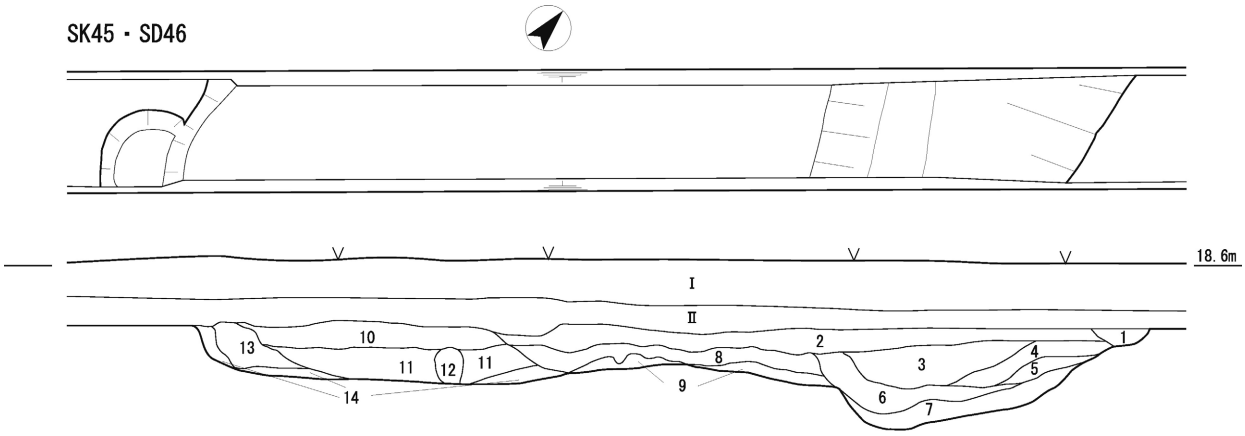
1．10YR3/2 黒褐色シルト +1 ～ 3mm の砂粒 10%含む
2．10YR2/2 黒褐色シルト
3．10YR3/3 暗褐色シルト +10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 5%含む



1．10YR3/3 暗褐色シルト +10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 5%+5mm ～ 1cm の砂粒 5%含む
2．10YR2/3 黒褐色シルト +1 ～ 5mm の砂粒 10%含む SK43
3．10YR3/4 暗褐色シルト～粘土 +1mm ～ 1cm の砂粒 5%含む
4．10YR3/2 黒褐色シルト +5mm の砂粒 10%含む
5．10YR4/3 にぶい黄褐色シルト +10YR5/6 黄褐色シルトブロック 10%+1 ～ 5mm の砂粒 5%含む SK42
6．10YR3/2 黒褐色シルト +10YR5/6 黄褐色シルト 5%含む +10YR2/1 黒色シルト 5%含む
7．7.5YR1.7/1 黒色シルト +5mm ～ 2cm の礫 15%含む SK41

第11図　遺構平面図・土層断面図②（1：50）

SK45・SD46



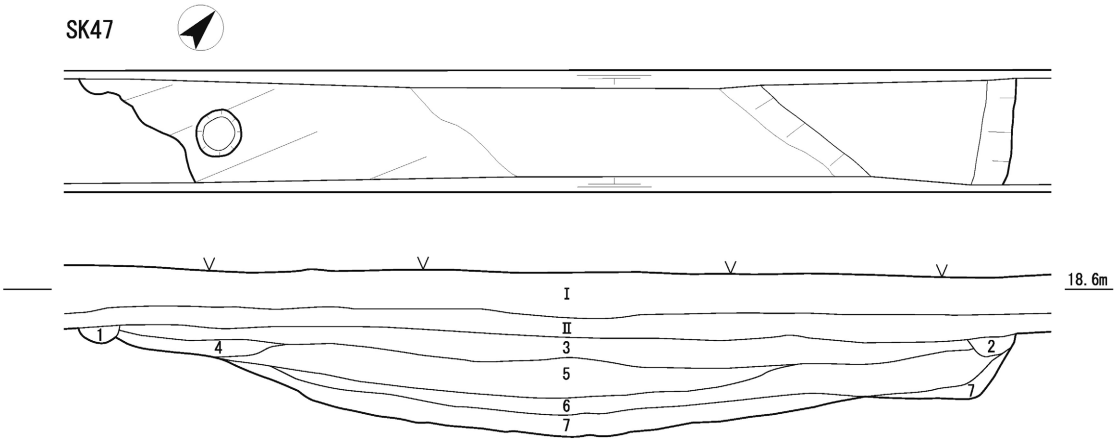
1．10YR1.7/1 黒色シルト +10YR2/2 黒褐色シルト
2．10YR2/2 黒褐色シルト
3．7.5YR2/2 黒褐色シルト
4．10YR1.7/1 黒色シルト
5．10YR2/1 黒色シルト +10YR6/6 明黄褐色シルト 30%含む
6．10YR2/2 黒褐色シルト +5cm の礫 5%含む
7．10YR3/2 黒褐色シルト +10YR5/6 黄褐色シルト 5%含む

SD46

8．10YR2/2 黒褐色シルト
9．10YR2/2 黒褐色シルト +10YR5/6 黄褐色シルト 10%
10．10YR2/2 黒褐色シルト +10YR3/3 暗褐色シルト 5%
11．10YR2/1 黒色シルトしまりなし
12．10YR2/1 黒色シルト +10YR4/4 褐色シルト 40%含む
13．10YR1.7/1 黒色シルトしまりあり
14．10YR3/2 黒褐色シルト +10YR5/6 黄褐色シルト 40%含む

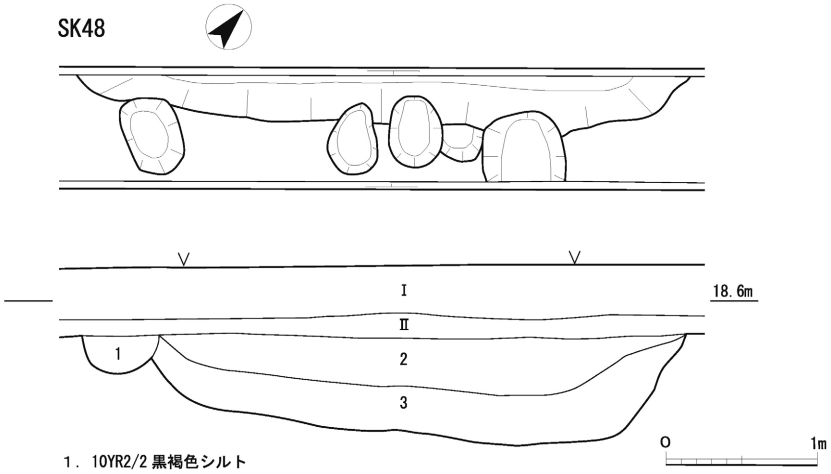
SK45

SK47



1．10YR2/3 黒褐色シルト +1cm 大の礫 5%含む
2．10YR3/2 黒褐色シルト +10YR4/4 褐色シルト 10%
3．10YR2/2 黒褐色シルト（土器を多く含む）
4．10YR2/2 黒褐色シルト +10YR4/4 褐色シルト 5%含む
5．10YR1.7/1 黒色シルトしまりあり +1 ～ 3mm の砂粒 5%含む
6．10YR1.7/1 黒色シルト
7．10YR2/3 黒褐色シルト +10YR4/4 褐色シルトブロック 40%含む

SK48



1．10YR2/2 黒褐色シルト
2．10YR1.7/1 黒色シルトしまりあり
3．10YR2/1 黒色シルト +10YR4/3 にぶい黄褐色シルトブロック 5%含む

SK48

第12図　遺構平面図・土層断面図③（1：50）

ＳＫ41　４区で検出された土坑で、規模は長径3.48m以上、深さ0.72mである。遺物は土師器皿・甕が出土している。ＳＫ42との重複関係からＳＫ42より古い遺構である。

ＳＫ42　４区で検出された土坑で、規模は長径2.40m以上、深さ0.69mである。ロクロ土師器が出土しており、平安時代後期の遺構と考えられる。ＳＫ43との重複関係からＳＫ43より古い遺構である。

ＳＫ43　４区で検出された土坑で、規模は長径2.08m以上、深さ0.41mである。遺物の出土はないが、ＳＫ42との重複関係からＳＫ42より新しい遺構である。

ＳＫ45　５区で検出された土坑で、規模は長径6.54m以上、深さ0.29mである。平底状の遺構で、遺構の東側をＳＤ４６によって切られている。埋土中に土師器・須恵器などの土器片を多量に含んでいた。奈良時代末から平安時代初めにかけての遺構と考えられる。

ＳＫ47　５区で検出された不整形な土坑で、規模は長径5.00m、深さ0.61mである。遺構の立ち上がりは南西側で弱く、北東側で強い。遺構埋土中には下層に比べ上層に多くの土器が含まれていた。遺物は土師器皿・杯・甕・甑・須恵器杯・長頸瓶が出土しており、奈良時代末から平安時代初めにかけての遺構と考えられる。

ＳＫ48　５区で検出された土坑で、規模は長径3.52m、深さ0.65mである。遺物は土師器皿・甕・須恵器甕が出土しており、平安時代前期の遺構と考えられる。

ＳＤ01　１区で検出された溝で、規模は幅0.80m、深さ0.22mである。遺構埋土は単層で土師器甕が出土しており、鎌倉時代の遺構と考えられる。

ＳＤ03　１区で検出された溝で、規模は幅0.84m、深さ0.35mである。土層断面の観察から掘り直しのあるものと考えられる。遺物は土師器甕が出土しており、平安時代末の遺構と考えられる。

ＳＤ06　２区で検出された溝で、規模は幅0.94m、深さ0.77mである。垂直方向に深く掘られた遺構で、土層断面の観察から掘り直しのあるものと考えられる。遺物は土師器皿・杯・山茶椀が出土しており、平安時代末から鎌倉時代にかけての遺構と考えられる。

ＳＤ11　２区で検出された溝で、規模は幅0.70m、深さ0.60mである。遺構の立ち上がりは急で、丸底の底部を有する。遺物は土師器甕・ロクロ土師器・山茶椀が出土しており、平安時代末から鎌倉時代にかけての遺構と考えられる。

ＳＤ13　１区で検出された溝で、規模は幅2.10m、深さ0.37mである。遺構埋土は単層で、比較的平らな底面を持つ。遺物は土師器皿が出土しており、平安時代中期の遺構と考えられる。

ＳＤ14　１区で検出された溝で、規模は幅2.00m、深さ0.53mである。遺物は土師器皿・ロクロ土師器が出土しており、平安時代後期の遺構と考えられる。

ＳＤ15　１区で検出された溝で、規模は幅6.10m、深さ0.30mである。遺構埋土は単層で、平坦な底面を持つ。大きい土坑の可能性もある。遺物は少量であるが、土師器皿・杯・甕が出土している。平安時代中期から後期にかけての遺構と考えられる。

ＳＤ16　１区で検出された溝で、規模は幅3.80m、深さ0.30mである。遺構埋土は単層で、平坦な底面を持つ。土坑の可能性もある。遺物は土師器の小片が出土している。遺構の年代は不明である。

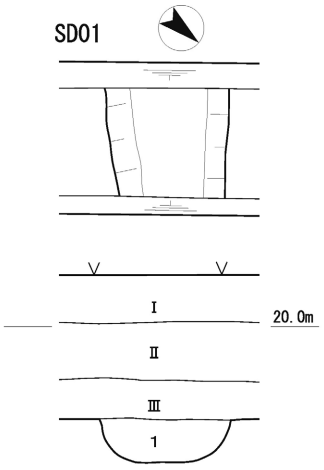
ＳＤ17　１区で検出された溝で、規模は幅1.00m、深さ0.24mである。遺物は灰釉陶器・山茶椀が出土しており、平安時代末の遺構と考えられる。

ＳＤ18　３区で検出された溝で、規模は幅2.30m、深さ0.15mである。埋土は単層で、平坦な底面を持つ。遺物は土師器皿・甕の小片が出土している。遺構の年代は不明である。

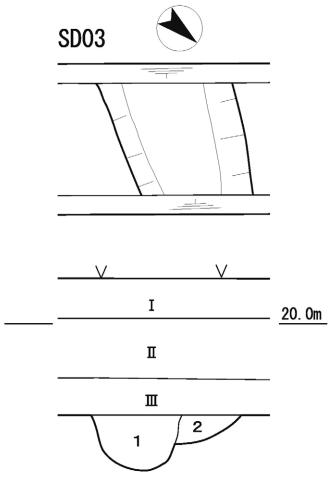
ＳＤ23　３区で検出された溝で、規模は幅0.64m、深さ0.11mである。比較的浅い溝で、埋土から土師器皿が出土している。遺構の年代は不明である。

ＳＤ26　３区で検出された溝で、規模は幅1.70m、深さ0.77mである。丸底の底面を持つ比較的大きめの溝である。遺物の出土量は少なく、土師器皿、椀が出土している。遺構の年代は不明である。

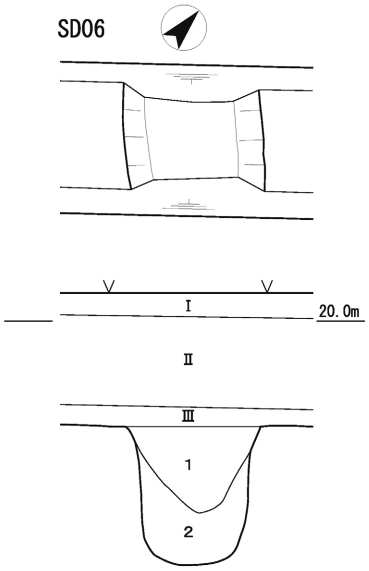
ＳＤ27　３区で検出された溝で、規模は幅1.60m、深さ0.74mである。丸底の底面を持つ比較的大きめの溝である。遺物は土師器甕・ロクロ土師器皿の破片が少量出土している。遺構の年代は不明であ



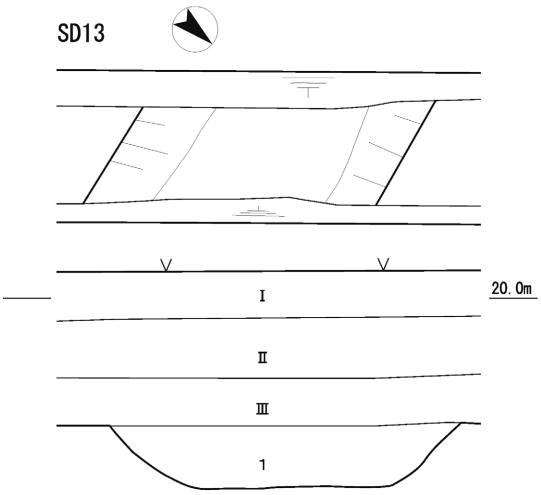
1．10YR2/2 黒褐色シルト
+10YR6/4 にぶい黄色粘土ブロック 5% 含む



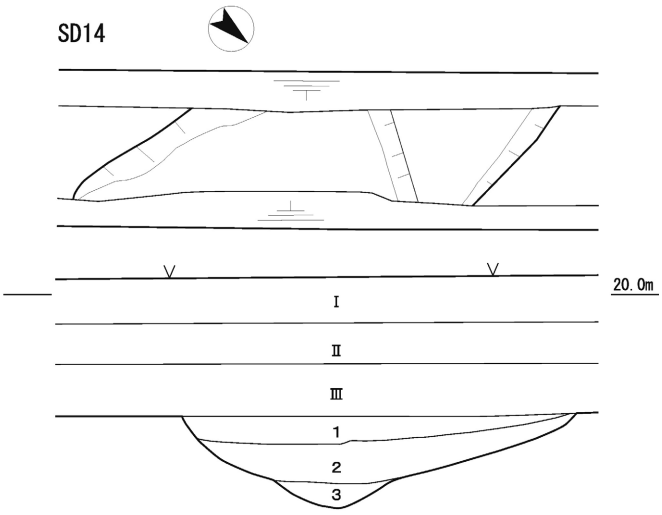
1．10YR2/2 黒褐色シルト
+10YR6/4 にぶい黄色粘土ブロック 5% 含む
2．10YR3/2 黒褐色シルト
+10YR6/4 にぶい黄色粘土ブロック 5% 含む



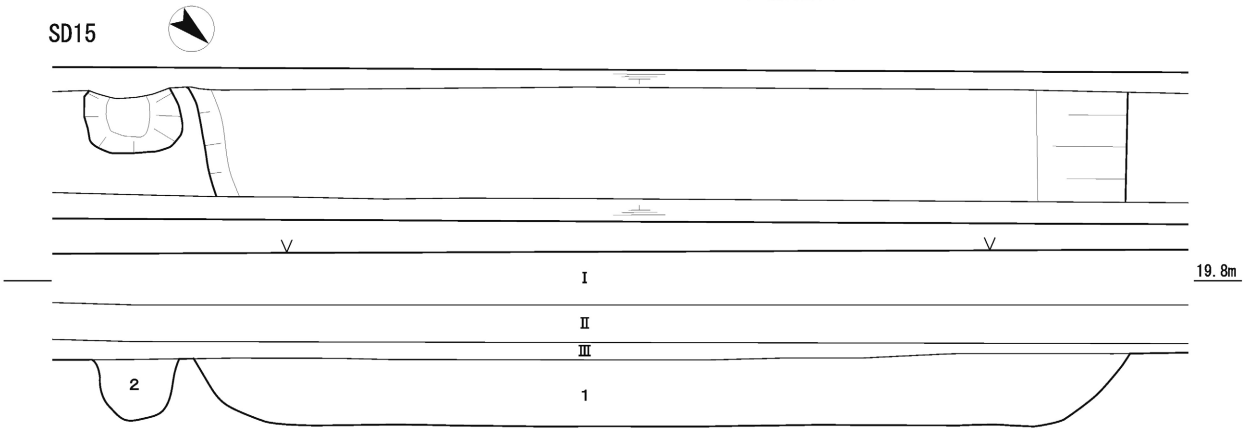
1．10YR2/1 黒色シルト
2．10YR3/2 黒褐色シルト
+10YR6/4 にぶい黄橙色粘土ブロック 15% 含む



1．10YR3/2 黒褐色シルト



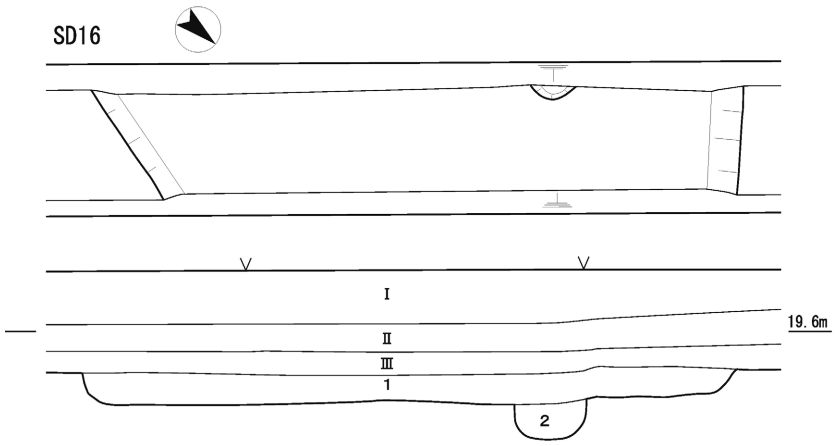
1．7.5YR1.7/1 黒色シルト +10YR2/2 黒褐色シルト 10% 含む
2．10YR3/2 黒褐色シルト +10YR6/4 にぶい黄橙色シルトブロック 5% 含む
3．10YR2/2 黒褐色シルト



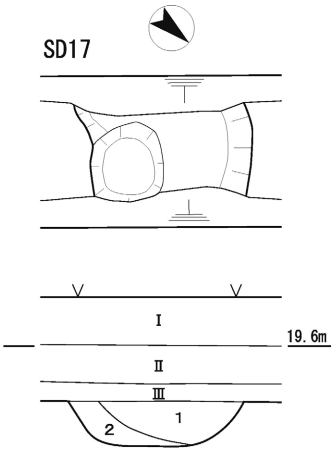
1．10YR2/3黒褐色シルト
2．10YR2/3黒褐色シルト+10YR4/3にぶい黄橙色シルトブロック20%含む

0　1m

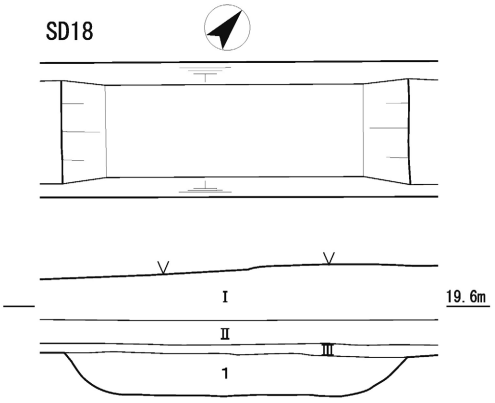
第13図　遺構平面図・土層断面図④（1：50）



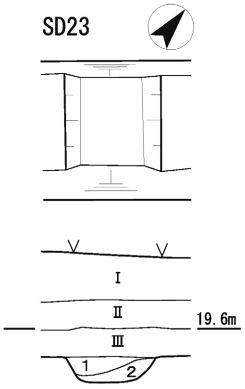
1．10YR2/2 黒褐色シルト +10YR4/4 褐色シルト 5% 含む
2．10YR3/2 黒褐色シルト +10YR4/4 褐色シルトブロック 3% 含む



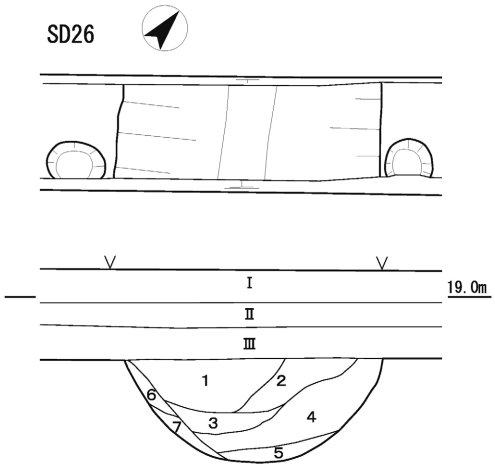
1．10YR3/3 黒褐色シルト
2．10YR3/2 黒褐色シルト



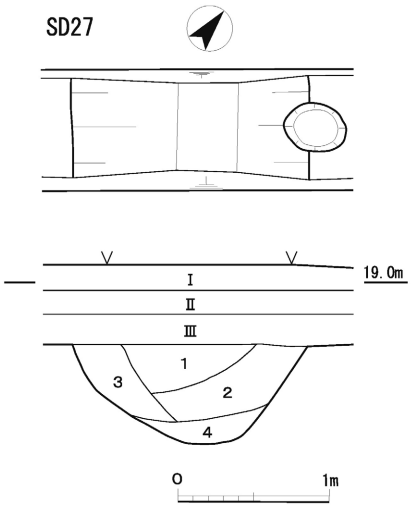
1．10YR3/2 黒褐色シルト +10YR2/2 黒褐色極細粒砂 5% 含む



1．10YR2/1 黒色シルト
2．10YR2/2 黒褐色シルト
+10YR5/4 にぶい黄褐色シルトブロック 5%含む

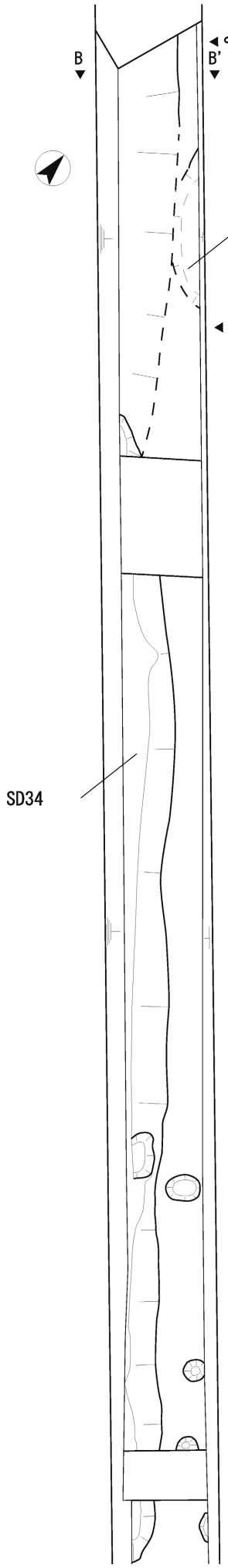


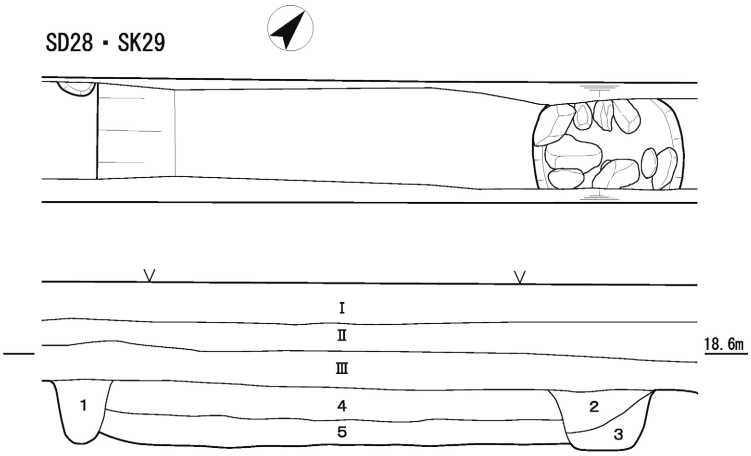
1．10YR3/2 黒褐色シルト +10YR4/4 褐色シルト 2% 含む
2．10YR2/2 黒褐色シルト +10YR 褐色シルト 5% 含む
3．10YR2/2 黒褐色シルト
4．10YR2/3 黒褐色シルト +10YR4/4 褐色シルト 10%
+10YR3/2 黒褐色シルト 5% 含む
5．10YR5/1 褐灰色シルト＋10YR4/4 褐色シルト 10%含む
6．10YR3/2 黒褐色シルト＋10YR3/3 暗褐色シルト 20%含む
7．10YR2/2 黒褐色シルト＋10YR3/2 黒褐色シルト 20%含む



1．10YR2/2 黒褐色シルト +10YR3/3 暗褐色シルト 10% 含む
2．10YR2/1 黒色シルト
3．10YR2/2 黒褐色シルト +10YR3/4 暗褐色シルト 5%
+10YR4/4 褐色シルト 5% 含む
4．10YR2/1 黒色シルト +10YR4/4 褐色シルト 10% 含む

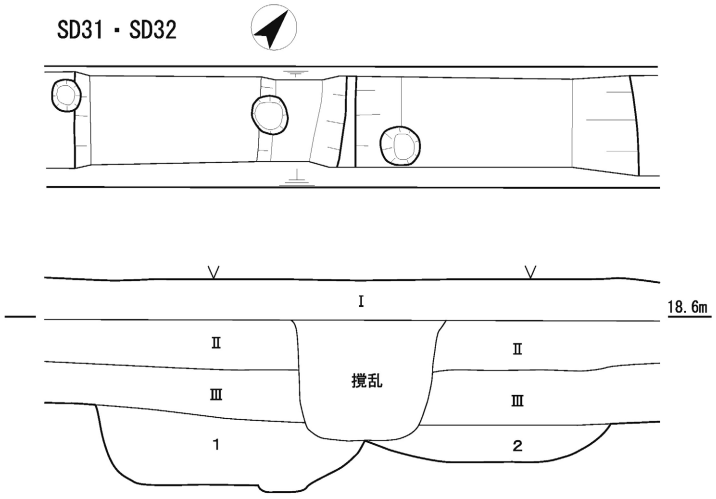
第14図　遺構平面図・土層断面図⑤（1：50）



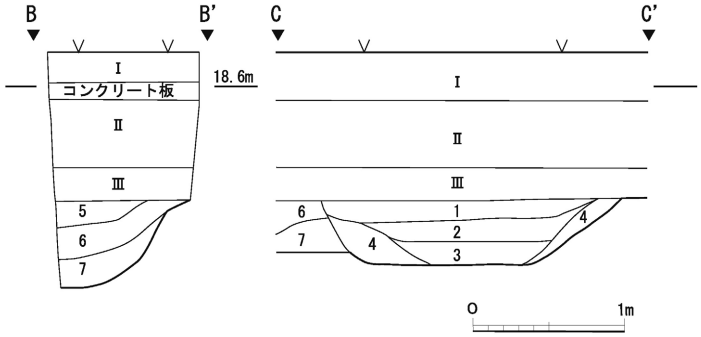


1．10YR2/3　黒褐色シルト
2．10YR2/2　黒褐色シルト＋20～30cm大の礫を含む
3．10YR3/3　暗褐色シルト
4．10YR2/3　黒褐色シルト＋10YR3/3 暗褐色シルト 5%含む
5．10YR2/2　黒褐色シルト＋10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 10%含む

SD28
SK29



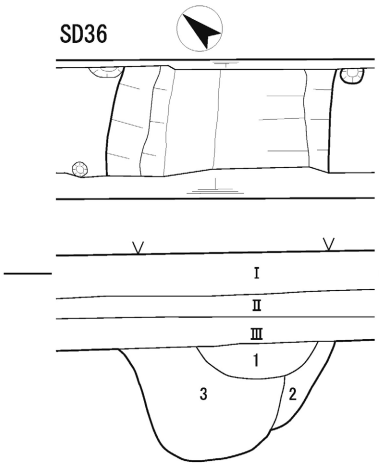
1．10YR2/2 黒褐色シルト +5～10cm の礫 10%含む　SD31
2．10YR2/1 黒色シルト　SD32



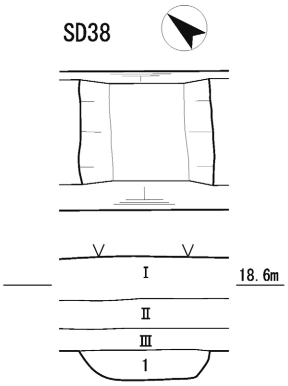
1．10YR2/2 黒褐色シルト～粘土しまりあり
2．10YR2/2 黒褐色シルト +10YR4/4 褐色シルトブロック 10% 含む +1～3mm の砂粒 5% 含む
3．10YR1.7/1 黒色シルト～粘土 +10YR4/4 褐色シルト 5% 含む
4．10YR2/2 黒褐色シルト +10YR4/4 褐色シルトブロック 5% 含む
5．10YR3/2 暗褐色シルト +10YR4/4 褐色シルトブロック 20% 含む
6．10YR2/2 黒褐色シルト +10YR4/4 褐色シルト 5% 含む
7．10YR2/3 黒褐色シルト +10YR4/4 褐色シルト 15% 含む

SK37
SD34

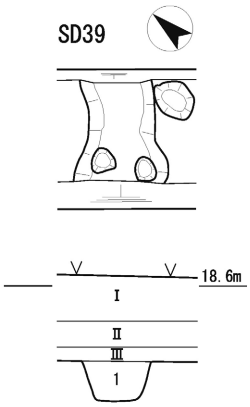
第15図　遺構平面図・土層断面図⑥（1：50）



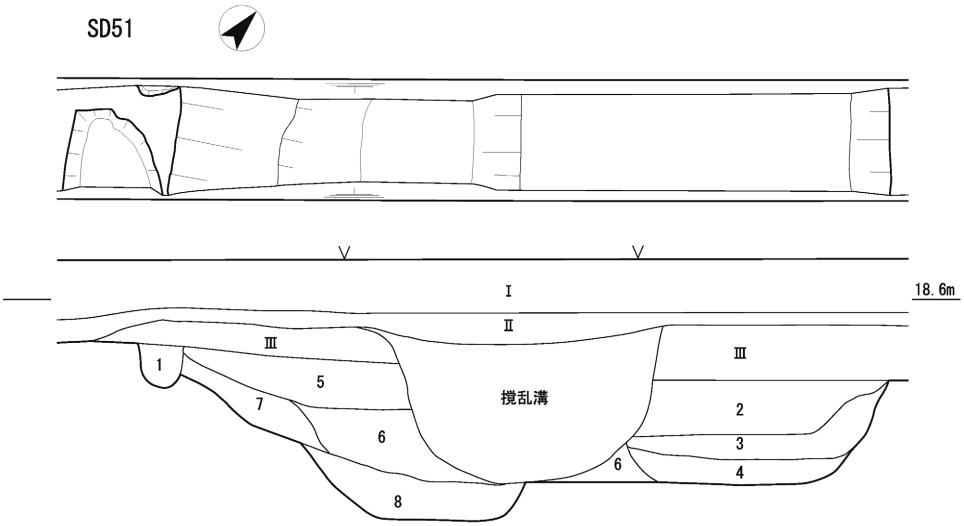
1．10YR2/3 黒褐色極細砂～シルト
　+10YR5/4 にぶい黄橙色シルトブロック 20%含む
2．10YR2/2 黒褐色シルト＋炭化物 1%含む
3．10YR3/3 暗褐色シルトしまりあり
　+1 ～ 3mm の砂粒 5%含む



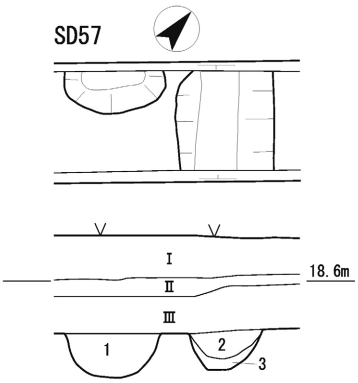
1．10YR4/3 にぶい黄橙色シルト
　+1 ～ 3mm の砂粒 10%含む



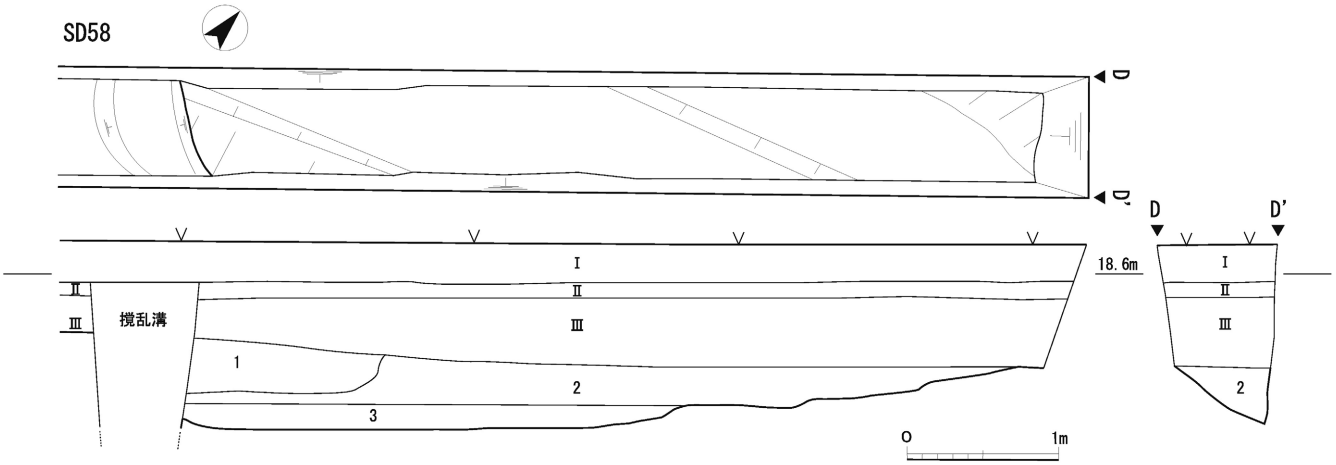
1．10YR2/3 黒褐色シルト
　+10YR3/3 暗褐色シルト 10%含む



1．10YR1.7/1 黒色シルト
2．10YR3/2 黒褐色シルト +10YR5/6 黄褐色シルトブロック 50%含む
3．10YR1.7/1 黒色シルトしまりあり
4．10YR2/2 黒褐色シルト +10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 10%含む
5．7.5YR2/1 黒色シルト +10YR3/2 黒褐色シルト 5%含む
6．10YR2/1 黒色シルトしまりあり
7．10YR2/2 黒褐色シルト +10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 20%含む
8．10YR2/2 黒褐色シルトしまりあり



1．10YR2/3 黒褐色シルト
2．10YR1.7/1 黒色シルトしまりなし
3．10YR2/2 黒褐色シルト
　+10YR4/4 褐色シルト 40%含む
SD57



1．10YR2/3 黒褐色シルト +10YR4/4 褐色シルトブロック 5%含む
2．10YR2/2 黒褐色シルト（土器出土層）
3．10YR2/3 黒褐色シルト +10YR5/6 黄褐色シルトブロック 20%含む

第16図　遺構平面図・土層断面図⑦（1：50）

る。

ＳＤ28　３区で検出された溝で、規模は幅3.80ｍ、深さ0.38ｍである。平らな底面を持ち、北東側をＳＫ29によって切られている。土坑の可能性も考えられ、遺物は土師器甕・皿の小片が出土している。遺構の年代は不明である。

ＳＤ31　３区で検出された溝で、規模は幅1.70ｍ、深さ0.57ｍである。遺構の立ち上がりは、南西部が急で北東部がなだらかな形状となっている。遺構埋土は単層で、遺物が層中満遍なく出土している。遺物は土師器皿・杯・甕・ロクロ土師器・須恵器甕が出土しており、平安時代後期の遺構と考えられる。

ＳＤ32　３区で検出された溝で、規模は、幅1.80ｍ、深さ、0.22ｍである。ＳＤ31より浅く、埋土中の土器の量は少なかった。ＳＤ31との先後関係は、遺構上面が現代の水路により攪乱を受けていたため断定はできないが、出土遺物からＳＤ32の方がやや新しいのではないかと考えられる。遺物は土師器皿・ロクロ土師器皿・山茶椀・陶器甕の小片が出土しており、平安時代後期から末にかけての遺構と考えられる。

ＳＤ34　４区で検出された北西方向から南東方向にかけての溝で、規模は幅0.60ｍ以上、深さ0.33ｍである。調査区内で確認された部分から少なくとも13ｍ以上の長さがあるものと考えられる。遺物は土師器皿・甕・須恵器・山茶椀が出土しており、平安時代末の遺構と考えられる。

ＳＤ36　４区で検出された溝で、規模は幅1.44ｍ、深さ0.75ｍである。丸底の底面を持ち、埋土から掘り直しが行われているものと考えられる。遺物は土師器皿・杯・山茶椀が出土しており、平安時代末の遺構と考えられる。

ＳＤ38　４区で検出された溝で、規模は幅0.86ｍ、深さ0.14ｍである。遺構埋土は単層で、比較的浅い溝である。遺物は土師器皿が出土している。遺構の年代は不明である。

ＳＤ39　４区で検出された溝で、規模は幅0.44ｍ、深さ0.17ｍである。断面逆台形で、平面はやや不整形である。遺物は土師器の小片が出土している。遺構の年代は不明である。

ＳＤ46　５区で検出された溝で、南西に隣接する土坑ＳＫ45を切り込むように造られ、規模は幅1.56ｍ、深さ0.62ｍである。溝の法面は北東側でなだらかで、南西側で急な形状を呈している。遺物は多く、上層（３～５層）から土師器杯・椀・甕・ロクロ土師器皿・山茶椀・鉄釘、中層（６層）から山茶椀、下層（７層）から土師器皿・杯・甕・山茶椀・白磁が出土しており、平安時代末の遺構と考えられる。

ＳＤ51　５区で検出された溝で、規模は幅1.84ｍ、深さ1.07ｍである。土層断面から数回の掘り直しがあったと考えられる。遺構の大きさに反して遺物量は少なく、土師器甕・須恵器甕の小片が出土している。遺構の年代は不明である。

ＳＤ57　５区で検出された溝で、規模は幅0.52ｍ、深さ0.29ｍである。遺物は土師器皿が出土している。遺構の年代は不明である。

ＳＤ58　５区で検出された溝で、規模は幅4.20ｍ以上、深さ0.42ｍである。東西方向の溝で中心部に向かってなだらかに傾斜している。遺物は土師器杯・椀・甑が出土している。遺構の年代は不明である。

第１表　遺構一覧表

調査区	遺構名	種別	計測値（m）			時代	主な出土遺物	備考
			長さ 長径	幅 短径	深さ			
1区	SD01	溝	－	0.80	0.22	鎌倉時代	土師器甕	
1区	SD02	溝	－	0.90	0.16	不明	なし	
1区	SD03	溝	－	0.84	0.35	平安時代末	土師器甕	
2区	SK04	土坑	1.03	－	0.30	平安時代末	土師器(皿・甕)・ロクロ土師器・鉄滓	
2区	SK05	土坑	1.20	－	0.26	不明	土師器甕	
2区	SD06	溝	－	0.94	0.77	平安時代末～鎌倉時代	土師器皿・山茶椀	
2区	SK07	土坑	1.20	－	0.13	不明	土師器小片	
2区	SD08	溝	－	0.50	0.12	不明	なし	
2区	SK09	土坑	2.84	－	0.24	不明	なし	
2区	SK10	土坑	2.12	－	0.37	不明	なし	
2区	SD11	溝	－	0.70	0.60	平安時代末～鎌倉時代	土師器甕・ロクロ土師器・山茶椀	
2区	SK12	土坑	1.08	－	0.60	不明	なし	
1区	SD13	溝	－	2.10	0.37	平安時代中期	土師器皿	
1区	SD14	溝	－	2.00	0.53	平安時代後期	土師器(皿・甕)・ロクロ土師器・山茶椀	
1区	SD15	溝	－	6.10	0.30	平安時代中期～後期	土師器(皿・甕)	
1区	SD16	溝	－	3.80	0.30	不明	土師器	
1区	SD17	溝	－	1.00	0.24	平安時代末	土師器(皿・甕)・ロクロ土師器・山茶椀・陶器	
3区	SD18	溝	－	2.30	0.15	不明	土師器(皿・甕)	
3区	SK19	土坑	1.84	－	0.25	平安時代末	土師器(皿・杯・甕)・ロクロ土師器・須恵器(長頸瓶・甕)・山茶椀	
3区	SK20	土坑	0.8	－	0.51	鎌倉時代	土師器(皿・甕)・ロクロ土師器・山茶椀	
3区	SD21	溝	－	1.00以上	0.10	不明	なし	
3区	SK22	土坑	1.04	－	0.48	平安時代末	土師器皿・須恵器甕・渥美焼(甕・広口壺)	
3区	SD23	溝	－	0.64	0.11	不明	土師器皿	
3区	SB24	掘立柱建物	6.9	－	－	平安時代後期	土師器皿	
3区	SD25	溝	－	0.54	0.34	不明	なし	
3区	SD26	溝	－	1.70	0.77	不明	土師器(皿・椀・甕)	
3区	SD27	溝	－	1.60	0.74	不明	土師器甕・ロクロ土師器	
3区	SD28	溝	－	3.80	0.38	不明	土師器(皿・甕)	
3区	SK29	土坑	0.84	－	0.36	不明	土師器	集石土坑
3区	SD30	溝	－	2.90	0.27	不明	なし	
3区	SD31	溝	－	1.70	0.57	平安時代後期	土師器(皿・甕)・須恵器甕	
3区	SD32	溝	－	1.80	0.22	不明	土師器皿・ロクロ土師器・山茶椀・陶器甕	
3区	SK33	土坑	1.3	－	0.19	平安時代末	土師器(皿・甕)・山茶椀	
4区	SD34	溝	－	0.60以上	0.33	平安時代末	土師器(皿・甕)・須恵器・山茶椀	
4区	SK35	土坑	1.86	－	0.35	室町時代	土師器(皿・鍋)	
4区	SD36	溝	－	1.44	0.75	平安時代末	土師器(皿・椀)・山茶椀	
4区	SK37	土坑	1.40	－	0.15	不明	なし	
4区	SD38	溝	－	0.86	0.14	不明	土師器皿	
4区	SD39	溝	－	0.44	0.17	不明	土師器	
4区	SK40	土坑	2.16	－	0.45	平安時代末	土師器(皿・鉢・甕)・ロクロ土師器・須恵器杯・山茶椀	
4区	SK41	土坑	3.48以上	－	0.42	不明	土師器(皿・甕)	
4区	SK42	土坑	2.40以上	－	0.19	平安時代後期	ロクロ土師器	
4区	SK43	土坑	2.08以上	－	0.11	不明	なし	
5区	SD44	溝	－	4.90	1.07	不明	なし	
5区	SK45	土坑	6.54以上	－	0.29	奈良時代末～平安時代初め	土師器(皿・杯・甕・甑)・須恵器（杯・甕・瓶）	
5区	SD46	溝	－	1.56	0.62	平安時代末	土師器(甕・皿・杯)・山茶椀・灰釉陶器・ロクロ土師器・須恵器(甕・長頸瓶)・白磁	
5区	SK47	土坑	5.00	－	0.61	奈良時代末～平安時代初め	土師器(甕・甑)・須恵器甕	
5区	SK48	土坑	3.52	－	0.65	平安時代前期	土師器(皿・甕)・須恵器甕	
5区	SK49	土坑	2.40	－	0.53	平安時代後期～末	土師器(皿・甕)	
5区	SK50	土坑	2.32	－	0.68	平安時代後期～末	土師器・須恵器甕・山茶椀	
5区	SD51	溝	－	1.84	0.87	不明	土師器甕・須恵器甕	
5区	SK52	土坑	1.88	－	0.04	平安時代末～鎌倉時代	土師器・山茶椀	
5区	SK53	土坑	2.48	－	0.33	平安時代末～鎌倉時代	土師器甕・山茶椀	
5区	SD54	溝	－	2.18以上	0.60	不明	土師器(皿・甕)　須恵器甕	
5区	SK55	土坑	1.06	－	0.43	不明	なし	
5区	SK56	土坑	1.16	－	0.47	平安時代中期	土師器杯	
5区	SD57	溝	－	0.52	0.29	不明	土師器皿	
5区	SD58	溝	－	4.20以上	0.42	不明	土師器(椀・甕・甑)	

Ⅳ　遺　物

今回の調査では弥生時代から室町時代までの遺物が出土している。本章では、出土遺物について遺構・層位ごとに述べていく。なお、遺物の年代観については章末参考文献によった。

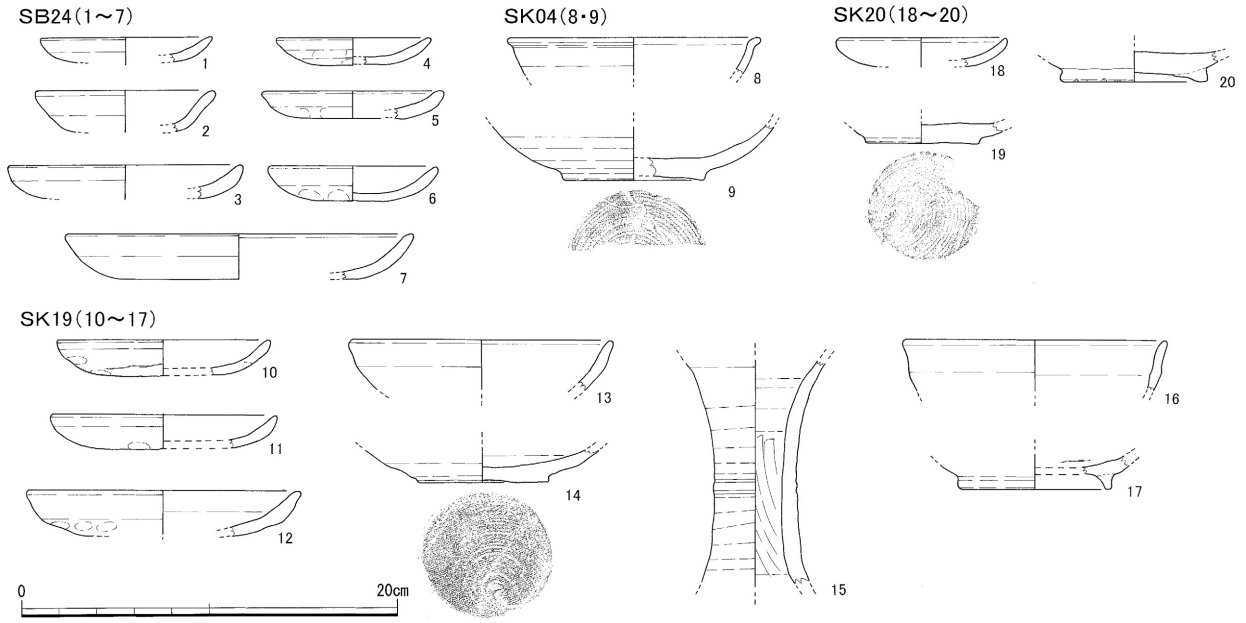
ＳＢ24出土遺物（１～７）　掘立柱建物の柱穴より出土した遺物である。１～７は、土師器の皿で手づくねにより成形されている。１～３・７はPit24、４・５はPit38、６はPit20からそれぞれ出土している。いずれも11世紀代のものである。

ＳＫ04出土遺物（８・９）　８は、土師器の杯である。９は、ロクロ土師器の椀で底部のみ残存している。高台は持たず、底部から丸みをもって立ち上がる。11世紀代のものである。ＳＫ04からは、他に鉄滓が出土している。

ＳＫ19出土遺物（10～17）　10～12は、土師器の皿である。13は、土師器の杯である。14はロクロ土師器の椀である。高台は持たず、底部から丸みを持って立ち上がる。11世紀代のものである。15は、須恵器の長頸瓶である。頸部のみ残存し、外面に二重の沈線がみられる。8世紀代のものである。16は、土師器の壺または杯の口縁部である。口縁部の立ち上がりは強く、強い横方向のナデ調整により、段を有する。胎土は古代の杯にしては、やや粗く時期を断定することはできない。17は、山茶椀である。高台部のみ残存しており、12世紀中葉のものである。

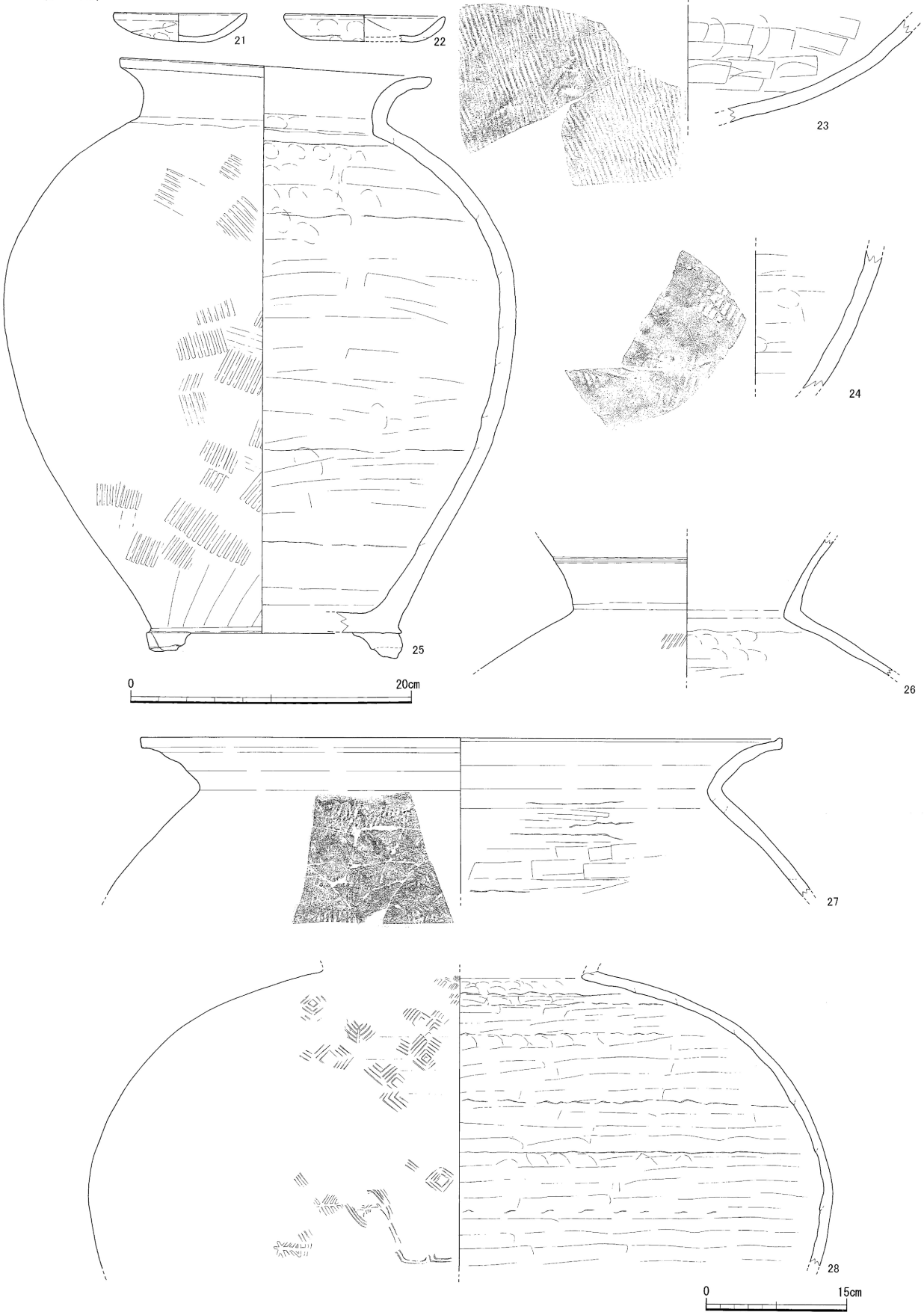
ＳＫ20出土遺物（18～20）　18は、土師器の皿である。19は、ロクロ土師器の椀である。底部のみ残存しており、11世紀代のものである。20は、山茶椀である。高台は低く、籾殻圧痕が見られる。12世紀後葉から13世紀前葉のもの。

ＳＫ22出土遺物（21～28）　21・22は、土師器の皿である。23は、須恵器の甕である。26は、須恵器の広口壺である。24は、陶器の甕である。体部片で、外面に縦線文の押印が施される。25は、渥美焼の広口壺である。外面は腰部にヘラケズリ、体部に縦線文の押印がランダムに施される。底部には、焼成中に融着したヨリ土が付着し、口縁部から体部にかけては自然釉がみられる。12世紀中葉のものである。27・28は、渥美焼の甕である。27は、体部外面に縦線文の押印がランダムに施され、口縁部は大きく外反し、受け口状に収める。12世紀中葉のものである。28は、体部外面に四角形を中心に持つ重角文の押印がランダムに施される。内面は粘土紐積み上げ痕跡が明瞭に残り、ユビオサエの調整がみられる。12世紀中葉のものである。



第17図　出土遺物実測図①（１：４）

SK22(21～28)



第18図　出土遺物実測図②（21～25は１：４、26～28は１：６）

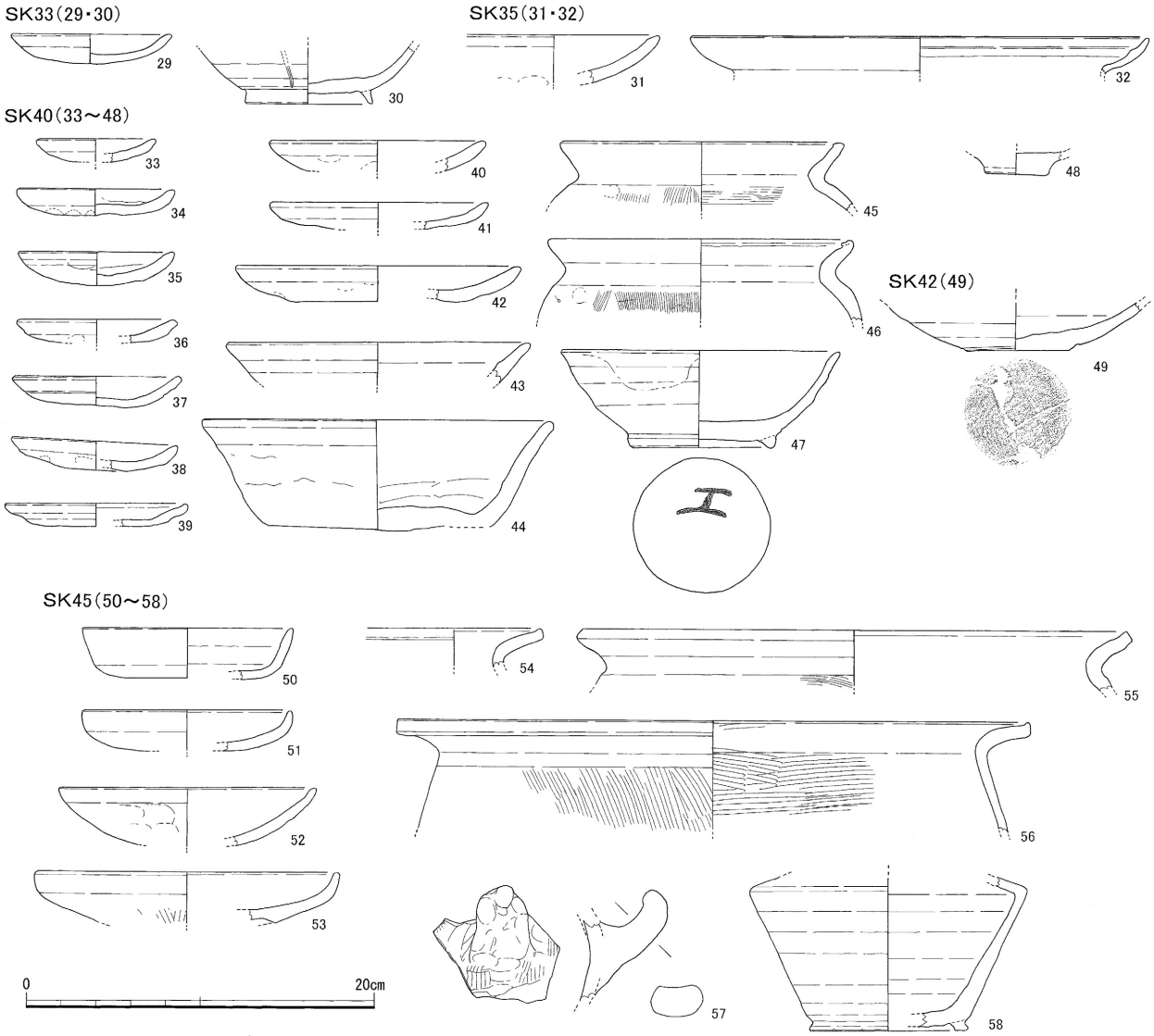
ＳＫ33出土遺物（29・30）　29は、土師器の皿である。30は、山茶椀である。高台は高く、「ハ」の字状に開く。底部から体部にかけて丸みをもって立ち上がり、体部外面にはヘラ描きの線刻がみられる。12世紀前葉から中葉のものである。

ＳＫ35出土遺物（31・32）　31は、土師器の皿である。32は、土師器の甕である。14世紀中葉のものである。

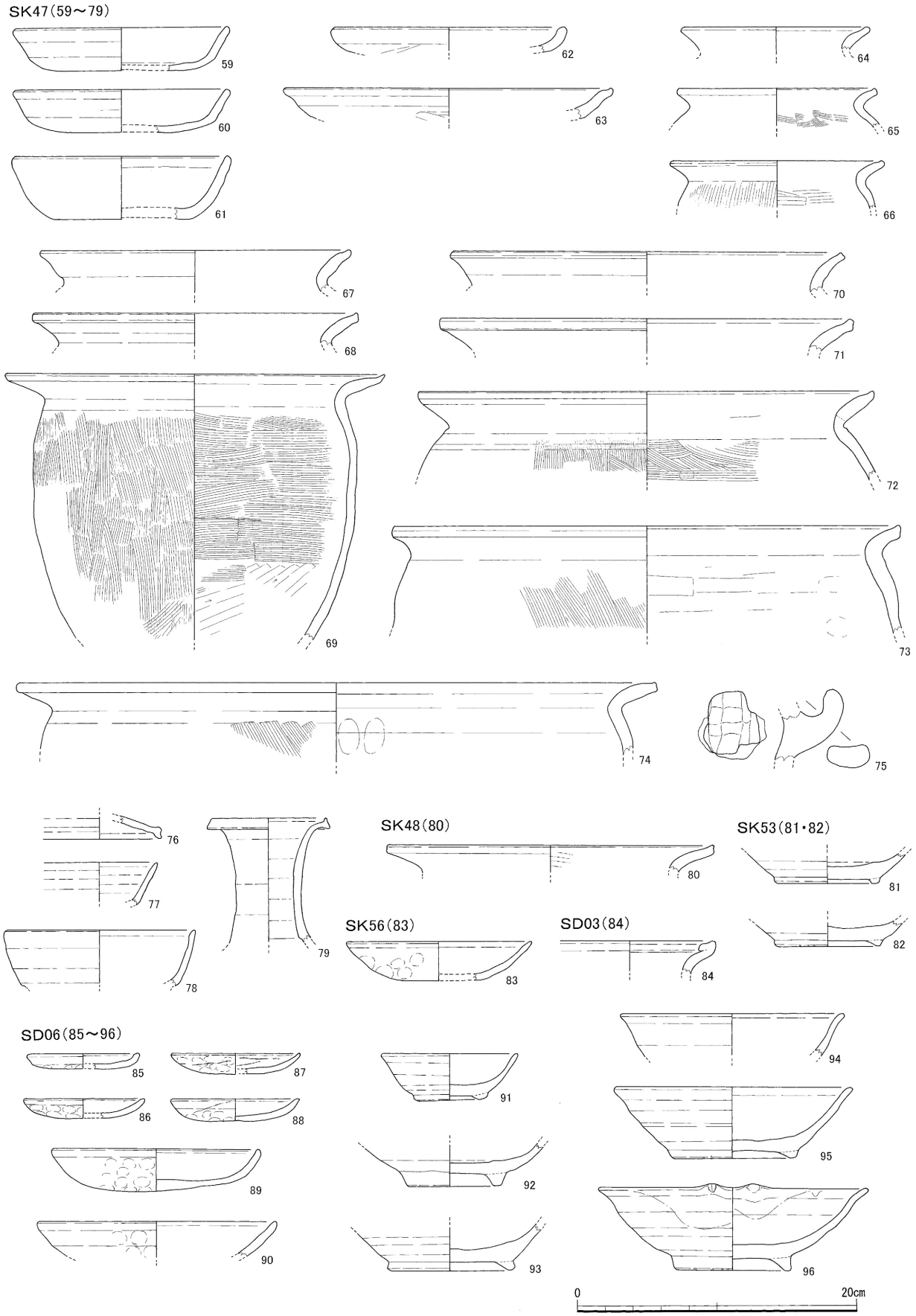
ＳＫ40出土遺物（33～48）　33～42は、土師器の皿である。43・44は、土師器の鉢である。体部から口縁部にかけて外反し、口縁部外面は横方向のナデ調整が施される。45・46は、土師器の甕である。外面に縦方向のハケ、内面に横方向のハケ調整またはナデ調整が施される。10世紀後半から11世紀前半のものである。47は、山茶椀である。高台は断面三角形で、高台内に「エ」の字状の墨書が見られる。口縁端部は外反し、つけがけにより灰釉が施されている。器壁は薄く、胎土は緻密である。12世紀前葉から中葉である。48は、ロクロ土師器の皿である。

ＳＫ42出土遺物（49）　49は、ロクロ土師器の椀で、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。11世紀末から12世紀前半のものである。

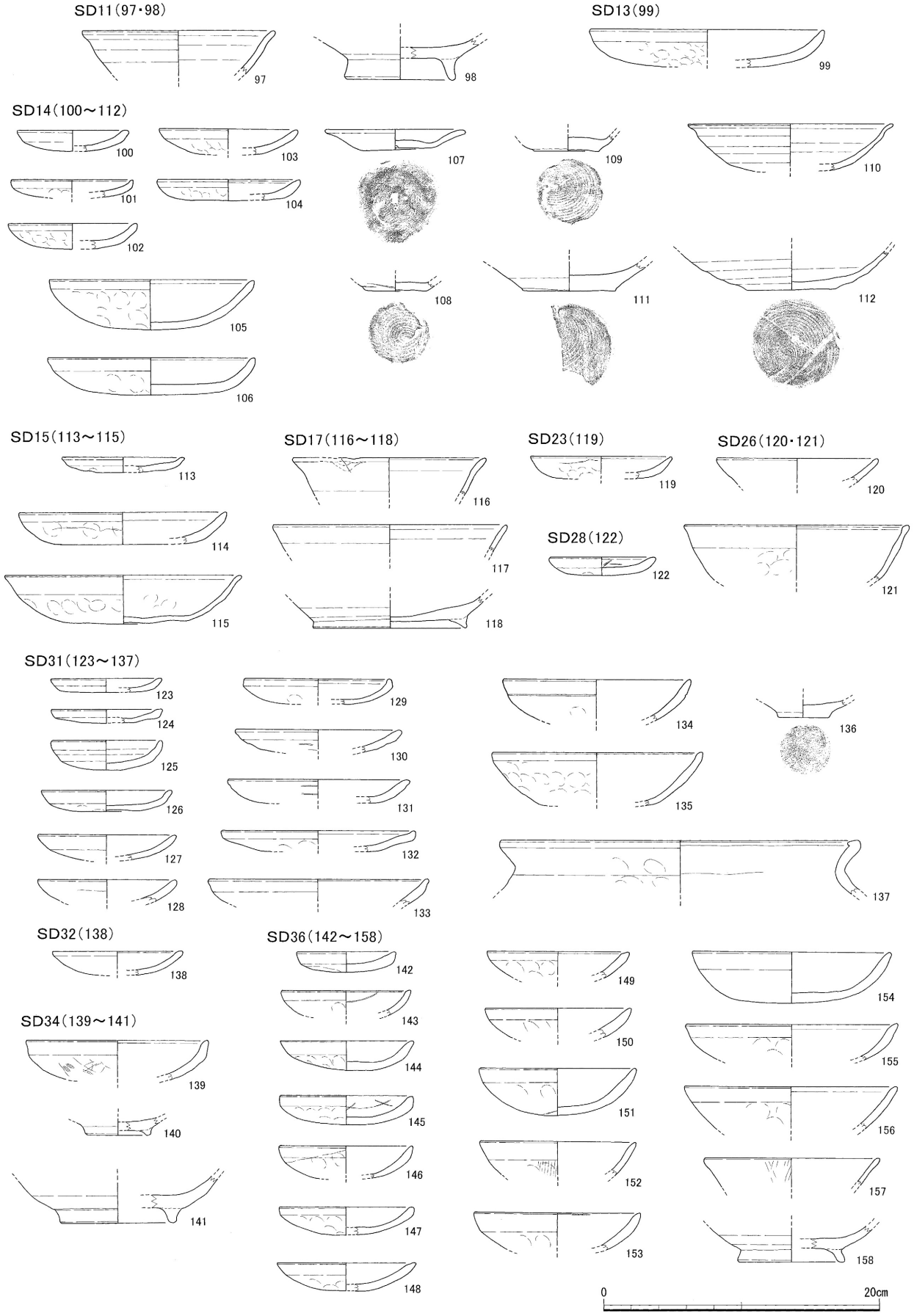
ＳＫ45出土遺物（50～58）　50～52は、土師器の杯である。53は、土師器の台付皿である。台部は欠損し、体部から口縁部にかけて丸みをもって立ち上がる。54～56は、土師器の甕である。口縁部は「く」の字状におさめ、体部外面に縦方向のハケ、内面に横方向のハケ調整が施される。８世紀後半から９世紀前半のものである。57は、土師器の甑で把手部分である。58は、須恵器の長頸瓶である。８世紀第１



第19図　出土遺物実測図③（１：４）



第20図　出土遺物実測図④（１：４）



第21図　出土遺物実測図⑤（１：４）

四半期のものである。

ＳＫ47出土遺物（59～79）　59～61は、土師器の杯である。62は、土師器の皿である。63は、土師器の台付皿である。64～74は、土師器の甕である。口縁端部を上方向に折り曲げ、体部外面は縦方向のハケ調整、体部内面は横方向のハケ調整が施される。８世紀後半から９世紀初めのものである。75は、土師器の甑で把手部分である。76は、須恵器の杯蓋である。77・78は、須恵器の杯身である。79は、須恵器の長頸瓶である。頸部は比較的短く、口縁端部に稜を持つ。76～79の須恵器は、８世紀後半のものである。

ＳＫ48出土遺物（80）　80は、土師器の甕である。９世紀代のものと考えられる。

ＳＫ53出土遺物（81・82）　81・82は山茶椀である。81は、小型の高台がつく。82は、高台は断面逆三角形で籾殻圧痕がみられる。ともに、12世紀後葉から13世紀前葉のものである。

ＳＫ56出土遺物（83）　83は、土師器の杯である。口縁部外面に横方向のナデ調整が施され、体部外面には明瞭なユビオサエ調整が施されている。10世紀前半のものである。

ＳＤ03出土遺物（84）　84は、土師器の甕である。口縁端部を内側に折り返すように収める。12世紀後半のものである。

ＳＤ06出土遺物（85～96）　85～89は、土師器の皿である。85～88は、口径7.7～9.0cmと小型で、体部外面にはユビオサエが明瞭にみられる。12世紀代のものである。90は、土師器の杯である。91～96は、山茶椀である。91は、小椀で高台を有し、籾殻圧痕がみられる。また、口縁部から体部にかけての内面に降灰による自然釉がみられる。12世紀中葉のもの。94は、器壁は薄く、口縁部を引き延ばすように外反する。口縁部内面に降灰による自然釉がみられる。12世紀中葉のものである。96は、口縁部にヘラによる輪花を有する。高台は断面三角形を呈し、籾殻圧痕がみられる。12世紀中葉のものである。

92は、高台の貼り付けは雑で、底部から体部にかけて丸みをもって立ち上がる。体部内面に降灰による自然釉がみられ、内面底部には重ね焼き痕がみられる。12世紀中葉から後葉のものである。93は、高台はやや外反し、底部から体部にかけて丸みを帯びて立ち上がる。12世紀後葉から13世紀前葉のものである。95は、高台は低く、体部は直線的に立ち上がる。口縁部から体部の内面にかけて降灰による自然釉がみられ、胎土は砂粒を多く含む。13世紀前葉から中葉のものである。

ＳＤ11出土遺物（97・98）　97・98は、山茶椀である。97は、小椀で口縁端部は外反する。12世紀中葉のものである。98は、高台は高く、「ハ」の字状に開く。12世紀中葉のものである。

ＳＤ13出土遺物（99）　99は、土師器の皿である。口縁部外面に横方向のナデ調整が施され、体部外面には明瞭なユビオサエ調整が施されている。10世紀前半のものである。

ＳＤ14出土遺物（100～112）　100～104は、土師器の皿である。口径8.0～10.2cmで口縁部に横方向のナデ調整、体部外面にユビオサエが施される。105・106は、土師器の杯である。口径14.5cm程度で口縁部に横方向のナデ調整、体部外面にユビオサエが施される。11世紀後半のものである。107～109は、ロクロ土師器の皿である。110～112は、ロクロ土師器の椀である。底部から体部にかけて丸みもって立ち上がる。11世紀後半のものである。

ＳＤ15出土遺物（113～115）　113・114は、土師器の皿である。115は、土師器の杯である。

ＳＤ17出土遺物（116～118）　117は、灰釉陶器の椀である。口縁部は直線的におさめ、灰釉がつけがけにより施される。11世紀後半のものである。116・118は、山茶椀である。116は、小椀で口縁部は外反し、ヘラにより輪花が施される。12世紀前葉のものである。18は、高台は断面三角形を呈し、体部内面に降灰による自然釉がみられる。12世紀中葉のものである。

ＳＤ23出土遺物（119）　119は、土師器の皿である。口縁部は横方向のナデ調整、体部外面はユビオサエ調整が施される。

ＳＤ26出土遺物（120・121）　120は、土師器の杯である。121は、土師器の椀である。

ＳＤ28出土遺物（122）　122は、土師器の皿である。

ＳＤ31出土遺物（123～137）　123～133は、土師

器の皿である。134・135は、土師器の杯である。136は、ロクロ土師器の皿である。137は、土師器の甕である。口縁端部を内側に折り返し、外面はユビオサエにより調整され、ススが付着している。11世紀後半のものである。

ＳＤ32出土遺物（138）　138は、土師器の皿である。

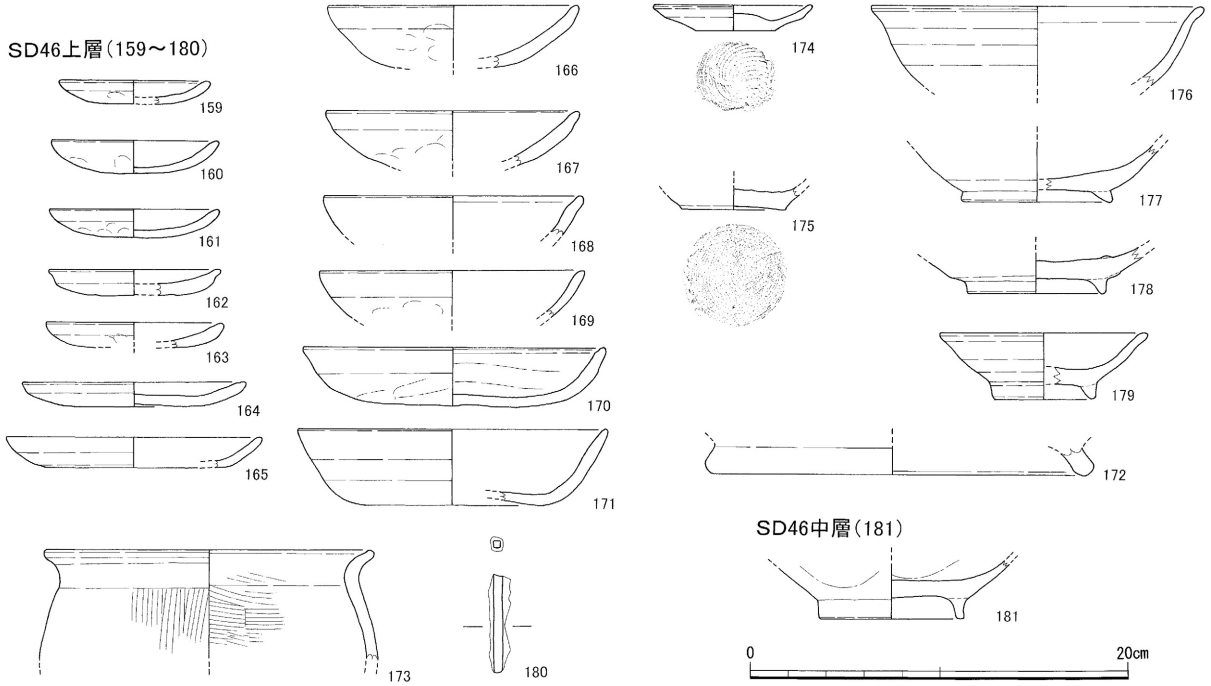
ＳＤ34出土遺物（139～141）　139は、土師器の杯である。140は、ロクロ土師器の椀である。141は、山茶椀である。高台は高く、底部から体部にかけて丸みをもって立ち上がる。高台端部に籾殻圧痕がみられる。

ＳＤ36出土遺物（142～158）　142～148は、土師器の皿である。149～157は、土師器の杯である。158は、山茶椀である。高台は高く、ハの字状に開く。12世紀前葉から中葉のものである。

ＳＤ46上層出土遺物（159～180）　159～165は、土師器の皿である。166～171は、土師器の杯である。172は、土師器の椀である。173は、土師器の甕である。８世紀後半のものである。174・175は、ロクロ土師器の皿である。176～179は、山茶椀である。176は口縁部片で、体部から丸みをもって立ち上がり口縁端部は外反する。178は、高台は断面三角形で高く、体部内面に降灰による自然釉がみられる。底部内面には、重ね焼き痕がみられる。179は、小椀で高台は断面三角形を呈する。12世紀中葉のものである。180は、鉄釘である。

ＳＤ46中層出土遺物（181）　181は、山茶椀である。高台は高く、灰釉がつけがけにより施釉されている。12世紀前葉のものである。

ＳＤ46下層出土遺物（182～232）　182～202は、土師器の皿である。203～222は、土師器の杯である。223・224は、土師器の甕である。８世紀後半から９世紀初めのものである。225は、ロクロ土師器の皿である。226は、須恵器の壺である。口縁部のみ残存で、頸部から外反し端部はナデ調整により面を有する。8世紀後半のものである。227～231は、山茶椀である。227は、高台は低く籾殻圧痕がみられる。体部は丸みをもって立ち上がり、口縁部は外反する。器壁は薄く、胎土は砂粒を含む。12世紀後葉から13世紀前葉のもの。228は、高台は高く、ハの字状に開く。12世紀中葉のもの。229は、高台は低く籾殻圧痕がみられる。内面は使用により摩耗しており、胎土に砂粒を多く含む。12世紀後葉から13世紀前葉のものである。230は、高台は低く籾殻圧痕がみられる。231は、高台は高く、「ハ」の字状に開く。12世紀中葉のもの。232は、白磁の椀である。高台を除き内外面に施釉され、削り出し高台を持つ。



第22図　出土遺物実測図⑥（１：４）

ＳＤ51出土遺物（233）　233は、土師器の甕である。

ＳＤ58出土遺物（234・235）　234は、土師器の杯である。235は、土師器の甑である。

１区Pit３出土遺物（236）　236は、土師器の皿である。

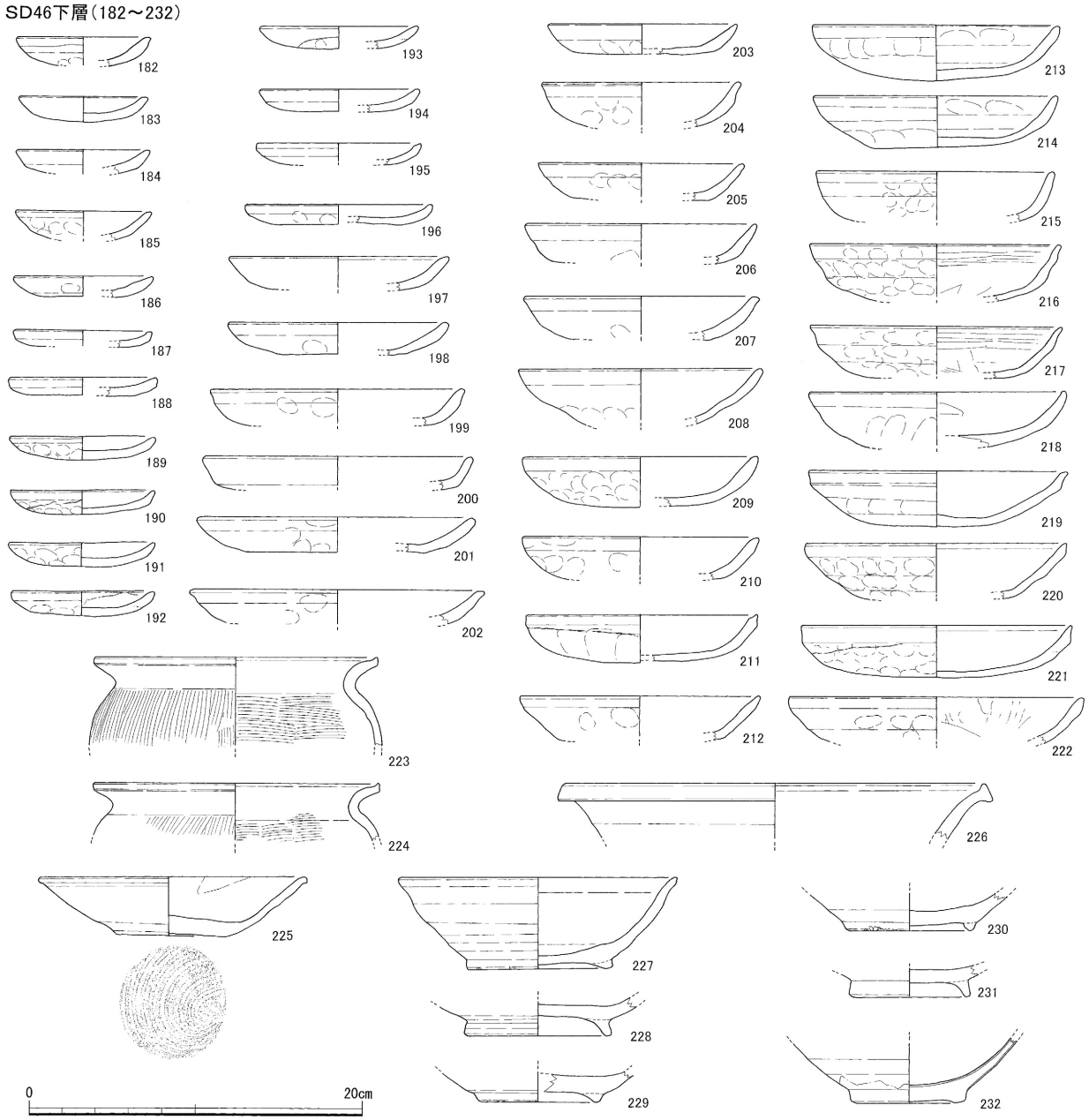
１区Pit７出土遺物（237～242）　237～239は、土師器の皿である。240～241は、ロクロ土師器の皿である。11世紀代のものである。242は、土師器の甕である。口縁部が内側に肥厚し、外面はユビオサエにより調整されている。11世紀後半のものである。

１区Pit13出土遺物（243）　243は、灰釉陶器の広縁段皿である。口縁部片で、内面に灰釉が施されている。９世紀後半のものである。

２区Pit２出土遺物（244）　244は、土師器の皿である。

２区Pit３出土遺物（245）　245は、土師器の皿である。

２区Pit４出土遺物（246）　246は、渥美焼の片口鉢の底部である。肉厚の高台がやや外反するようにつけられており、内面は使用により摩耗している。12世紀中葉のものである。



第23図　出土遺物実測図⑦（１：４）

３区Pit２出土遺物（247）　247は、土師器の皿である。

３区Pit３出土遺物（248・249）　248・249は土師器の皿である。

３区Pit５出土遺物（250）　250は、土師器の杯である。

３区Pit９出土遺物（251）　251は、土師器の甕である。口縁部は丸みを持ち、体部外面に粗い縦方向のハケ調整が見られる。10世紀代のものである。

３区Pit12出土遺物（252）　252は、土師器の皿である。

３区Pit16出土遺物（253）　253は、土師器の皿である。

３区Pit17出土遺物（254～258）　254～258は、土師器の皿である。口径8.8～10.6cmで、口縁部は横方向のナデ調整が施される。11世紀～12世紀のものである。

３区Pit20出土遺物（259）　259は、土師器の皿である。

３区Pit25出土遺物（260～262）　260は、土師器の皿である。261は、ロクロ土師器の椀である。262は、ロクロ土師器の台付皿である。台部は欠損しており、体部内面には布目がみられる。11世紀代のものである。

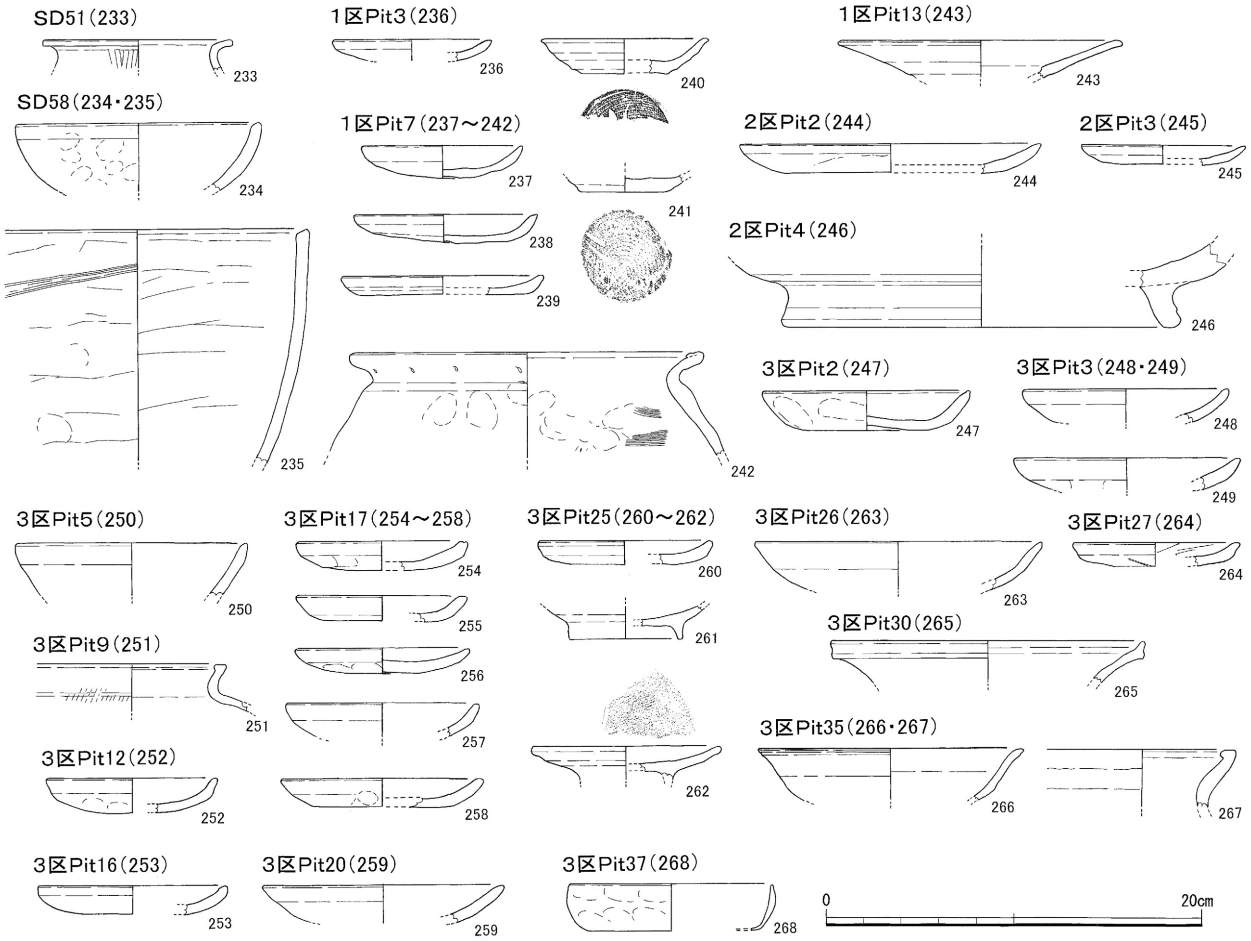
３区Pit26出土遺物（263）　263は、土師器の杯である。

３区Pit27出土遺物（264）　264は、土師器の皿である。

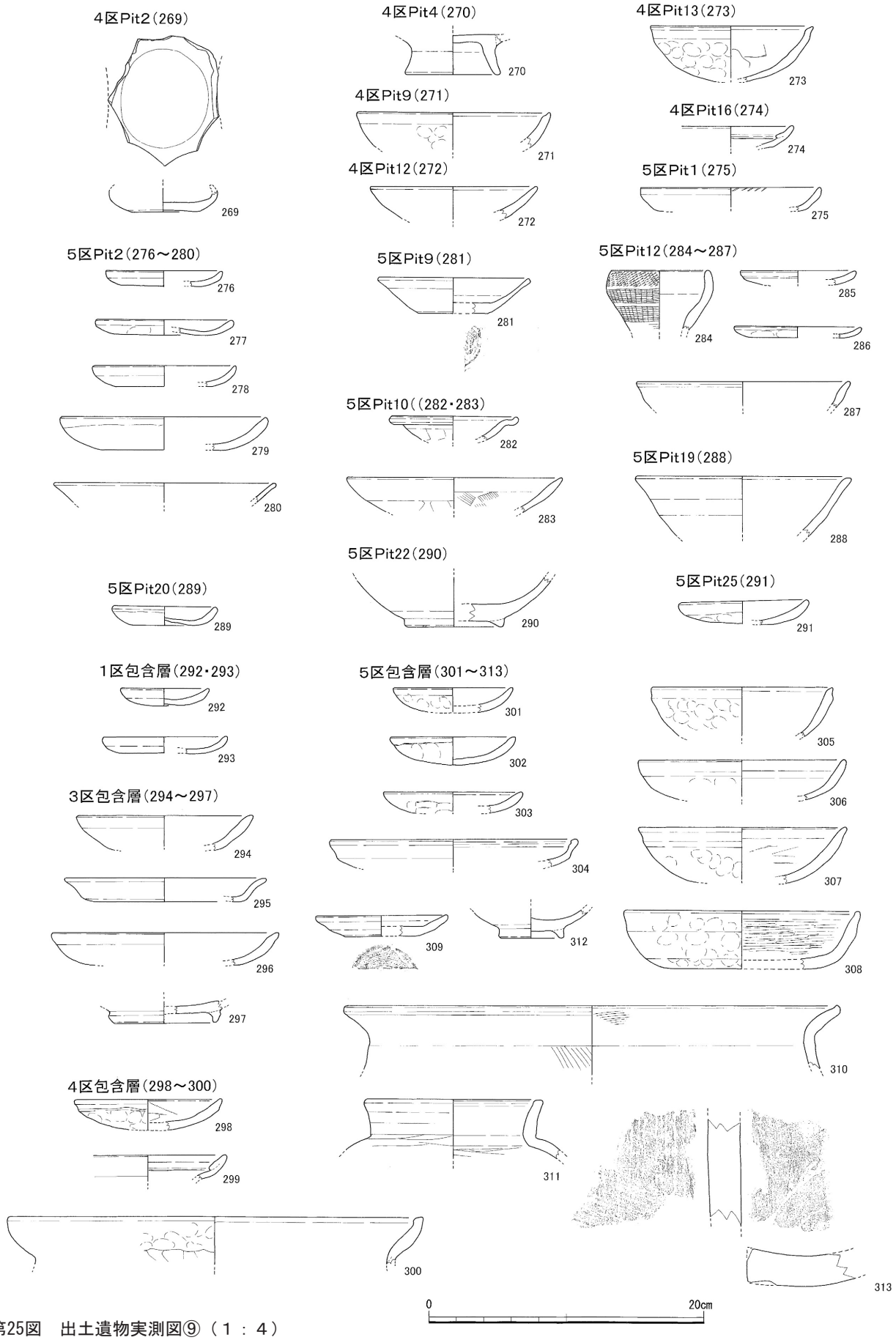
３区Pit30出土遺物（265）　265は、灰釉陶器の壺である。口縁部片で、内面に灰釉が施されている。10世紀代のものである。

３区Pit35出土遺物（266・267）　266は、土師器の杯である。267は、土師器の甕である。口縁端部を内側に折り曲げるように収める。10世紀代のものである。

３区Pit37出土遺物（268）　268は、土師器の皿



第24図　出土遺物実測図⑧（１：４）



第25図　出土遺物実測図⑨（１：４）

である。器壁は薄く、外面にユビオサエ調整が施される。14世紀末～15世紀前半のものである。

４区Pit２出土遺物（269）　269は、灰釉陶器の耳皿である。内面に灰釉が施され、高台はなく底部に回転糸切り痕が見られる。

４区Pit４出土遺物（270）　270は、土師器の台付皿である。

４区Pit９出土遺物（271）　271は、土師器の杯である。

４区Pit12出土遺物（272）　272は、土師器の杯である。

４区Pit13出土遺物（273）　273は、土師器の杯である。口縁部は横方向のナデ調整、体部外面にはユビオサエ調整が施される。

４区Pit16出土遺物（274）　274は、土師器の甕である。口縁端部が内面に貼りつくように折り返される。14世紀後半のものである。

５区Pit１出土遺物（275）　275は、土師器の皿である。

５区Pit２出土遺物（276～280）　276～280は、土師器の皿である。276～278は、口径8.2～10.2cmの小型のもので279は、口径14.8cmである。280は、口縁部片で器壁は薄く口縁端部に向けて直線的に開く。

５区Pit９出土遺物（281）　281は、ロクロ土師器の皿である。口径10.8cmの小型の皿で、底部から口縁部にかけて直線的に開きながら立ち上がる。11世紀後半のものである。

５区Pit10出土遺物（282・283）　282は、土師器の皿である。283は、土師器の杯である。

５区Pit12出土遺物（284～287）　284は、弥生土器の細頸壺である。口縁部はゆるく内湾し、端部外面に刺突文、頸部に櫛描簾状文が２段施されている。弥生時代中期Ⅳ-３様式のものと考えられる。285・286は、土師器の皿である。287は、山茶椀で口縁端部はやや外反する。

５区Pit19出土遺物（288）　288は、山茶椀である。口縁端部はやや外反し、灰釉がつけがけにより施されている。12世紀中葉から後葉のものである。

５区Pit20出土遺物（289）　289は、土師器の皿である。

５区Pit22出土遺物（290）　290は、山茶椀である。体部は丸みを持って立ち上がり、断面三角形の高台をもつ。12世紀後葉のものである。

５区Pit25出土遺物（291）　291は、土師器の皿である。

１区包含層出土遺物（292・293）　292・293は、土師器の皿である。

３区包含層出土遺物（294～297）　294～296は、土師器の皿である。297は、灰釉陶器の椀である。

４区包含層出土遺物（298～300）　298は、土師器の皿である。299・300は、土師器の甕である。299は、口縁端部を内面に貼りつけるように折り返す。器壁は比較的薄く、口縁部外面にススが付着している。13世紀後半から14世紀初めのものである。300は、口縁部片で外面にユビオサエ調整が施される。

５区包含層出土遺物（301～313）　301～304は、土師器の杯である。305～308は、土師器の椀である。309は、ロクロ土師器の皿である。310・311は、土師器の甕である。310は、口縁部は比較的厚く、外面に粗い縦方向のハケ調整、内面に横方向のナデ調整が施されている。9世紀後半のものである。312は、山茶椀の小椀で高台が付く。12世紀前葉から中葉のものである。313は、平瓦である。凹面に布目、凸面にタタキ目がみられ、色調は灰白色である。時期は古代に収まるものと考えられる。

参考文献

上村安生「１　伊勢・伊賀地域」『弥生土器の様式と編年』東海編、木耳社　2002

斎宮歴史博物館「第四章　斎宮跡の土器」『斎宮跡発掘調査報告　内院地区の調査　本文編』　2001

伊藤裕偉「南伊勢・志摩地域の中世土器」『三重県史』考古編２　三重県　2008

愛知県史編さん委員会『愛知県史』別編　古代猿投系　愛知県　2015

愛知県史編さん委員会『愛知県県史』別編　中世・近世常滑系　愛知県　2012

第２表　出土遺物観察表①

NO	実測番号	種類	器種	調査区	遺構層位	部位残存度	法量（cm）			技法・文様の特徴	胎土	焼成	色調（外面）
							口径	底径･高台径	器高				
1	001－02	土師器	皿	3区	SB24 Pit24	口縁部 2/12	9.0	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
2	001－06	土師器	皿	3区	SB24 Pit24	口縁部 1/12	9.4	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/4
3	001－01	土師器	皿	3区	SB24 Pit24	口縁部 2/12	12.4	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
4	005－03	土師器	皿	3区	SB24 Pit38	全体 1/12	8.0	－	1.4	内：ナデ 外：ヨコナデ、工具ナデ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
5	005－04	土師器	皿	3区	SB24 Pit38	全体 1/12	9.2	－	1.4	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	灰白 10YR8/2
6	006－05	土師器	皿	3区	SB24 Pit20	口縁部 1/12	12.6	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
7	006－04	土師器	皿	3区	SB24 Pit24	全体 1/12	18.2	－	2.4	内：ナデ 外：ナデ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
8	035－02	土師器	杯	2区	SK04	口縁部 2/12	13.1	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/3
9	041－01	ロクロ土師器	椀	2区	SK04	底部 5/12	－	7.2	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/3
10	044－05	土師器	皿	3区	SK19	全体 2/12	11.0	－	1.9	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい黄橙 7.5YR7/4
11	044－06	土師器	皿	3区	SK19	全体 1/12	11.8	－	1.8	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
12	044－03	土師器	皿	3区	SK19	口縁部 2/12	14.4	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	灰白色 2.5YR8/2
13	043－02	土師器	杯	3区	SK19	口縁部 1/12	13.6	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
14	044－01	ロクロ土師器	椀	3区	SK19	底部 12/12	－	6.8	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	－	浅黄橙 7.5YR8/4
15	043－04	須恵器	長頸瓶	3区	SK19	頸部 12/12	－	－	－	内：ナデ、工具ナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰黄褐 10YR6/2
16	044－07	土師器	壺	3区	SK19	口縁部 1/12	13.6	－	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/3
17	043－03	山茶椀	椀	3区	SK19	底部 3/13	－	7.8	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰白 2.5Y7/1
18	015－03	土師器	皿	3区	SK20	口縁部 1/12	9.0	－	－	内：ナデ	密	－	灰白 10YR8/2
19	015－02	ロクロ土師器	椀	3区	SK20	底部 10/12	－	5.7	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	－	にぶい黄橙 7.5YR7/4
20	015－01	山茶椀	椀	3区	SK20	底部 7/12	－	7.6	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰白 N8/0
21	036－02	土師器	皿	3区	SK22	全体 6/12	9.3	－	2.0	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
22	036－03	土師器	皿	3区	SK22	全体 2/12	11.3	－	1.8	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 7.5YR8/4
23	033－01	須恵器	甕	3区	SK22	体部片	－	－	－	内：工具オサエ、工具ナデ 外：タタキ	密	良	にぶい黄橙 10YR6/3
24	035－03	陶器	甕	3区	SK22	体部片	－	－	－	内：ユビオサエ、工具ナデ 外：タタキ	密	良	灰 5Y5/1
25	035－01	陶器	広口壺	3区	SK22	全体 2/12	22.0	17.8	45.0	内：ユビオサエ、工具ナデ 外：ナデ、タタキ	密	良	黒褐 7.5YR3/2
26	036－01	須恵器	広口壺	3区	SK22	頸部片	－	－	－	内：ユビオサエ、工具ナデ 外：ナデ、タタキ	密	良	灰 N4/0
27	034－01	陶器	甕	3区	SK22	口縁部 1/12	65.8	－	－	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：タタキ、ヨコナデ	密	良	褐灰 10YR6/1
28	037－01	陶器	甕	3区	SK22	体部片	－	－	－	内：ユビオサエ、工具ナデ 外：タタキ、ナデ	密	良	黄灰 2.5Y6/1
29	040－04	土師器	皿	3区	SK33	全体 6/12	9.0	－	1.7	内：ナデ 外：ナデ	密	－	灰白 10YR8/2
30	042－03	山茶椀	椀	3区	SK33	底部 6/12	－	7.0	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰白 10YR7/1
31	041－04	土師器	皿	4区	SK35	口縁部片	－	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	にぶい橙 7.5YR6/4
32	040－03	土師器	甕	4区	SK35	口縁部 2/12	26.0	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	にぶい黄褐 10YR5/3
33	039－03	土師器	皿	4区	SK40	口縁部 2/12	6.6	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	にぶい黄橙 7.5YR7/4
34	039－01	土師器	皿	4区	SK40	全体 3/12	8.6	－	1.5	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	灰白 2.5YR8/2
35	038－04	土師器	皿	4区	SK40	全体 3/12	10.2	－	1.3	内：ナデ 外：ナデ	密	－	にぶい黄橙 7.5YR7/4
36	038－05	土師器	皿	4区	SK40	口縁部 1/12	8.8	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 7.5YR8/4
37	038－03	土師器	皿	4区	SK40	全体 12/12	9.0	－	1.7	内：ナデ 外：ナデ	密	－	浅黄橙 10YR8/4
38	038－07	土師器	皿	4区	SK40	口縁部 9/12	9.4	－	1.6	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
39	039－04	土師器	皿	4区	SK40	全体 3/12	10.2	－	1.3	内：ナデ 外：ナデ	密	－	にぶい黄橙 7.5YR7/4
40	038－06	土師器	皿	4区	SK40	口縁部 1/12	11.9	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/4
41	039－02	土師器	皿	4区	SK40	口縁部 1/12	12.3	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
42	038－02	土師器	皿	4区	SK40	全体 1/12	15.6	－	2.1	内：ナデ 外：ナデ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
43	039－05	土師器	鉢	4区	SK40	口縁部 1/12	17.0	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	浅黄橙 7.5YR8/4
44	038－08	土師器	鉢	4区	SK40	全体 12/12	19.6	－	6.3	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 7.5YR8/4
45	039－07	土師器	甕	4区	SK40	口縁部 2/12	18.0	－	－	内：ナデ 外：ハケ、ナデ	密	－	浅黄橙 7.5YR8/4

第３表　出土遺物観察表②

NO	実測番号	種類	器種	調査区	遺構層位	部位残存度	法量（cm）			技法・文様の特徴	胎土	焼成	色調（外面）
							口径	底径･高台径	器高				
46	038－01	土師器	甕	4区	SK40	口縁部 1/12	17.0	－	－	内：ナデ 外：ハケ、ナデ	密	－	橙 5YR7/6
47	039－08	山茶椀	椀	4区	SK40	全体 10/12	17.0	7.4	5.5	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰白 2.5Y7/1
48	039－06	ロクロ土師器	皿	4区	SK40	底部 7/12	－	3.3	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
49	044－02	ロクロ土師器	椀	4区	SK42	底部 12/12	－	5.6	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	－	にぶい黄橙 7.5YR7/4
50	041－06	土師器	杯	5区	SK45	全体 1/12	11.8	－	2.9	内：ナデ 外：ナデ	密	－	橙 5YR7/6
51	041－07	土師器	杯	5区	SK45	口縁部 1/12	11.8	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	橙 5YR7/6
52	040－05	土師器	杯	5区	SK45	口縁部 2/12	14.5	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい黄橙 7.5YR7/4
53	041－05	土師器	台付皿	5区	SK45	口縁部 1/12	17.0	－	－	内：ナデ 外：ハケ	密	－	橙 5YR6/6
54	041－02	土師器	甕	5区	SK45	口縁部片	－	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/3
55	046－02	土師器	甕	5区	SK45	口縁部 1/12	30.1	－	－	内：ナデ 外：ナデ、ハケ	密	－	浅黄橙 7.5YR8/4
56	040－01	土師器	甕	5区	SK45	口縁部 2/12	36.0	－	－	内：ハケ、ナデ 外：ハケ、ナデ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
57	041－08	土師器	甑	5区	SK45	把手	－	－	－	ユビオサエ、ケズリ、ハケ	密	－	にぶい黄橙 10YR6/3
58	042－01	須恵器	長頸壺	5区	SK45	底部 1/12	－	8.8	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	黄灰 2.5Y6/1
59	045－05	土師器	杯	5区	SK47	口縁部 1/12	15.0	－	3.1	内：ナデ 外：ナデ	密	－	黄橙 10YR8/6
60	045－04	土師器	杯	5区	SK47	口縁部 3/12	15.0	－	3.1	内：ナデ 外：ナデ	密	－	黄橙 10YR8/6
61	045－06	土師器	杯	5区	SK47	全体 1/12	15.6	－	4.6	内：ナデ 外：ナデ	密	－	にぶい黄橙 7.5YR7/4
62	045－03	土師器	皿	5区	SK47	口縁部 1/12	16.0	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	橙 5YR7/6
63	045－01	土師器	台付皿	5区	SK47	口縁部 1/12	23.0	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	橙 5YR7/6
64	047－03	土師器	甕	5区	SK47	口縁部 1/12	13.0	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	にぶい黄橙 7.5YR7/4
65	046－05	土師器	甕	5区	SK47	口縁部 2/12	14.0	－	－	内：ハケ、ナデ 外：ナデ	密	－	褐灰 5YR5/1
66	045－10	土師器	甕	5区	SK47	口縁部 2/12	15.0	－	－	内：ハケ,ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	密	－	浅黄橙 7.5YR8/3
67	045－09	土師器	甕	5区	SK47	口縁部 1/12	21.8	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
68	047－01	土師器	甕	5区	SK47	口縁部 1/12	22.6	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	灰白 10YR8/2
69	043－01	土師器	甕	5区	SK47	口縁部 3/12	26.8	－	－	内：ハケ、ヨコナデ、ケズリ 外：ハケ、ヨコナデ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/4
70	046－01	土師器	甕	5区	SK47	口縁部 1/12	27.4	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
71	046－03	土師器	甕	5区	SK47	口縁部 1/12	29.0	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
72	047－02	土師器	甕	5区	SK47	口縁部 1/12	32.2	－	－	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	密	－	灰白 10YR7/1
73	046－04	土師器	甕	5区	SK47	口縁部 1/12	35.8	－	－	内：工具ナデ、ヨコナデ　外：ハケ、ナデ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/4
74	047－05	土師器	甕	5区	SK47	口縁部 2/12	44.6	－	－	内：ユビオサエ、ナデ 外：ハケ、ナデ	密	－	にぶい黄橙 7.5YR7/4
75	046－06	土師器	甑	5区	SK47	把手	－	－	－	ユビオサエ、ケズリ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
76	045－07	須恵器	杯蓋	5区	SK47	口縁部片	－	－	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰 5Y6/1
77	045－08	須恵器	杯身	5区	SK47	口縁部片	－	－	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰 5Y6/1
78	045－02	須恵器	杯身	5区	SK47	口縁部 1/12	13.2	－	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	黄灰 2.5Y6/1
79	047－04	須恵器	長頸瓶	5区	SK47	口縁部 3/12	8.0	－	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰黄 2.5Y6/2
80	040－02	土師器	甕	5区	SK48	口縁部 1/12	23.0	－	－	内：ハケ、ヨコナデ 外：ヨコナデ	密	－	にぶい黄橙 7.5YR7/4
81	042－04	山茶椀	椀	5区	SK53	底部 3/12	－	7.2	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰白 2.5Y7/1
82	042－02	山茶椀	椀	5区	SK53	底部完存	－	7.0	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰白 2.5Y7/1
83	044－04	土師器	杯	5区	SK56	全体 1/12	13.0	－	2.7	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい黄橙 2.5YR7/4
84	013－01	土師器	甕	1区	SD03	口縁部片	－	－	－	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	密	－	にぶい褐 7.5YR5/4
85	032－07	土師器	皿	2区	SD06	全体 2/12	7.7	－	1.1	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/2
86	014－05	土師器	皿	2区	SD06	口縁部 2/12	8.4	－	1.4	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/3
87	014－04	土師器	皿	2区	SD06	口縁部 3/12	9.0	－	1.5	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/4
88	032－09	土師器	皿	2区	SD06	完存	8.9	－	1.1	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
89	032－10	土師器	皿	2区	SD06	全体 9/12	14.5	－	2.1	内：ナデ 外：ナデ	密	－	にぶい黄橙 7.5YR7/4
90	032－05	土師器	杯	2区	SD06	口縁部 1/12	16.8	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	灰黄褐 10YR6/2

第４表　出土遺物観察表③

NO	実測番号	種類	器種	調査区	遺構層位	部位残存度	法量（cm）			技法・文様の特徴	胎土	焼成	色調（外面）
							口径	底径･高台径	器高				
91	032－06	山茶椀	小椀	2区	SD06	全体 10/12	9.6	5.0	3.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰白 2.5Y7/1
92	032－04	山茶椀	椀	2区	SD06	高台部 12/12	－	6.0	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰白 2.5Y8/1
93	032－03	山茶椀	椀	2区	SD06	高台部 3/12	－	8.4	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰白 2.5Y7/1
94	032－08	山茶椀	椀	2区	SD06	口縁部 1/12	15.7	－	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰黄 2.5Y7/2
95	032－02	山茶椀	椀	2区	SD06	全体 3/12	16.6	8.2	5.1	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	にぶい黄橙 10YR7/2
96	032－01	山茶椀	椀	2区	SD06	全体 5/12	19.0	7.8	6.2	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰白 10YR7/1
97	014－07	山茶椀	椀	2区	SD11	口縁部 2/12	13.6	－	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	黄灰 2.5Y6/1
98	014－06	山茶椀	椀	2区	SD11	高台部 12/12	－	7.5	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰白 2.5Y7/1
99	013－02	土師器	皿	1区	SD13	口縁部 2/12	16.7	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい褐 7.5YR5/4
100	017－07	土師器	皿	1区	SD14	口縁部 2/12	8.0	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
101	031－04	土師器	皿	1区	SD14	口縁部 4/12	8.6	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	灰黄褐 10YR6/2
102	013－03	土師器	皿	1区	SD14	全体 4/12	9.2	－	1.8	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/3
103	013－06	土師器	皿	1区	SD14	口縁部 1/12	9.9	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/4
104	013－05	土師器	皿	1区	SD14	全体 2/12	10.2	－	1.5	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
105	030－01	土師器	杯	1区	SD14	全体 4/12	14.5	－	3.6	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/4
106	030－02	土師器	杯	1区	SD14	全体 3/12	14.7	－	2.7	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
107	013－08	ロクロ土師器	皿	1区	SD14	全体 11/12	9.7	4.8	1.5	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	－	にぶい黄橙 7.5YR7/4
108	013－04	ロクロ土師器	皿	1区	SD14	底部 10/12	－	4.3	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	－	にぶい黄橙 7.5YR7/4
109	013－09	ロクロ土師器	皿	1区	SD14	底部 12/12	－	4.6	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	－	にぶい橙 7.5Y7/3
110	013－07	ロクロ土師器	椀	1区	SD14	口縁部 2/12	14.6	－	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	－	浅黄橙 7.5YR8/3
111	030－05	ロクロ土師器	椀	1区	SD14	底部 5/12	－	6.6	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	－	にぶい橙 7.5Y7/3
112	030－04	ロクロ土師器	椀	1区	SD14	底部 12/12	－	6.3	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	－	にぶい黄橙 7.5YR7/4
113	033－03	土師器	皿	1区	SD15	全体 3/12	8.6	－	1.1	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/4
114	033－04	土師器	皿	1区	SD15	全体 2/12	14.8	－	1.8	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	橙 7.5YR7/6
115	033－02	土師器	杯	1区	SD15	全体 3/12	16.8	－	4.5	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/4
116	014－01	山茶椀	椀	1区	SD17	口縁部 2/12	13.8	－	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰黄 2.5Y6/2
117	014－02	灰釉陶器	椀	1区	SD17	口縁部 2/12	16.8	－	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰黄 2.5Y6/2
118	014－03	山茶椀	椀	1区	SD17	高台部 3/12	－	10.8	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰黄 2.5Y6/2
119	015－05	土師器	皿	3区	SD23	口縁部 1/12	10.0	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	灰黄褐 10YR6/2
120	031－03	土師器	杯	3区	SD26	口縁部 1/12	11.5	－	－	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/2
121	031－01	土師器	椀	3区	SD26	口縁部 1/12	16.0	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい橙 7.5YR7/4
122	031－02	土師器	皿	3区	SD28	全体 2/12	7.5	－	1.3	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
123	017－03	土師器	皿	3区	SD31	口縁部 2/12	8.0	－	1.0	内：ナデ 外：ナデ	密	－	黄灰 2.5Y6/1
124	018－07	土師器	皿	3区	SD31	全体 3/12	7.8	－	1.0	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/2
125	018－04	土師器	皿	3区	SD31	全体 2/12	7.8	－	2.1	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい橙 7.5YR7/4
126	017－08	土師器	皿	3区	SD31	全体 3/12	9.3	－	1.5	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	灰白 10YR8/2
127	018－05	土師器	皿	3区	SD31	口縁部 2/12	9.8	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/3
128	018－03	土師器	皿	3区	SD31	口縁部 1/12	9.8	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	浅黄橙 7.5YR8/3
129	016－03	土師器	皿	3区	SD31	口縁部 2/12	10.4	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	灰白 10YR8/2
130	016－06	土師器	皿	3区	SD31	口縁部 2/12	11.8	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	にぶい黄橙 7.5YR7/4
131	017－06	土師器	皿	3区	SD31	口縁部 1/12	13.0	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
132	017－05	土師器	皿	3区	SD31	口縁部 2/12	13.8	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
133	018－02	土師器	皿	3区	SD31	口縁部 3/12	15.6	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	橙 7.5YR7/6
134	016－02	土師器	杯	3区	SD31	口縁部 1/12	13.5	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/3
135	030－03	土師器	杯	3区	SD31	口縁部 5/12	15.0	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/3

第５表　出土遺物観察表④

NO	実測番号	種類	器種	調査区	遺構層位	部位残存度	法量（cm）			技法・文様の特徴	胎土	焼成	色調（外面）
							口径	底径･高台径	器高				
136	018－08	ロクロ土師器	皿	3区	SD31	底部 12/12	－	3.6	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	浅黄橙 10YR8/3
137	017－01	土師器	甕	3区	SD31	口縁部 1/12	25.7	－	－	内：ナデ 外：ユビオサエ、ナデ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
138	015－04	土師器	皿	3区	SD32	口縁部 1/12	9.4	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	浅黄橙 10YR8/4
139	015－06	土師器	杯	4区	SD34	口縁部 1/12	13.0	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
140	029－07	ロクロ土師器	椀	4区	SD34	高台部 5/12	－	4.4	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
141	031－06	山茶椀	椀	4区	SD34	高台部 2/12	－	8.0	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰白 10YR7/1
142	029－06	土師器	皿	4区	SD37	全体 3/12	3.8	－	1.5	内：ナデ 外：ナデ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
143	028－10	土師器	皿	4区	SD37	口縁部 3/12	9.2	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
144	028－04	土師器	皿	4区	SD37	全体 3/12	9.5	－	2.0	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
145	028－09	土師器	皿	4区	SD37	全体 4/12	9.4	－	2.1	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 7.5YR7/4
146	028－07	土師器	皿	4区	SD37	口縁部 3/12	9.4	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	灰白 10YR8/2
147	028－05	土師器	皿	4区	SD37	全体 3/12	9.5	－	2.0	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
148	029－04	土師器	皿	4区	SD37	全体 2/12	9.8	－	2.0	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
149	029－02	土師器	杯	4区	SD37	口縁部 3/12	10.0	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/3
150	028－03	土師器	杯	4区	SD37	口縁部 2/12	10.3	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/3
151	028－08	土師器	杯	4区	SD37	全体 3/12	11.0	－	3.4	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
152	028－06	土師器	杯	4区	SD37	口縁部 2/12	11.2	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい黄橙 7.5YR7/4
153	028－02	土師器	杯	4区	SD37	口縁部 3/12	11.8	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
154	028－01	土師器	杯	4区	SD37	全体 6/12	14.0	－	3.7	内：ナデ 外：ナデ	密	－	浅黄橙 7.5YR8/4
155	029－01	土師器	杯	4区	SD37	口縁部 2/12	15.0	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/3
156	029－03	土師器	杯	4区	SD37	口縁部 1/12	15.0	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい黄橙 7.5YR7/4
157	029－05	土師器	杯	4区	SD37	口縁部 1/12	12.4	－	－	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	密	－	浅黄橙 7.5YR8/4
158	029－09	山茶椀	椀	4区	SD37	高台部 3/12	－	7.5	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰白 2.5Y7/1
159	026－06	土師器	皿	5区	SD46上層	全体 2/12	7.8	－	1.2	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
160	027－05	土師器	皿	5区	SD46上層	全体 3/12	8.7	－	1.8	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
161	027－06	土師器	皿	5区	SD46上層	全体 3/12	8.8	－	1.5	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/3
162	022－03	土師器	皿	5区	SD46上層	全体 1/12	8.8	－	1.4	内：ナデ 外：ナデ	密	－	浅黄橙 7.5YR8/4
163	027－04	土師器	皿	5区	SD46上層	口縁部 2/12	9.2	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/3
164	027－02	土師器	皿	5区	SD46上層	全体 1/12	11.6	－	1.3	内：ナデ 外：ナデ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
165	022－02	土師器	皿	5区	SD46上層	全体 1/12	12.9	－	1.6	内：ナデ 外：ナデ	密	－	浅黄橙 7.5YR8/4
166	022－07	土師器	杯	5区	SD46上層	口縁部 1/12	17.4	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
167	027－03	土師器	杯	5区	SD46上層	口縁部 1/12	13.2	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい橙 5YR6/4
168	022－01	土師器	杯	5区	SD46上層	口縁部 1/12	13.4	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	にぶい黄橙 7.5YR7/4
169	024－08	土師器	杯	5区	SD46上層	高台部 1/12	－	19.2	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	浅黄橙 7.5YR8/3
170	027－01	土師器	杯	5区	SD46上層	口縁部 2/12	13.9	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 7.5YR8/4
171	026－04	土師器	杯	5区	SD46上層	全体 10/12	15.8	－	3.2	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	灰黄褐 10YR5/2
172	026－05	土師器	椀	5区	SD46上層	全体 1/12	16.2	－	4.0	内：ナデ 外：ナデ	密	－	橙 5YR7/6
173	026－01	土師器	甕	5区	SD46上層	口縁部 1/12	17.0	－	－	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	密	－	浅黄橙 7.5YR8/4
174	026－02	ロクロ土師器	皿	5区	SD46上層	全体 11/12	8.2	1.4	4.2	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	－	橙 5YR7/6
175	026－03	ロクロ土師器	皿	5区	SD46上層	底部 12/12	－	5.3	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
176	025－02	山茶椀	椀	5区	SD46上層	口縁部 2/12	17.4	－	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰白 2.5Y7/1
177	025－05	山茶椀	椀	5区	SD46上層	高台部 3/12	－	7.6	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰白 N8/0
178	025－04	山茶椀	椀	5区	SD46上層	高台部 6/12	－	7.0	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰白 N8/0
179	025－06	山茶椀	椀	5区	SD46上層	全体 2/12	10.8	5.0	3.5	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰白 2.5Y8/1
180	048－01	鉄製品	釘	5区	SD46上層	完存	長さ：5.1	幅：0.4	高さ：0.4	－	－	－	－

第６表　出土遺物観察表⑤

NO	実測番号	種類	器種	調査区	遺構層位	部位残存度	法量（cm）			技法・文様の特徴	胎土	焼成	色調（外面）
							口径	底径･高台径	器高				
181	031－05	山茶椀	椀	5区	SD46中層	高台部 3/12	－	7.2	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰白 2.5Y7/1
182	017－04	土師器	皿	5区	SD46下層	口縁部 1/12	8.0	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/3
183	018－06	土師器	皿	5区	SD46下層	全体 3/12	7.8	－	1.5	内：ナデ 外：ナデ	密	－	橙 2.5Y7/6
184	024－02	土師器	皿	5区	SD46下層	口縁部 2/12	7.6	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	灰白 2.5Y8/1
185	022－04	土師器	皿	5区	SD46下層	全体 1/12	8.2	－	1.2	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 7.5YR8/4
186	016－05	土師器	皿	5区	SD46下層	口縁部 2/12	8.2	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	にぶい橙 7.5YR7/4
187	022－05	土師器	皿	5区	SD46下層	全体 3/12	8.4	－	1.1	内：ナデ 外：ナデ	密	－	灰白 10YR8/2
188	021－04	土師器	皿	5区	SD46下層	口縁部 1/12	8.0	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい黄橙 10YR6/4
189	020－08	土師器	皿	5区	SD46下層	全体 4/12	8.6	－	1.4	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	灰白 10YR8/2
190	020－07	土師器	皿	5区	SD46下層	全体 8/12	8.6	－	1.5	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/3
191	020－05	土師器	皿	5区	SD46下層	完存	8.7	－	1.5	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/3
192	020－06	土師器	皿	5区	SD46下層	完存	8.5	－	1.5	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/4
193	017－02	土師器	皿	5区	SD46下層	全体 3/12	9.2	－	1.3	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	灰白 10YR8/2
194	024－03	土師器	皿	5区	SD46下層	全体 2/12	9.4	－	1.4	内：ナデ 外：ナデ	密	－	にぶい橙 7.5YR7/4
195	022－08	土師器	皿	5区	SD46下層	口縁部 1/12	9.6	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
196	023－03	土師器	皿	5区	SD46下層	全体 2/12	11.2	－	1.8	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	黄灰 2.5Y4/1
197	016－04	土師器	皿	5区	SD46下層	口縁部 2/12	13.0	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	にぶい橙 7.5YR7/4
198	023－06	土師器	皿	5区	SD46下層	全体 2/12	12.8	－	2.0	内：ナデ 外：ナデ	密	－	灰黄褐 10YR6/2
199	024－01	土師器	皿	5区	SD46下層	口縁部 4/12	14.6	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/2
200	021－07	土師器	皿	5区	SD46下層	口縁部 2/12	15.8	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	橙 5YR7/6
201	024－07	土師器	皿	5区	SD46下層	全体 1/12	15.8	－	2.1	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	灰白 2.5Y7/1
202	024－06	土師器	皿	5区	SD46下層	口縁部 1/12	16.8	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい橙 7.5YR7/4
203	023－02	土師器	杯	5区	SD46下層	全体 2/12	10.5	－	1.9	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	灰白 10YR8/2
204	024－05	土師器	杯	5区	SD46下層	口縁部 1/12	11.6	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	灰褐 7.5YR6/2
205	023－08	土師器	杯	5区	SD46下層	口縁部 1/12	11.8	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	黄灰 2.5Y6/1
206	023－05	土師器	杯	5区	SD46下層	口縁部 2/12	13.6	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
207	024－04	土師器	杯	5区	SD46下層	口縁部 1/12	13.4	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい橙 7.5YR7/4
208	018－01	土師器	杯	5区	SD46下層	口縁部 3/12	14.4	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/3
209	016－07	土師器	杯	5区	SD46下層	口縁部 3/12	13.6	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい橙 7.5YR7/4
210	023－07	土師器	杯	5区	SD46下層	口縁部 4/12	13.8	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	黄灰 2.5Y4/1
211	019－05	土師器	杯	5区	SD46下層	全体 9/12	13.5	－	2.8	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	灰白 10YR8/2
212	023－04	土師器	杯	5区	SD46下層	口縁部 2/12	14.0	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
213	019－01	土師器	杯	5区	SD46下層	完存	14.7	－	3.3	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 7.5Y8/4
214	019－02	土師器	杯	5区	SD46下層	全体 10/12	14.6	－	3.2	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
215	021－03	土師器	杯	5区	SD46下層	口縁部 2/12	14.2	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい黄橙 10YR6/4
216	020－01	土師器	杯	5区	SD46下層	口縁部 4/12	15.0	－	－	内：工具ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/4
217	020－02	土師器	杯	5区	SD46下層	口縁部 2/12	15.0	－	－	内：工具ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/4
218	019－04	土師器	杯	5区	SD46下層	全体 7/12	15.1	－	3.3	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
219	019－03	土師器	杯	5区	SD46下層	口縁部 6/12	15.1	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	灰白 10YR8/2
220	020－04	土師器	杯	5区	SD46下層	口縁部 4/12	15.5	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	灰黄褐 10YR6/2
221	020－03	土師器	杯	5区	SD46下層	全体 2/12	16.0	－	3.1	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい橙 7.5YR7/4
222	022－06	土師器	杯	5区	SD46下層	口縁部 2/12	17.4	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
223	021－01	土師器	甕	5区	SD46下層	口縁部 4/12	16.8	－	－	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	密	－	にぶい黄橙 10YR6/4
224	021－02	土師器	甕	5区	SD46下層	口縁部 1/12	17.0	－	－	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	密	－	にぶい黄橙 10YR5/3
225	019－06	ロクロ土師器	皿	5区	SD46下層	全体 10/12	15.6	6.4	3.5	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	－	浅黄橙 7.5Y8/4

第７表　出土遺物観察表⑥

NO	実測番号	種類	器種	調査区	遺構層位	部位残存度	法量（cm）			技法・文様の特徴	胎土	焼成	色調（外面）
							口径	底径･高台径	器高				
226	021－08	須恵器	壺	5区	SD46下層	口縁部 1/12	25.0	－	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰白 N7/0
227	025－01	山茶椀	椀	5区	SD46下層	全体 9/12	16.4	8.2	5.5	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰白 2.5Y7/1
228	025－03	山茶椀	椀	5区	SD46下層	高台部 6/12	－	8.4	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰白 2.5Y7/2
229	023－01	山茶椀	椀	5区	SD46下層	高台部 5/12	－	6.8	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰白 7.5Y8/1
230	021－06	山茶椀	椀	5区	SD46下層	高台部 3/12	－	7.0	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰白 5Y7/1
231	021－05	山茶椀	椀	5区	SD46下層	高台部 4/12	－	7.2	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰白 2.5Y7/2
232	020－09	白磁	椀	5区	SD46下層	高台部 12/12	－	6.8	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰白 N8/0
233	029－08	土師器	甕	5区	SD51	口縁部 2/12	9.8	－	－	内：ナデ 外：ハケ	密	－	橙 5YR6/6
234	015－07	土師器	杯	5区	SD58	口縁部 2/12	12.8	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	灰白 2.5Y8/2
235	016－01	土師器	甑	5区	SD58	口縁部片	－	－	－	内：工具ナデ 外：ユビオサエ、ナデ	密	－	にぶい黄橙 10YR6/3
236	007－07	土師器	皿	1区	Pit3	口縁部 1/12	8.2	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
237	004－03	土師器	皿	1区	Pit7	全体 9/12	8.4	－	1.7	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	淡橙 5YR8/4
238	003－03	土師器	皿	1区	Pit7	全体 6/12	9.5	－	1.4	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
239	003－01	土師器	皿	1区	Pit7	全体 2/12	10.6	－	1.0	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/4
240	004－05	ロクロ土師器	皿	1区	Pit7	全体 5/12	8.4	4.6	1.8	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	－	灰白 10YR8/2
241	003－04	ロクロ土師器	皿	1区	Pit7	高台部 9/12	－	4.8	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	－	浅黄橙 7.5Y8/4
242	004－02	土師器	甕	1区	Pit7	口縁部 4/12	17.4	－	－	内：ナデ、ユビオサエ 外：ナデ	密	－	浅黄橙 7.5YR8/3
243	004－01	灰釉陶器	皿	1区	Pit13	口縁部 1/12	14.4	－	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰白 7.5Y8/1
244	002－01	土師器	皿	2区	Pit2	口縁部 1/12	15.8	－	1.5	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/4
245	002－04	土師器	皿	2区	Pit3	全体 1/12	8.6	－	1.0	内：ナデ 外：ナデ	密	－	淡黄 2.5Y8/4
246	002－02	陶器	鉢	2区	Pit4	高台部 1/12	－	19.4	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰白 2.5Y7/1
247	007－08	土師器	皿	3区	Pit2	全体 4/12	10.8	－	2.1	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
248	001－03	土師器	皿	3区	Pit3	口縁部 1/12	10.8	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
249	007－06	土師器	皿	3区	Pit3	口縁部 1/12	11.8	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
250	007－05	土師器	杯	3区	Pit5	口縁部 1/12	12.0	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
251	007－04	土師器	甕	3区	Pit9	口縁部片	－	－	－	内：ナデ 外：ハケ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
252	007－03	土師器	皿	3区	Pit12	全体 3/12	8.8	－	1.8	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
253	007－02	土師器	皿	3区	Pit16	全体 1/12	9.8	－	1.5	内：ナデ 外：ナデ	密	－	浅黄橙 10YR8/4
254	007－01	土師器	皿	3区	Pit17	全体 2/12	8.8	－	1.5	内：ナデ 外：ナデ	密	－	浅黄橙 7.5Y8/4
255	006－08	土師器	皿	3区	Pit17	全体 1/12	8.8	－	1.3	内：ナデ 外：ナデ	密	－	黄橙 10YR8/6
256	006－07	土師器	皿	3区	Pit17	全体 2/12	9.0	－	1.3	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	黄橙 10YR8/6
257	003－02	土師器	皿	3区	Pit17	全体 1/12	10.0	－	1.7	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	灰白 2.5Y8/2
258	002－05	土師器	皿	3区	Pit17	全体 2/12	10.6	－	1.5	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/4
259	006－06	土師器	皿	3区	Pit20	口縁部 1/12	12.6	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	橙 7.5YR7/6
260	006－03	土師器	皿	3区	Pit25	全体 1/12	9.0	－	1.2	内：ナデ 外：ナデ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
261	006－02	ロクロ土師器	椀	3区	Pit25	高台部 4/12	－	5.8	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	－	灰白 10YR8/2
262	006－01	ロクロ土師器	台付皿	3区	Pit25	口縁部 1/12	9.8	－	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	－	灰白 10YR8/2
263	005－08	土師器	杯	3区	Pit26	口縁部 1/12	15.1	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	浅黄橙 7.5Y8/4
264	005－07	土師器	皿	3区	Pit27	全体 2/12	8.6	－	1.2	内：ナデ 外：ナデ	密	－	浅黄橙 7.5Y8/4
265	005－01	灰釉陶器	壺	3区	Pit30	口縁部 1/12	16.4	－	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	－	灰白 5Y8/1
266	005－06	土師器	杯	3区	Pit35	口縁部 1/12	13.9	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	橙 5YR7/6
267	005－05	土師器	甕	3区	Pit35	口縁部片	－	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	浅黄橙 10YR8/4
268	005－02	土師器	皿	3区	Pit37	全体 2/12	10.6	－	2.4	内：ナデ 外：ナデ、ユビオサエ	密	－	灰黄褐 10YR5/2
269	008－01	灰釉陶器	耳皿	4区	Pit2	底部 12/12	－	4.8	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰黄褐 10YR4/2
270	008－02	土師器	台付皿	4区	Pit4	台部 12/12	－	6.7	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/4

第８表　出土遺物観察表⑦

NO	実測番号	種類	器種	調査区	遺構層位	部位残存度	法量（cm）			技法・文様の特徴	胎土	焼成	色調（外面）
							口径	底径･高台径	器高				
271	008－03	土師器	杯	4区	Pit9	口縁部 1/12	13.8	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/3
272	008－04	土師器	杯	4区	Pit12	口縁部 1/12	12.0	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/4
273	008－05	土師器	杯	4区	Pit13	口縁部 3/12	11.6	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
274	008－06	土師器	甕	4区	Pit16	口縁部片	－	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	灰白 10YR8/2
275	010－01	土師器	皿	5区	Pit1	口縁部 1/12	12.8	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
276	010－04	土師器	皿	5区	Pit2	全体 2/12	8.2	－	1.1	内：ナデ 外：ナデ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
277	010－02	土師器	皿	5区	Pit2	全体 1/12	9.6	－	1.1	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい橙 7.5YR7/4
278	010－03	土師器	皿	5区	Pit2	全体 1/12	10.2	－	1.5	内：ナデ 外：ナデ	密	－	浅黄橙 7.5Y8/4
279	010－06	土師器	皿	5区	Pit2	全体 2/12	14.8	－	2.4	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	橙 5YR7/6
280	010－05	土師器	皿	5区	Pit2	口縁部 1/12	15.9	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	浅黄橙 7.5Y8/4
281	010－07	ロクロ土師器	皿	5区	Pit9	全体 1/12	10.8	5.0	2.6	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	－	浅黄橙 7.5Y8/4
282	010－09	土師器	皿	5区	Pit10	口縁部 1/12	9.0	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	灰白 10YR8/2
283	010－08	土師器	杯	5区	Pit10	口縁部 1/12	15.6	－	－	内：工具ナデ　外：ナデ	密	－	浅黄橙 7.5Y8/4
284	011－02	弥生土器	細頸壺	5区	Pit12	口縁部 2/12	6.9	－	－	内：ナデ 外：簾状文	密	－	にぶい黄橙 10YR7/4
285	011－04	土師器	皿	5区	Pit12	口縁部 1/12	8.2	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
286	011－03	土師器	皿	5区	Pit12	口縁部 1/12	9.0	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	橙 5YR7/6
287	011－01	山茶椀	椀	5区	Pit12	口縁部 1/12	15.2	－	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰白 2.5Y7/1
288	011－05	山茶椀	椀	5区	Pit19	口縁部 1/12	15.4	－	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰白 N8/0
289	011－06	土師器	皿	5区	Pit20	全体 5/12	7.2	－	1.3	内：ナデ 外：ナデ	密	－	浅黄橙 7.5Y8/4
290	011－07	山茶椀	椀	5区	Pit22	高台部 3/12	－	6.8	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰白 2.5Y8/1
291	011－08	土師器	皿	5区	Pit25	完存	8.1	－	1.8	内：ナデ 外：ナデ	密	－	灰白 10YR8/2
292	004－04	土師器	皿	1区	包含層	全体 1/12	6.4	－	1.2	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 7.5YR8/4
293	003－05	土師器	皿	1区	包含層	全体 3/12	8.6	－	1.2	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 7.5YR8/4
294	001－07	土師器	皿	3区	包含層	口縁部 1/12	12.6	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/4
295	002－03	土師器	皿	3区	包含層	全体 1/12	14.4	－	1.7	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	橙 5YR7/6
296	001－05	土師器	杯	3区	包含層	口縁部 1/12	16.2	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	橙 5YR7/8
297	001－04	灰釉陶器	椀	3区	包含層	高台部 2/12	－	7.2	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰黄 2.5Y7/2
298	008－08	土師器	皿	4区	包含層	全体 2/12	10.4	－	2.2	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/3
299	008－09	土師器	甕	4区	包含層	口縁部片	－	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	にぶい黄橙 10YR6/4
300	008－07	土師器	甕	4区	包含層	口縁部 1/12	29.8	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/4
301	009－07	土師器	杯	5区	包含層	全体 1/12	8.6	－	1.8	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい黄橙 10YR6/3
302	012－03	土師器	杯	5区	包含層	全体 3/12	8.8	－	2.0	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
303	012－04	土師器	杯	5区	包含層	口縁部 1/12	9.8	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 7.5YR8/4
304	009－03	土師器	杯	5区	包含層	口縁部 2/12	17.8	－	－	内：ナデ 外：ナデ	密	－	橙 7.5Y7/6
305	009－02	土師器	椀	5区	包含層	口縁部 2/12	13.0	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	にぶい黄橙 10YR7/3
306	012－02	土師器	椀	5区	包含層	口縁部 1/12	14.8	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
307	009－06	土師器	椀	5区	包含層	口縁部 4/12	14.0	－	－	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
308	009－04	土師器	杯	5区	包含層	全体 2/12	16.8	－	4.2	内：ナデ 外：ヨコナデ、ユビオサエ	密	－	橙 7.5YR6/6
309	009－08	ロクロ土師器	皿	5区	包含層	全体 4/12	9.4	5.3	1.5	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	－	橙 7.5YR6/6
310	009－01	土師器	甕	5区	包含層	口縁部 1/12	35.4	－	－	内：工具ナデ 外：ハケ、ナデ	密	－	浅黄橙 10YR8/3
311	009－05	土師器	甕	5区	包含層	口縁部 1/12	12.6	－	－	内：工具ナデ 外：工具ナデ	密	－	灰白 2.5Y8/2
312	012－01	山茶椀	椀	5区	包含層	高台部 11/12	－	4.5	－	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	－	灰白 2.5Y7/1
313	012－05	瓦	平瓦	5区	包含層	－	－	－	－	布目、縄目、ケズリ	密	良	灰白 2.5Y8/2

Ⅴ　上黒土遺跡出土鉄滓の分析調査

１　いきさつ

上黒土遺跡は三重県度会郡玉城町山岡に所在する。発掘調査地区（2区SK04）から、鉄滓が出土している。この鉄滓がどのような作業に伴う遺物か検討するため調査を実施した。

２　調査方法

２－１．供試材

Table1に示す。出土鉄滓1点の調査を実施した。

２－２．調査項目

（１）外観観察

鉄滓の外観的な特徴を記載した。

（２）マクロ組織

試料を端部から切り出した後、断面をエメリー研磨紙の#150、#240、#320、#600、#1000、及びダイヤモンド粒子の3μmと1μmで順を追って研磨し、断面の全体像を撮影した。

（３）顕微鏡組織

光学顕微鏡で試料断面を観察した後、特徴的・代表的な視野を選択して写真を撮影した。

（４）ビッカース断面硬度

ビッカース断面硬度計(Vickers Hardness Tester)を用いて硬さの測定を行った。試料は顕微鏡用を併用し、荷重50gfで測定した。ビッカース硬さは測定箇所に圧子（136°の頂角をもったダイヤモンド）を押し込んだ時の荷重と、それにより残された窪み（圧痕）の対角線長さから求めた表面積から算出される。

（５）EPMA調査

EPMA（日本電子製㈱ JXA-8230）を用いて、鉄滓の鉱物組成を調査した。測定条件は以下の通りである。加速電圧：15kV、照射電流（分析電流）：2.00E-8A。

（６）化学組成分析

出土鉄滓の化学成分分析を行った。測定元素と分析法は以下の通りである。

全鉄分（Total Fe）、金属鉄（Metallic Fe）、酸化第一鉄（FeO）：容量法。

炭素（C）、硫黄（S）：燃焼容量法、燃焼赤外吸収法。

二酸化硅素（SiO_2）、酸化アルミニウム（Al_2O_3）、酸化カルシウム（CaO）、酸化マグネシウム（MgO）、酸化カリウム（K_2O）、酸化ナトリウム（Na_2O）、酸化マンガン（MnO）、二酸化チタン（TiO_2）、酸化クロム（Cr_2O_3）、五酸化燐（P_2O_5）、バナジウム（V）、銅（Cu）、二酸化ジルコニウム（ZrO_2）：ICP（Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer）法：誘導結合プラズマ発光分光分析。

３　調査結果

KMK－1：椀形鍛冶滓

（１）外観観察：ごく小形で偏平な椀形鍛冶滓（33.7g）の破片である。表面には黄褐色の土砂や茶褐色の鉄錆が付着する。着磁性はあるが、金属探知器反応はなく、まとまった鉄部はみられない。側面１面は破面で、気孔は少なく緻密である。下面は木炭痕による細かい凹凸がみられる。

（２）マクロ組織：第26図①に示す。表面に薄く不定形の銹化鉄（青灰色部）が確認された。一方、中央の明灰色部は鍛冶滓で、発達したウスタイト（Wustite：FeO）結晶が凝集して晶出する。

（３）顕微鏡組織：第26図②③に示す。②の青灰色部は銹化鉄である。断面には微かに層状のパーライト（Perarlite）組織の痕跡が残存する。この箇所は炭素量0.1～0.2%程度の軟鉄（低炭素鋼）であったと推測される。③の微小明白色部は金属鉄である。また素地は鍛冶滓で、発達した白色粒状結晶ウスタイト（Wustite：FeO）が晶出する。

（４）ビッカース断面硬度：第26図③の白色粒状結晶の硬度を測定した。硬度値は415、446Hvであった。ウスタイトの文献硬度値（約450～500Hv）と比較すると、若干軟質であるが、結晶の色調と形状および後述のEPMAによる定性・定量分析結果から、ウスタイトと推測される[1)]。

（５）EPMA調査：第26図④に滓部の反射電子像（COMP）を示す。滓中の微小明白色粒は、特性X線像

では鉄(Fe）にのみ強い反応がある。定量分析値は101.1%Fe（分析点１）であった。金属鉄である。白色粒状結晶は鉄（Fe)、酸素（O）に強い反応がみられる。定量分析値は97.6%FeO（分析点２）であった。ウスタイト（Wustite：FeO）と推定される。またその周囲の微細な淡灰色結晶は特性X線像では鉄（Fe)、珪素（Si)、酸素（O）に、素地の暗灰色部は珪素(Si)、アルミニウム（Al)、カルシウム（Ca)、カリウム（K)、酸素（O）に反応がある。定量分析値は前者が47.8%FeO－32.5%SiO_2－5.4%Al_2O_3－5.6%CaO－1.3%MgO－3.1%K_2O－1.6%Na_2O（分析点３)、後者は40.4%SiO_2－12.3%Al_2O_3－9.1%CaO－7.1%K_2O－3.6%Na_2O－2.0%P_2O_5－23.2%FeO（分析点４）であった。淡灰色結晶が非常に微細なため、結晶と素地部分とがそれぞれの影響を受けた値となっているが、淡灰色結晶はファヤライト（Fayalite：2FeO･SiO_2)、素地部分は非晶質硅酸塩（ガラス質滓）と推定される。

（６）化学組成分析：表２に示す。全鉄分（Total Fe）の割合は57.14%と高めであった。このうち金属鉄（Metallic Fe）は0.27%、酸化第1鉄（FeO）が32.95%、酸化第2鉄（Fe_2O_3）44.69%の割合であった。造滓成分（SiO_2＋Al_2O_3＋CaO＋MgO＋K_2O＋Na_2O）10.85%と低めで、このうち塩基性成分（CaO＋MgO）も0.95%と低値であった。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は0.13%、バナジウム(V）が＜0.01%と低値であった。また酸化マンガン(MnO）も0.07%、銅（Cu）＜0.01%と低値であった。

４　まとめ

椀形鍛冶滓（KMK－1）は、熱間での鍛打加工に伴う鍛錬鍛冶滓であった。鉄酸化物の割合が高く、主に鉄素材の吹き減り（酸化に伴う損失）で生じたものと推定される。遺跡周辺で、鍛造鉄器の製作が行われたことを示す遺物といえる。

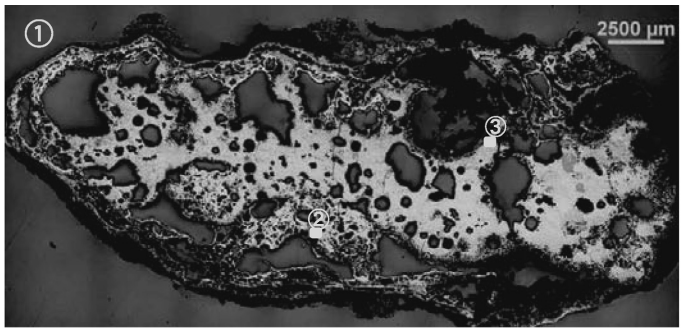
また滓中の銹化鉄には、部分的に亜共析(C＜0.77%)組織痕跡が残存する。この部分は0.1～0.2%程度の炭素量の軟鉄（低炭素鋼）であったと推測される。滓中で熱影響を受けて炭素量が変化した可能性も考慮する必要があるが、これが鍛冶原料の炭素量をそのまま示すものであれば、加工性が良く焼き入れ効果の小さい軟鉄材が材料であったと想定される。

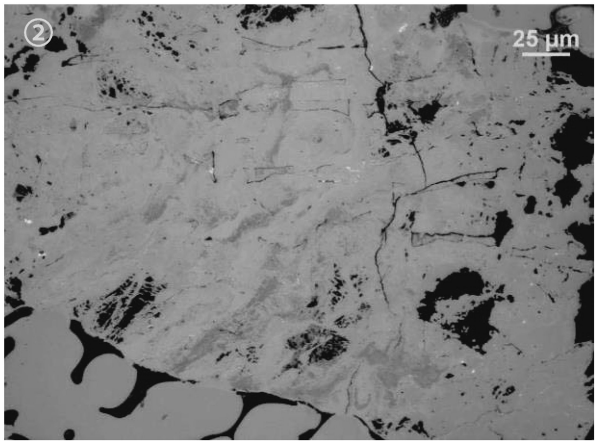
（日鉄住金テクノロジー（株）八幡事業所　鈴木瑞穂）

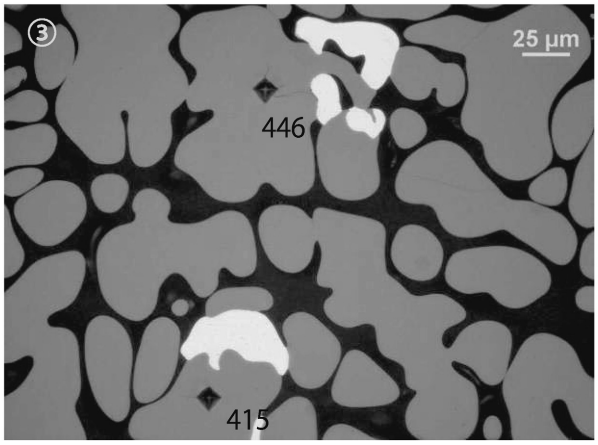
註

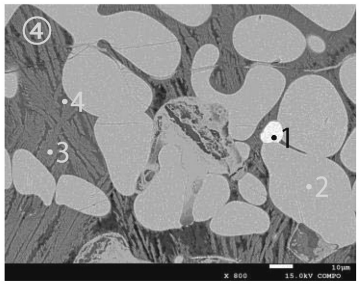
１）日刊工業新聞社『焼結鉱組織写真および識別法』1968 ウスタイトは約450～500Hv、マグネタイトは約500～600Hv、ファイヤライトは約600～700Hvの範囲が提示されている。

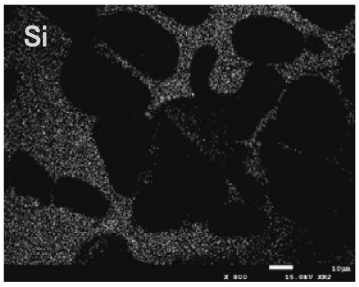
KMT-1
椀形鍛冶滓
①ﾏｸﾛ組織
②青灰色部：銹化鉄、亜共析組織痕跡
③滓部；ｳｽﾀｲﾄ、硬度:415、446Hv(50gf)
微小明白色粒:金属鉄

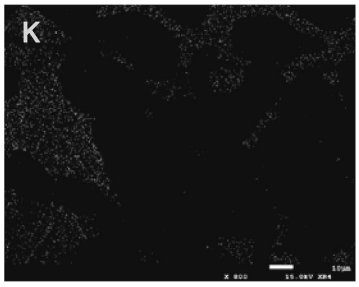


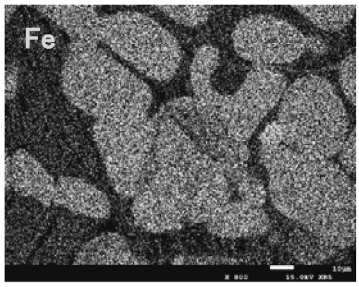


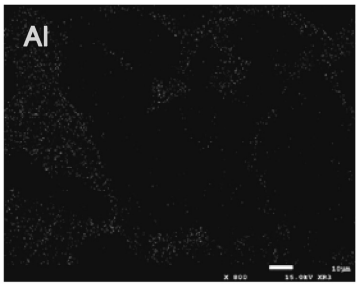


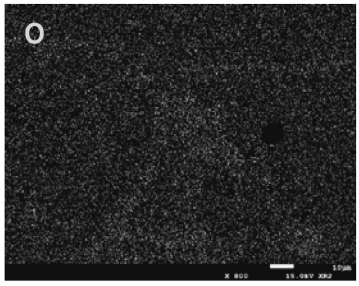


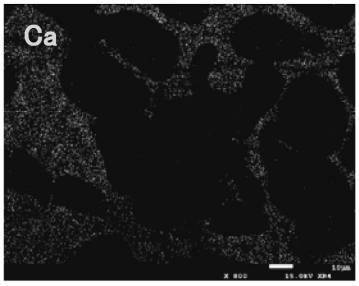












滓部の反射電子像（COMP）および特性X線像

定量分析値

Element	1
N	0.336
O	0.214
Si	0.015
Zr	0.019
P	0.004
Ti	0.015
Fe	101.050
Mn	0.031
Total	101.684

Element	2	3	4
MgO	0.502	1.291	0.125
SiO_2	0.188	32.517	40.373
SrO	–	0.295	0.493
Na_2O	–	1.617	3.612
Al_2O_3	0.233	5.425	12.342
CaO	–	5.595	9.106
TiO_2	0.251	0.212	0.458
S	–	0.019	0.203
ZrO_2	0.021	–	0.096
P_2O_5	0.003	0.897	2.044
K_2O	–	3.084	7.080
FeO	97.623	47.790	23.165
MnO	0.048	0.120	0.045
Cr_2O_3	0.006	–	0.017
V_2O_3	0.010	–	0.040
Total	98.885	98.862	99.199

第26図　椀形鍛冶滓の顕微鏡組織・EPMA調査結果

第９表　供試材の履歴と調査項目

符号	遺跡名	出土位置	遺物名称	推定年代	計測値		金属探知器反応	調査項目					備考
					大きさ(mm)	重量(g)		マクロ組織	顕微鏡組織	ﾋﾞｯｶｰｽ断面硬度	EPMA	化学分析	
KMK-1	上黒土	2区 SK04	椀形鍛冶滓	古代	51×33×16	33.7	なし	○	○	○	○	○	

第10表　供試材の化学組成

符号	遺跡名	出土位置	遺物名称	推定年代	全鉄分 (Total Fe)	金属鉄 (Metallic Fe)	酸化第１鉄 (FeO)	酸化第２鉄 (Fe_2O_3)	二酸化珪素* (SiO_2)	酸化ｱﾙﾐﾆｳﾑ* (Al_2O_3)	酸化ｶﾙｼｳﾑ* (CaO)	酸化ﾏｸﾞﾈｼｳﾑ* (MgO)	酸化ｶﾘｳﾑ* (K_2O)	酸化ﾅﾄﾘｳﾑ* (Na_2O)	酸化ﾏﾝｶﾞﾝ (MnO)	二酸化ﾁﾀﾝ (TiO_2)	酸化ｸﾛﾑ (Cr_2O_3)	硫黄 (S)	五酸化燐 (P_2O_5)	炭素 (C)	ﾊﾞﾅｼﾞｳﾑ (V)	銅 (Cu)	二酸化ｼﾞﾙｺﾆｳﾑ (ZrO_2)	造滓成分Σ*	造滓成分 / Total Fe	TiO_2 / Total Fe
KMK-1	上黒土	2区 SK04	椀形鍛冶滓	古代	57.14	0.27	32.95	44.69	7.40	2.22	0.62	0.33	0.20	0.08	0.07	0.13	0.03	0.102	0.36	0.83	<0.01	<0.01	<0.01	10.85	0.189884494	0.002275114

第11表　出土遺物の調査結果のまとめ

符号	遺跡名	出土位置	遺物名称	推定年代	顕微鏡組織	化学組成（%）								所見
						Total Fe	塩基性成分	TiO_2	V	MnO	造滓成分	ZrO_2	Cu	
KMK-1	上黒土	2区 SK04	椀形鍛冶滓	古代	滓部:W+F、銹化鉄部:亜共析組織痕跡	57.14	0.95	0.13	<0.01	0.07	10.85	<0.01	<0.01	鍛錬鍛冶滓〔鉄酸化物の割合が高く、主に鉄素材の吹き減り（酸化に伴う損失）で生じた滓〕

W:Wustite (FeO)、F:Fayalite ($2FeO \cdot SiO_2$)

Ⅵ　結　語

1　上黒土遺跡周辺の土地利用

（1）上黒土遺跡の遺構の年代

今回の発掘調査で上黒土遺跡では弥生時代から中世にかけての遺物が出土しており、複数の時期で生活の痕跡が確認された。また、特定の時期の遺物が多く出土する傾向があり、遺構の年代は大きく２つの時期に分けることができる。第Ⅰ期は８世紀後半から９世紀前葉にかけての時期、第Ⅱ期は11世紀から12世紀にかけての時期にあたる。

本節では、上黒土遺跡の時期による土地利用の変遷を確認するために、第Ⅰ期の遺構・第Ⅱ期の遺構について10ｍ四方（100㎡）における遺構数を示す（第27・28図）。

第Ⅰ期は、８世紀後半から９世紀前葉にかけての時期にあたる。遺構の分布は遺跡の南部に集中しており、汁谷川左岸の段丘縁辺に集落が形成されたものと思われる。これまでのところ、古代における汁谷川左岸の土地利用に関しては明確な遺構が確認されていなかったこともあり、その実態は不明であった。今回の調査で古代の遺構が確認されたことで、古代に土地利用されていたことが明らかになった。

第Ⅱ期は、11世紀から12世紀にかけての時期にあたる。遺跡の広範囲にわたり遺構が認められる。第１次調査で確認された区画溝や掘立柱立建物などの遺構もこの時期に相当し、上黒土遺跡において遺構・遺物が最も多い時期になる。

今回の調査で確認されたＳＢ22は棟方向が東に52度であり、第１次調査で確認された掘立柱建物２と棟方向を同一としている。第Ⅱ期には、棟方向を同一とする掘立柱建物群の集落があったことが想定される。

また、ＳＫ04から出土した鉄滓を分析したところ熱間での鍛打加工に伴う鍛錬鍛冶滓であることが分かった。鍛造鉄器の製作が行われていたことが明らかになった。

小社地区には、神宮祭主大中臣輔経の屋敷地があった可能性がある。大中臣輔経については、『二所太神宮例文』の祭主次第の項に「小社輔経」の記載があり、延久三（1071）年に祭主になり、永保元（1081）年に死去したと記されている[1)]。『二所太神宮例文』における神宮祭主の名前は伊勢国での拠点となる地域名を冠することから11世紀後半に現在の小社集落の周辺に屋敷地があったことが想定される。上黒土遺跡の北東に位置する小社遺跡からはやや時代が下るものの、鎌倉時代前期と考えられる掘立柱建物と溝、墓の可能性のある集石土坑が確認されている[2)]。上黒土遺跡で確認されている第Ⅱ期の遺構は、これら祭主の館の周辺に設けられた集落の可能性がある。

13世紀以降の遺物・遺構は希薄で、ＳＫ35においてわずかに14世紀中葉の土師器鍋が出土してはいるものの、遺物・遺構ともほとんど見られない。このことから、上黒土遺跡周辺は当該期の集落の中心部からは外れるものと考えられる。

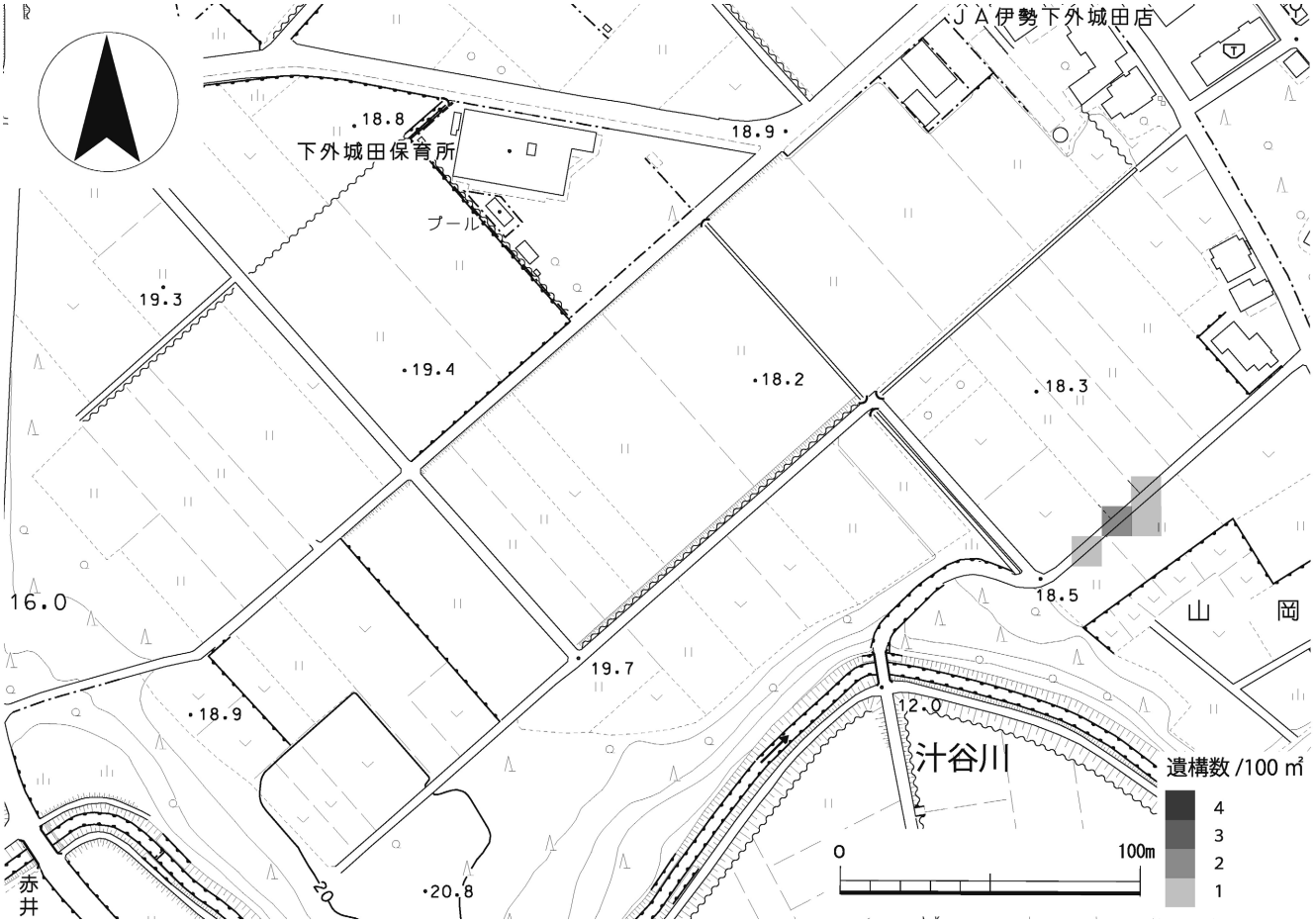
（2）汁谷川左岸における土地利用の変化

上黒土遺跡の北東に位置する小社遺跡では、弥生時代末から古墳時代初めにかけての竪穴建物が22棟確認されており、弥生時代末から古墳時代にかけての集落の中心は小社遺跡のあたりにあったものと考えられる。８世紀後半から９世紀前葉にかけては段丘縁辺に集落が形成され、11世紀から12世紀にかけては、上黒土遺跡から北東の小社遺跡にかけての広い範囲に集落が形成されたと考えられる。13世紀以降は、遺構が希薄となり集落の中心部からは外れるものと思われる。

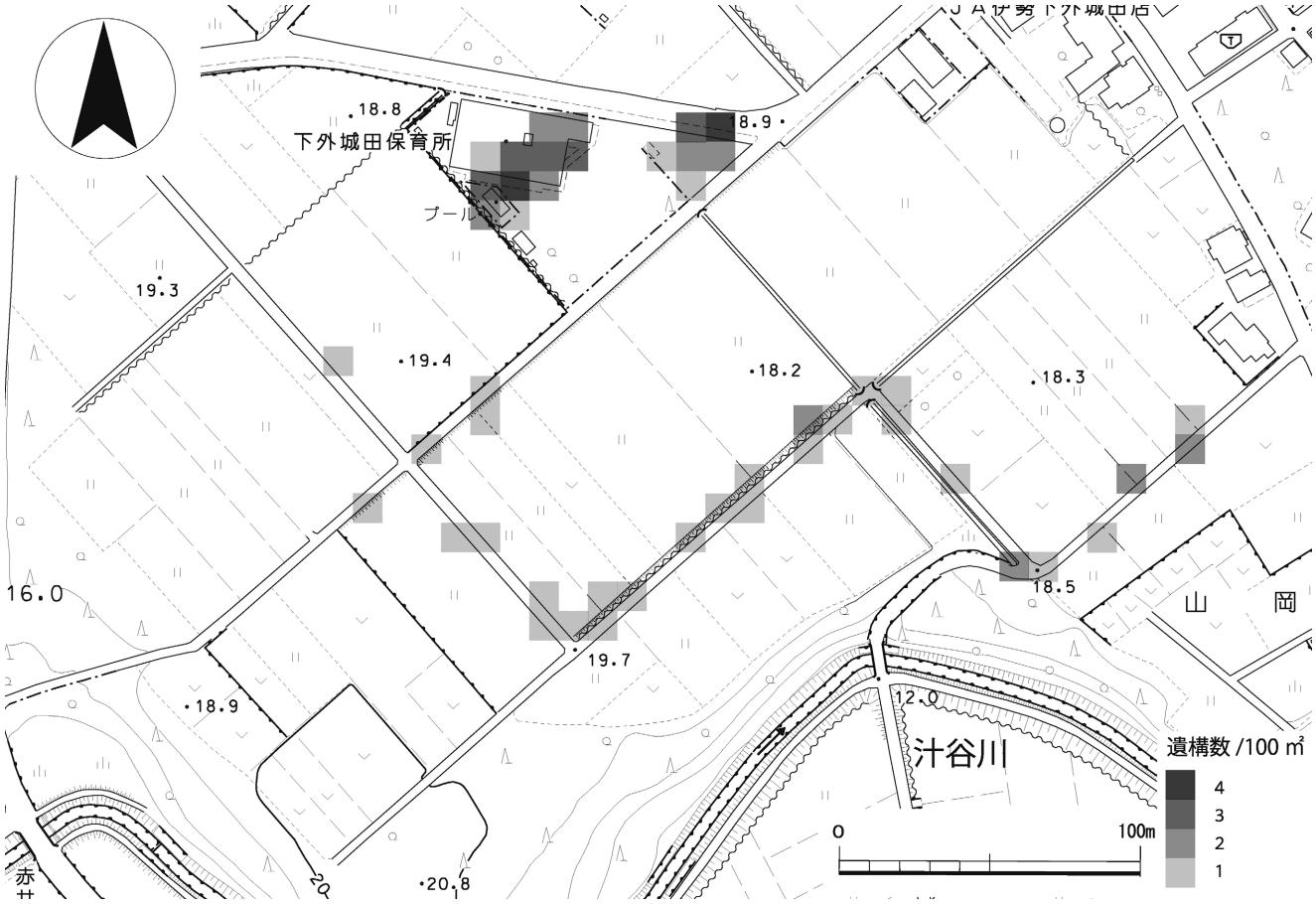
以上のように、上黒土遺跡を含む汁谷川左岸の段丘上は、弥生時代末から中世に至るまで時期ごとに利用する地点を変更しながら、生活が営まれて続けてきたことが明らかになった。

2　南勢地域の渥美焼流通

上黒土遺跡の発掘調査では、渥美焼の甕・広口壺が出土しており、上黒土遺跡を含む南勢地域[3)]にお



第27図　第Ⅰ期遺構分布図（1：2,500）



第28図　第Ⅱ期遺構分布図（1：2,500）

ける渥美焼の流通について考察することにより、遺跡の性格を考える上での一助になるものと考える。

渥美窯は、渥美半島の基部から先端部にかけて広く分布しており、12世紀前葉から13世紀後葉にかけて生産が行われ、壺・甕類は太平洋沿岸の地域に広く供給されていた。

南勢地域は、伊勢湾を隔て対岸に伊良湖岬を望むなど地理的に渥美半島と近接している地域である。また、渥美半島には、加治御薗や伊良湖御厨など神宮の所領もあり、伊勢市の朝熊山経塚や小町塚経塚などからは、これらの所領で生産された経筒・瓦経が出土するなど、密接な関係にあったものと考えられる。

南勢地域における渥美焼の流通については、これまで『三重県史』では、南勢・志摩地域における域外からの搬入品で中世Ⅰ～Ⅱ期（11世紀中頃～14世紀前葉）については壺・甕類は「知多産あるいは渥美産のものが主体である」としている[4]。また、『愛知県史』では、集落遺跡における渥美窯製品の出土は、「雲出川・櫛田川・宮川流域に集中する傾向がある」とし、「渥美窯製品が伊勢地域中南部に数多くもたらされていることは、両地域の強い結び付きをしめしていると考えられる」としている[5]。双方とも渥美焼の壺・甕類が南勢地域で多く出土することについて言及されている。その一方で具体的な出土遺跡の提示はされておらず、南勢地域内における流通について詳細な検討は行われていない。

そこで本節では、南勢地域においてこれまでに出土・採集されている渥美焼の壺・甕類を集成し、当該地域における渥美焼の流通について考察することとする。

南勢地域から出土する渥美焼の壺・甕類を集成したものが第12表になる。遺跡調査が進んでいる伊勢市域を中心に19遺跡からの出土が確認されている。

南勢地域における渥美焼壺・甕類の出土遺跡は主に３つの地域に分けることができる。大淀から宮川河口にかけての臨海地域（第29図１～７）、宮川流域地域（第29図８～17）、五十鈴川流域地域（第29図18・19）である。

臨海地域においては７遺跡から出土が確認されている。臨海地域は、渥美半島から運ばれた製品が最初に陸揚げされる地域であり、製品の流通は容易に行われたものと考えられる。

南勢地域の港湾としては、宮川河口の三角州に設けられた大湊が知られている。大湊は12世紀頃から各地にあった御厨・御薗からの貢租などを調進する伊勢神宮の外港として、さらに神宮奉仕者及び住民らの生活物資の取り扱い港として栄えた[6]。中世後期には、堺・大宰府とならび、当時の日本列島における主要な港湾として、神宮及び南勢地域の発展に寄与した。

上黒土遺跡を含む宮川流域地域は最も出土遺跡数が多く、10遺跡から出土が確認されている。宮川流域のこの地域では平安時代後期から室町時代にかけて、「岩出祭主」とよばれる神宮祭主の館があったとされ、祭主館やそれに関連する集落が形成されていたと考えられている。渥美焼の壺・甕類も宮川を利用した河川流通により、こうした内陸部の集落などに運ばれたものと考えられる。

内宮及び外宮周辺においては、平安時代から鎌倉時代にかけての遺跡の発見事例は少なく、その実態は不明な点が多い。わずかに伊勢市倭町の隠岡遺跡（第29図18）・同市中村町の宮後遺跡（第29図19）から渥美焼の壺・甕が出土している。周辺には五十鈴川が流れており、河川流通によってもたらされたか、または海岸からの距離は５㎞程度と近く、港に水揚げされた製品がそのまま流通した可能性も想定される。

本節では、壺・甕類に限定してその分布について検討を加えたが、渥美窯の主要な生産品であった山茶椀・鉢類を加えるとその数はさらに増加するものと思われる。

以上のように、南勢地域における渥美焼の流通は、伊勢湾を経由し、臨海部にもたらされ、内陸部へは宮川や五十鈴川などの河川を利用しもたらされたものと考えられる。

また、南勢地域でも内陸部や志摩国域では中世遺跡の調査が進展していないことから渥美焼の壺・甕類の出土・採集事例は見られない。これらの地域における出土・採集資料の増加により、さらに正確な流通の実態が判明するものと考える。

註

1）『三重県の地名』日本歴史地名体系24　平凡社　1983

2）『三重県　玉城町史』上巻　玉城町　1995

3）本稿における南勢地域は、現在の行政区分では伊勢市・大紀町・志摩市・玉城町・鳥羽市・南伊勢町・度会町とする。

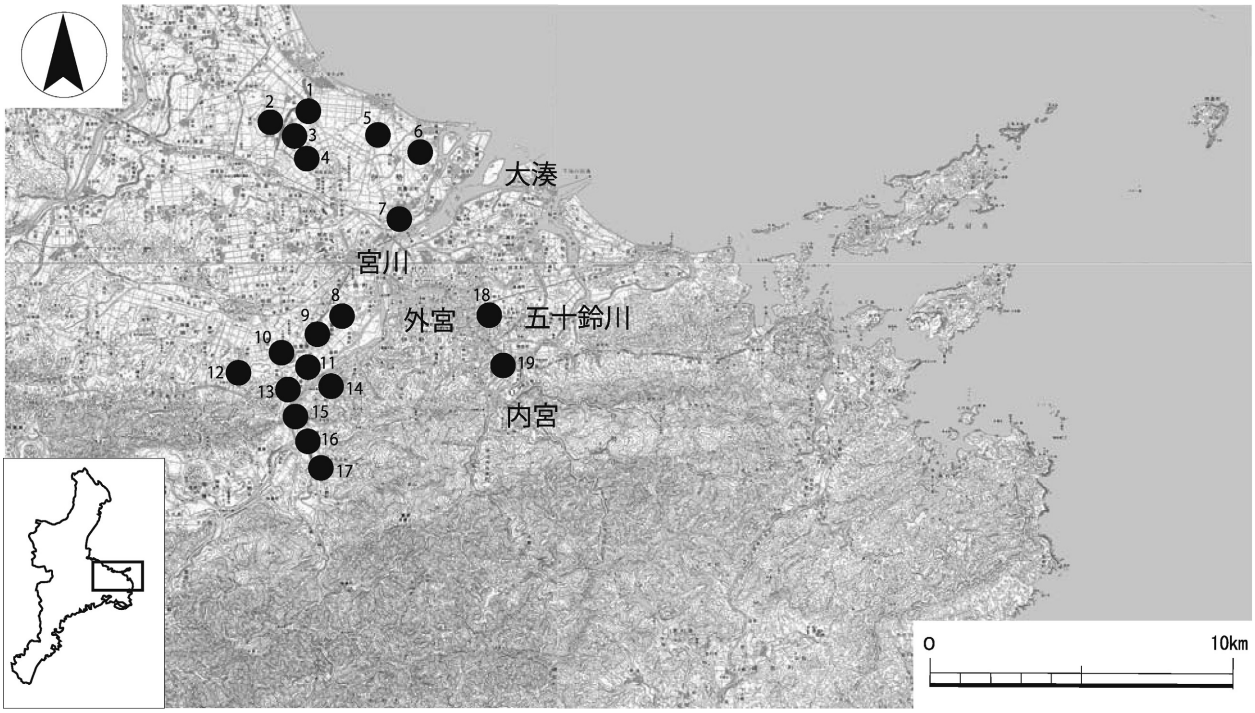
4）伊藤裕偉「南伊勢・志摩地域の中世土器」『三重県史』資料編考古２　三重県史編さん室　2008

5）中野晴久「第３章　消費遺跡解説　第１節　渥美窯製品」『愛知県史』別編窯業３　中世・近世　常滑系　2012

6）前掲註１）と同じ。

第12表　南勢地域における渥美焼壺・甕類出土遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	器種	参考文献
1	大塚遺跡	伊勢市柏町	甕	『伊勢市史』第６巻考古編　伊勢市　2011年
2	社前遺跡	伊勢市柏町	壺	『伊勢市史』第６巻考古編　伊勢市　2011年
3	脇ノ田遺跡	伊勢市柏町	甕	『伊勢市史』第６巻考古編　伊勢市　2011年
4	花野橋西遺跡	伊勢市柏町	壺	『伊勢市史』第６巻考古編　伊勢市　2011年
5	長野遺跡	伊勢市村松町	壺	『伊勢市史』第６巻考古編　伊勢市　2011年
6	松葉遺跡	伊勢市有滝町	壺	『伊勢市史』第６巻考古編　伊勢市　2011年
7	大藪遺跡	伊勢市磯町	壺	『南勢バイパス埋蔵文化財調査報告』建設省中部地方建設局　三重県教育委員会　1973年
8	一軒屋遺跡	伊勢市上地町	甕	『伊勢市史』第６巻考古編　伊勢市　2011年
9	汁谷川東遺跡	伊勢市粟野町	甕	『伊勢市史』第６巻考古編　伊勢市　2011年
10	上黒土遺跡	玉城町山岡	広口壺・甕	『上黒土遺跡（第２次）発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター　2018年
11	中ノ切遺跡	玉城町山岡	甕	『中ノ切遺跡発掘調査報告』玉城町教育委員会　玉城町遺跡調査会　2007年
12	出土地不明	玉城町宮古	広口壺	『玉城町南部の遺跡』　皇學館大學考古学研究会　1982年
13	岩出遺跡群	伊勢市岩出	壺・甕	『近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査報告―第６分冊―』三重県教育委員会　三重県埋蔵文化財センター　1993年 『岩出遺跡群（第５、７、８次）発掘委調査報告』三重県埋蔵文化財センター　2006年
14	中瀬中世墓	伊勢市佐八町	甕	『伊勢市史』第６巻考古編　伊勢市　2011年
15	中ノ垣外遺跡	伊勢市佐八町	壺・甕	『昭和58年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会　1984年
16	中新田遺跡	伊勢市津村町	壺	『中新田遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター　2007年
17	下沖遺跡	伊勢市上野町	広口壺	『南勢の考古資料１』研究紀要第17-２号　三重県埋蔵文化財センター　2008年
18	隠岡遺跡	伊勢市倭町	広口壺	『隠岡遺跡発掘調査報告』伊勢市教育委員会　1987年
19	宮後遺跡	伊勢市中村町	壺	『伊勢市史』第６巻考古編　伊勢市　2011年

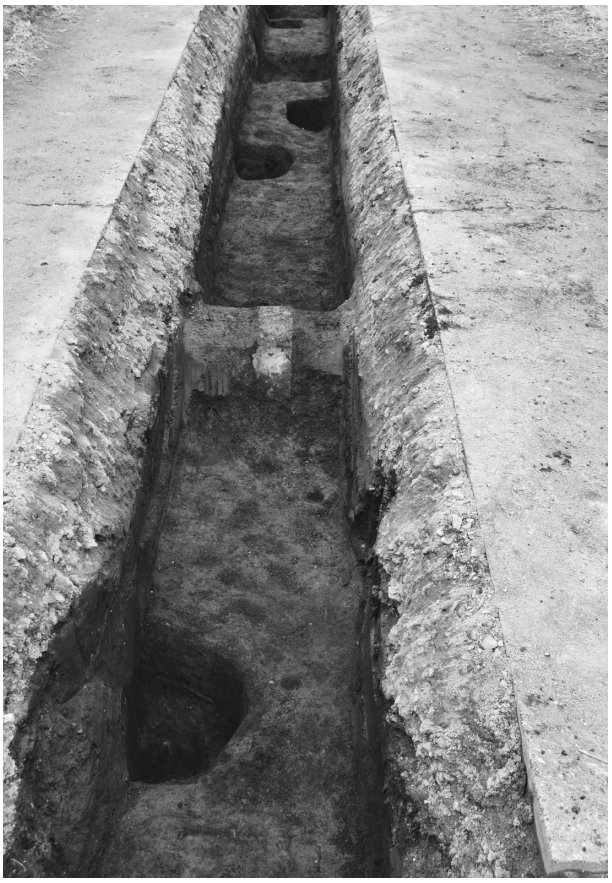


第29図　南勢地域における渥美焼出土遺跡分布図（1：250,000）

１区北側全景（北西から）

ＳＤ01（北から）

ＳＤ03（南東から）



１区南端（南東から）

２区全景（北東から）

ＳＫ04検出（南西から）

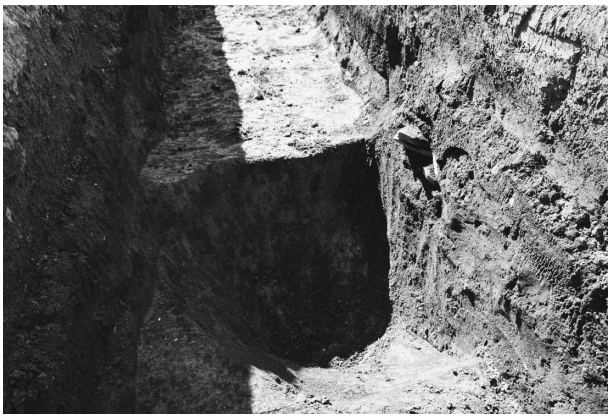
ＳＤ06（南東から）

ＳＫ04完掘（南東から）

ＳＤ06（北西から）

３区西端全景（北東から）

ＳＫ19（東から）



ＳＫ22（北東から）

ＳＫ20（北西から）

ＳＫ22土層（南東から）

３区東端全景（南西から）

ＳＢ24・Pit24根石（南東から）

ＳＢ24・Pit38根石（南西から）

ＳＤ25（北西から）

ＳＫ29集石土坑（北東から）

ＳＢ24・Pit22根石（南東から）

ＳＫ29完掘（南東から）

４区全景（北西から）

ＳＤ36土層（南西から）

ＳＫ40（東から）

ＳＫ35（南西から）

ＳＫ40土層（南東から）

ＳＫ36（南から）

ＳＫ41・42・43（北西から）

ＳＤ46土層（南東から）

ＳＫ45・ＳＤ46（北東から）

ＳＫ47（北東から）

ＳＫ48（東から）

５区全景（北東から）

ＳＫ49（北西から）

ＳＫ56（北西から）

ＳＫ50（南東から）

ＳＤ57（南東から）

21

29

25

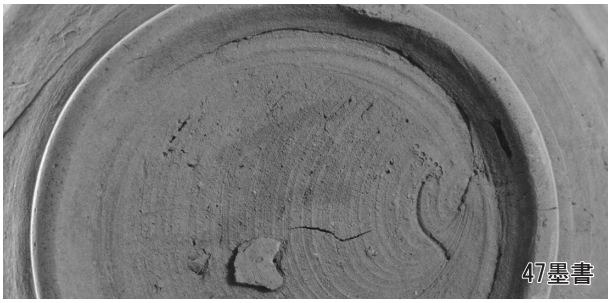
36

38

39

44

47


47墨書

56

60

69

88

89

91

95

96

105

106

144

154

171

174

180

186

191

192

211

213

214

216

218

219

221

225

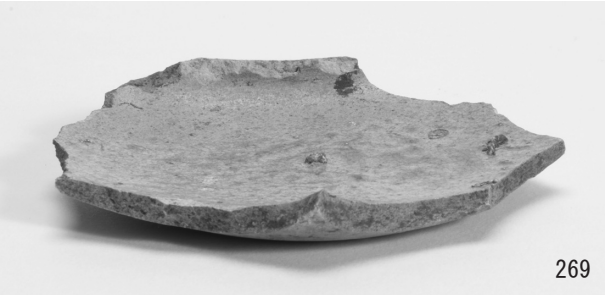
227

232

237

238

247


269

270

284

291

307

308

鉄滓

報 告 書 抄 録

ふ り が な	かみくろつちいせき（だい２じ）はっくつちょうさほうこく
書　　名	上黒土遺跡（第２次）発掘調査報告
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	３８５
編著者名	水谷侃司
編集機関	三重県埋蔵文化財センター
所 在 地	〒515-0325　三重県多気郡明和町竹川503　TEL 0596（52）1732
発行年月日	2019(平成31)年３月８日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
かみくろつちいせき 上黒土遺跡	みえけんわたらいぐんたまきちょう 三重県度会郡玉城町 やまおかあざかみくろつち 山岡字上黒土	461	273	34度 28分 30秒	136度 38分 52秒	2018/1/22 ～ 2018/2/28	655㎡	平成29年度特定農業用管水路等特別対策事業（城田・下外城田地区）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上黒土遺跡	集落跡	奈良時代 平安時代 鎌倉時代	掘立柱建物 土坑 溝	土師器 山茶椀 陶器 鉄製品	

要約

奈良時代末から平安時代初めにかけてと平安時代後期から鎌倉時代にかけての二時期の遺構・遺物が確認された。奈良時代末から平安時代初めにかけての遺構は、土坑・溝が確認された。遺物は土師器（皿・杯・甕・甑）・須恵器（杯・甕・瓶）などが出土した。平安時代後期から鎌倉時代にかけての遺構は、掘立柱建物・土坑・溝が確認された。遺物は土師器（皿・杯・甕）・ロクロ土師器・須恵器（長頸瓶・甕）・灰釉陶器・山茶椀・陶器・白磁・鉄製品・鉄滓などが出土した。

古代から中世にかけての汁谷川左岸台地上の土地利用は、奈良時代末から平安時代初めにかけては、段丘縁辺部に集落が形成され、平安時代後期から鎌倉時代にかけては、台地上の広範囲に集落域が拡大すると考えられる。

また、11世紀後半には、小社地区に神宮祭主の館が置かれていたとされ、上黒土遺跡で確認された遺構が神宮祭主館周辺の集落に関する可能性が想定される。

三重県埋蔵文化財調査報告３８５

上黒土遺跡（第２次）発掘調査報告
― 度会郡玉城町山岡 ―

2019（平成31）年３月８日

編集・発行　三重県埋蔵文化財センター
印　　刷　共立印刷株式会社